

Top

MESSAGE



トップメッセージ

日本ライフセービング界は、「日本ライフガード協会」「日本サーフライフセービング協会」組織統一の前身を含めれば、すでに半世紀を迎えることになる。

諸外国の歴史に比べればその歴史は必ずしも先進国とはいえないが、組織統一から法人組織までのこの20年間の事業展開や財務基盤の成長とスピードは目を見張るものがあった。

いずれも、ライフセービング活動は、1960年代初頭より「生命を救う」という使命をもった有志らによって、地道に引き継がれてきた実践の歴史なのである。

ここに、その積み重ねの記録を刻み、広く社会へ公開していく責任をもって、本アニュアルレポート発刊へと至った次第である。本レポートをまとめていく作業によって得たことは、これからも永続的、かつ創造的な前進を歩まなければならない社会貢献活動として認識できたことである。

そして、特定非営利活動法人として10年目を迎えるにあたって、その活動が自己満足（限られた者だけの利益）に陥っていないか等、あまねく多くの方々へ公開することによって監視・評価されてこそ、これからも持続可能な活動としての担保を得ることになるのであろう。

折々に重ねてきた実績（活動）は小さかったかもしれないが、いつ、どこで、どのような活動がなされたのかを知り、それが本部・支部・加盟クラブ、個人の活動へとつながり、全体としてライフセービング活動そのものが諸外国同様、文化として根付くことを希求するものである。

本アニュアルレポートは、国際ライフセービング連盟の日本代表機関として「水の事故ゼロ」を果たすものでなければならない。各理事・各委員長からは、その命題をもって多大なるご尽力を頂いた。そしてここに掲載された内容、及び数値全ては、現場で地道な実践者（ライフセーバー）一人ひとりの証であることを忘れてはならない。

ここに、ライフセービング界を代表し、その一人ひとりの使命と実践に、心からの敬意と感謝を申し上げ、限りなき誇りを刻むものである。

2010年3月

日本ライフセービング協会
理事長 小峯 力

A Message from the President

Lifesaving in Japan has a history spanning for more than 50 years, including our predecessor organizations, the Japan Life Guard Association (JLGA) and the Surf Life Saving Association of Japan (SLSAJ).

Though our history may not be as long as other nations, during the two decades from the "integration of the 2 organizations" to "corporation organization"(Non-profit Organization) our operation expansion, financial base's growth and speed has been amazing.

Lifesaving activity is a practical history which has been handed down continuously from the early 1960s from volunteers with passion and commitment to saving lives.

We have come today to release this annual report having the responsibility to widely disclose to the society the record of our activities over the years.

In the process of making this report, I have acknowledged lifesaving as a social activity that has to continuously and creatively step forward. Moreover, as we celebrate our tenth year as a nonprofit organization, I have come to see the significance of this report in a new light: as it discloses information about our activities to a broad range of people. It allows to monitor and assess our efforts and evaluate whether if it is not complacent. In this way, I believe that this review process can ensure the sustainability of our activities.

Our individual accomplishment might be small but to know when, where and what kind of activity has been done leads to the activity of the Association, branches, clubs and individuals, and I hope as lifesaving as a whole this roots as a culture in the society like other countries.

As the Japan representative of the International Life Saving Federation, it is important that this annual report must propel us towards the achievement of our goal of preventing accidents "0 Water Accidents". Commissioners and chairpersons of each committee have dedicated an enormous effort to our activities in order to pursue this mission. I also mark that the contents and figures that are noted in this report is a proof of every single lifesavers dedicated activity on the field.

Representing lifesaving in Japan, I would like to conclude by expressing my deepest respect and sincerest gratitude to everyone, for his/her appointment and action.

Tsutomu Komine
President
Japan Lifesaving Association

About LIFESAVERING



ライフセービングのポスター（オーストラリア）

We want lifesavers who can't swim.

「たとえ泳ぐことができなくてもライフセーバーになれる」

ライフセービング活動は、身体的ハンディのあるなしに関係なく、今ある機能を生かして、人を救い、守る可能性を否定しないというメッセージです。

ライフセービングとは

「LIFESAVING(以下、ライフセービング)」とは、“人命救助”を表す言葉として一般的に理解されています。救急救命士の欧文表記は「Emergency Lifesaving Technician」、または「Emergency Medical Technician」であるため、正確に言い表すのであれば、“救命”と訳すのがよいでしょう。

諸外国におけるライフセービングは、一次救命を本旨とした社会的活動であり、一般的には水辺の事故防止のための実践活動として認識されています。その活動にたずさわる存在は「LIFESAVER(以下、ライフセーバー)」と呼ばれ、社会的市民権を得ています。さらに、「LIFEGUARD(以下、ライフガード)」はプロフェッショナルな公務員として採用され、コーストガード(海上保安庁)、警察、消防といった公的救助組織と連携を図っています。

一方、わが国におけるライフセーバーは、有資格者を指すこともあります。

しかし、ライフセーバーは、ボランティア活動を基本とし、いわゆるプレホスピタルケア(病院前)の範囲において、自他の生命を尊重する社会貢献を展開するものであることから、誰でも参加できる活動です。たとえ泳げなかったり、身体的ハンディがあろうとも、社会奉仕と生命尊厳の精神に基づき、その活動は否定されるものではありません。

以上のように、ライフセービングは、「溺れた者を救う」という救助活動から、溺れない安心な環境をマネジメントすること、さらには日常生活の危機管理も含めて総合的に安全を提供できる活動として世界中で普及されています。

今日、日本では心肺停止状態の人を発見した場合、医療従事者でなくても、一般市民が自ら早期に体外式除細動器(AED)等を使用し心肺蘇生法を実施して人の生命を救う、バイスタンダーという概念の普及が叫ばれるようになりました。

まさに、そのバイスタンダーになり命を救う、さらには命を危険にさらさない(事前に守る)というライフセービング活動に大きな期待が寄せられています。

Outline of Organization

組織概要

国際ライフセービング連盟

ILS(International Life Saving Federation:国際ライフセービング連盟)はヨーロッパの国々が中心となって、1878年に組織された国際連盟FIS(Fédération International de Sauvetage Aquatic)と同様に環太平洋の国々が中心となって、1971年に組織されたWLS(World Life Saving)が1993年に統一して設立されたライフセービングの唯一の国際連盟です。加盟国は80カ国以上にのぼり、2年毎に開催される総会では、30万人といわれる水辺の事故を減らすための積極的な討議が行われています。

加盟・承認団体

IOC(国際オリンピック委員会)
GAISF(国際スポーツ競技連盟連合)
ARISF(IOC認定国際スポーツ組織連盟)
IWGA(国際ワールドゲームズ協会)
CISM(国際軍人スポーツ評議会)

関連団体

WHO(世界保健機関)
ICRC(赤十字国際委員会)
IFRC(国際赤十字・赤新月社連盟)

特別顧問

カール16世(スウェーデン国王)
モスタファ・マーサリム(イラン文部大臣)
チャールズ・ホーギー(元アイルランド首相)
ブライアン・マルルーニー(元カナダ首相)
デイブ・ウィリアムスMD(スペースエージェンシー)
ネルソン・マンデラ(元南アフリカ大統領)
ロバート・J・ホーク(元オーストラリア首相)
ジョン・メージャー(元イギリス首相)
マイケル・ロカルド(元フランス首相)

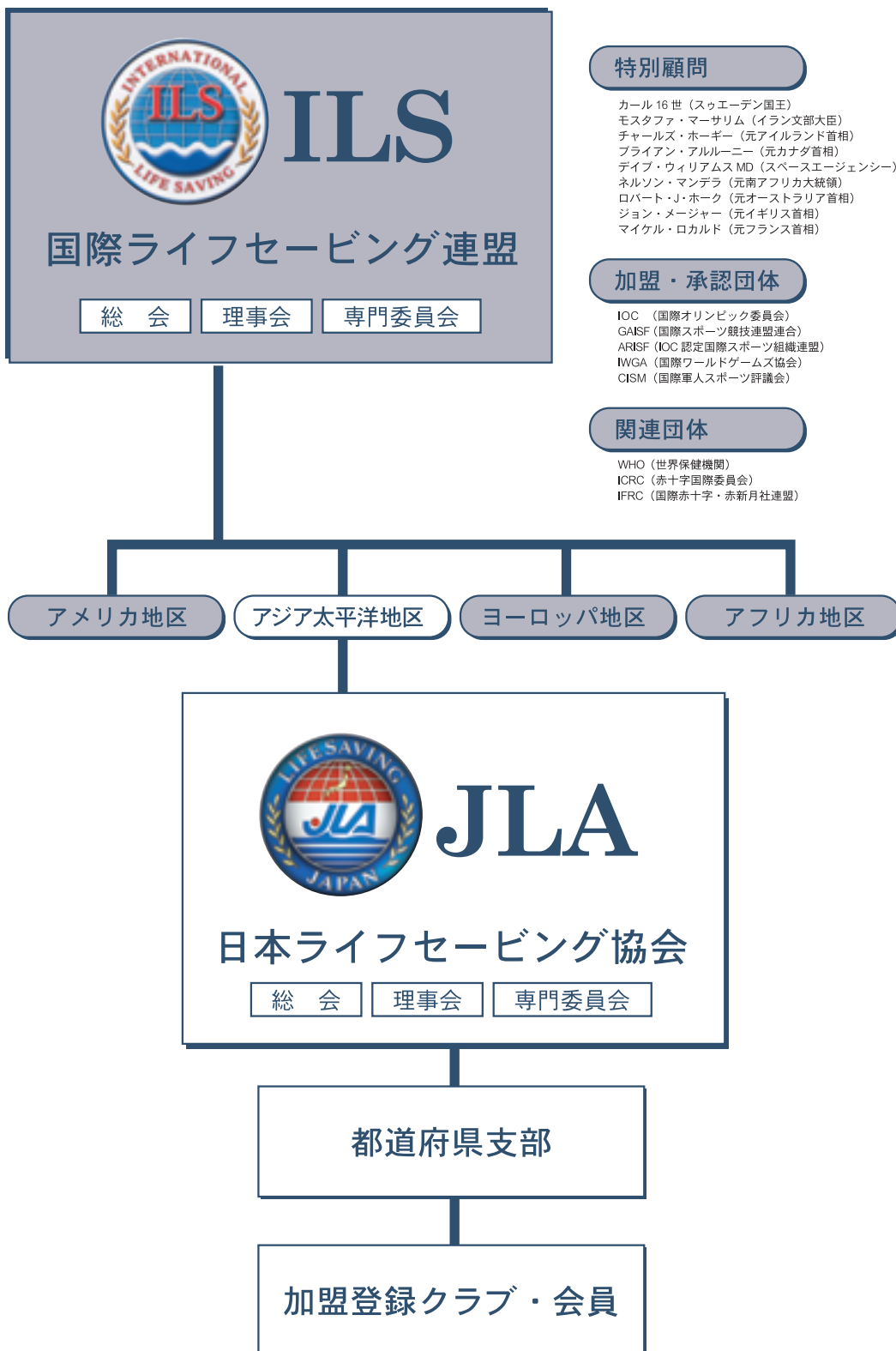
日本ライフセービング協会

1991年4月、「日本サーフライフセービング協会」と「日本ライフガード協会」を統合して設立。国際ライフセービング連盟の日本代表機関として活動を開始しました。2001年10月に内閣府認証の特定非営利活動法人となり、現在は多くのクラブが設立され、認定資格を持つライフセーバーが活躍しています。



国際ライフセービング連盟 (ILS) 調印証

国際ライフセービング連盟組織図



JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION

日本ライフセービング協会 (JLA)

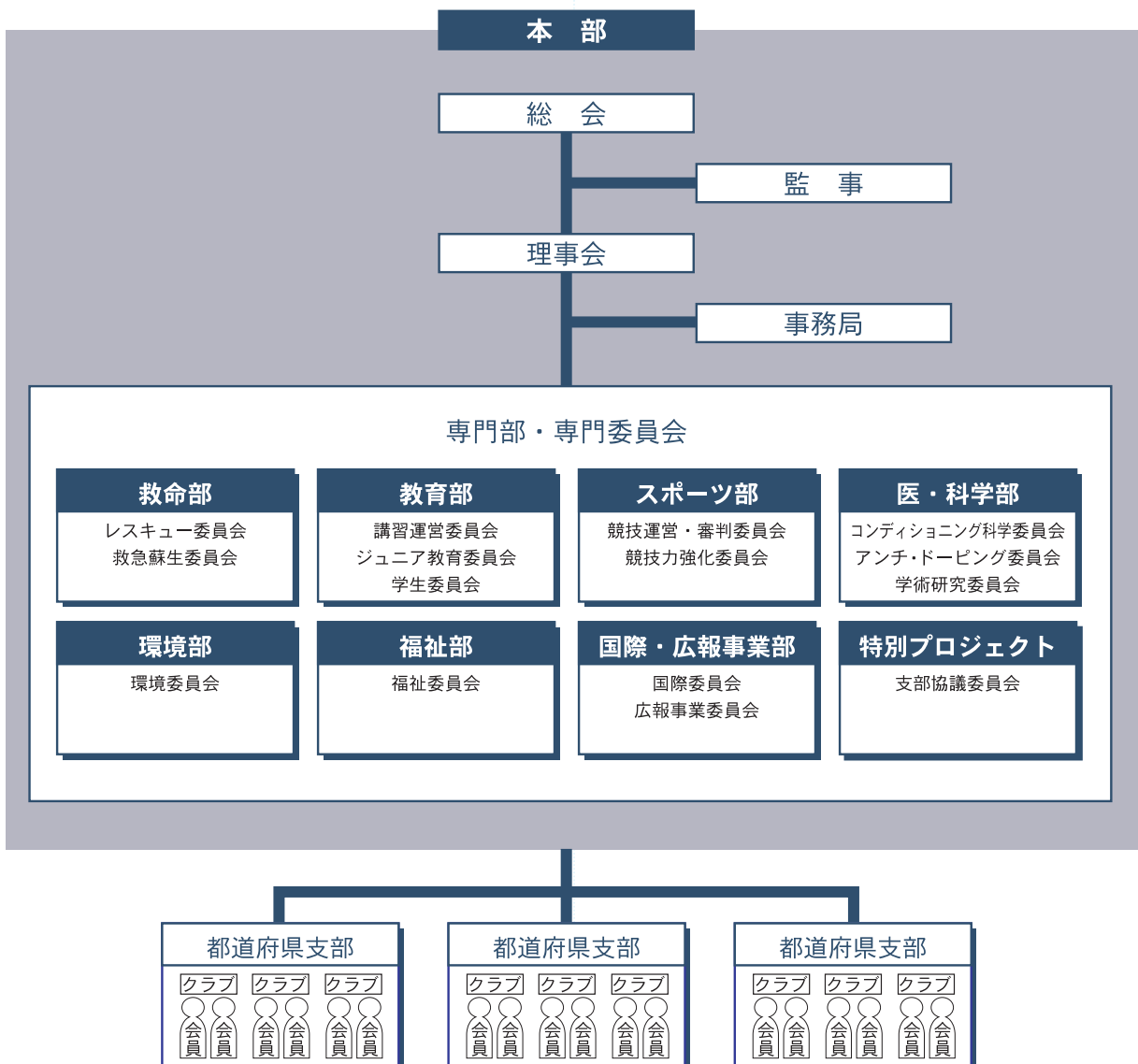
日本ライフセービング協会

日本ライフセービング協会(JLA=JAPAN LIFESAVING ASSOCIATION)は、世界唯一のライフセービング国際組織である国際ライフセービング連盟(ILS)の日本代表機関として位置付けられています。

日本ライフセービング協会は水辺の事故ゼロを目指し、「人と社会に変革をもたらす」法人として、「救命」「スポーツ」「教育」「環境」「福祉」(=JLAヒューマンチェーン)といった領域における生命尊厳の輪を普及していく社会貢献活動を行っています。

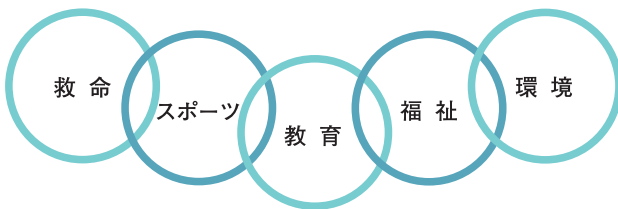
そして、こうした基本理念の具体化を推進するために総会・理事会・専門部・専門委員会といった組織体制を整え、全国のライフセーバーの活動サポートを行っています。また、ライフセービングのさらなる社会的認知の向上を目指した「JLA ミッション」を掲げ、全国のメンバーとともにライフセービング活動の普及と発展に努めています。

2009 年度 日本ライフセービング協会組織図



ヒューマンチェーンとは

救助者同士の手首を互いにつかみ(人間の鎖)、水没した溺者を捜索する方法です。ライフセービング活動には「ライフセービングそのものを学び、活動していくこと」「ライフセービング活動によって獲得した生命の尊厳の精神をあらゆる分野に社会貢献していくこと」の二通りがあります。いずれも人間がテーマであり、人間が人間を救う・守ることを根底に、生命のあるものが生命を救う自然の摂理を崇めるといふ歴史の普遍性を獲得していく活動展開を表現したものです。



水辺の事故ゼロをめざして

活動目的

国際的な視野から、海岸をはじめとする全国の水辺の環境保全、安全指導、監視・救助等を行うライフセービング活動の普及および発展等にかんする事業を行い、国民の安全かつ快適な水辺の利用に寄与することを目的とする。

事業概要

- 水辺の監視・救助活動事業
- ライフセービング活動に関する資格認定事業
- 青少年・児童に対する水辺の安全、教育事業
- ライフセービング競技事業
- ライフセービング活動に関する広報・啓蒙活動事業
- ライフセービング活動における国際交流事業
- 環境保全活動事業

JLAミッション

ライフセービングのさらなる社会認知に向けて、日本ライフセービング協会の組織をこれまで以上に成熟させ時代の隆盛をベースに組織改革を断行していくことが重要であるとの考えに基づき、9つのミッションを掲げています。

Mission 1

国際連盟における日本代表機関としての信頼基盤構築
(国際貢献の強化)

Mission 2

各財団、及び団体とのコラボレーション拡大
(各事業展開強化)

Mission 3

全国組織としての組織基盤の充実・・・
支部設立準備委員会の設置 (会員拡大強化)

Mission 4

一次救命教育団体としての社会的認知
(メディカルコントロール強化)

Mission 5

資格認定団体としての認知
(教育とレスキューの統合、生命教育のジュニア指導強化)

Mission 6

小学校・中学校・高等学校・大学におけるクラブ化
(地域クラブに繋がる投資強化)

Mission 7

「生命を救うスポーツ」普及・拡大・展開
(競技会の在り方、メディアリリース強化)

Mission 8

ライフセーバーからライフガード認定制度
(半プロ化・年間雇用拡大の創出・強化)

Mission 9

事務局体制、及び財務基盤の安定化
(企業とのパイプ構築、及び就労環境整備強化)

HISTORY

JLAの歴史

2001年

内閣府特定非営利活動法人化

2002年

法人化にともなう新会員制度スタート

2003年

JLAヒューマンチェーン、JLAプロジェクト宣言

JLAロゴマークリニューアル

2004年

世界選手権イタリア大会参加

国際競技会(DHL アジア太平洋選手権)開催

第1回ジュニア競技会開催

国際ルールに照らし合わせ、競技規則改定

2005年

会員賠償責任付帯制度スタート

会員制度と資格制度の一部見直し

第1回学生リーダーズキャンプ開催

オーストラリアからの贈り物 (豪日交流基金)

1983年、オーストラリア連邦政府の文化機関「豪日交流基金」の仲立ちによって、ワールドライフセービング協会のスタントン会長ほか2名の役員が日本のライフセービング活動を視察された。

その際、3氏によって黄色のレスキューボードが贈呈され、その救助法が紹介された。そして、スタントン会長より次のような提案がなされた。それは、①ライフセービング組織の日本国内の統一、②ライセンスの統一、③教本草案の作成、④指導者および検定員の養成、が目標に掲げられ、5年間にわたる豪日交流プログラムがスタートした。

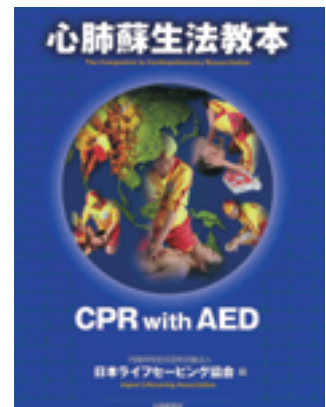
今日、オーストラリアと日本の中で醸成された深い友情と信頼が、全国にライフセービングの普及の輪を広げ、1本のレスキューボードより始まった交流が、1,000本を超えるレスキューボードの配備となり、25,000人を超えるライフセーバー有資格者の養成によって、生命を守る活動への大きな成果につながっている。



第1回豪日交流プログラム・オーストラリア研修(1983年12月)。
左から2番目は金子邦親JLA初代理事長



サーフライフセービング教本表紙



心肺蘇生法教本表紙

2006年

世界選手権オーストラリア大会参加
『LifeSaving』マガジン（舵社）創刊
JLAミッション宣言
国際競技会（三洋カップ）スタート

2007年

日豪パートナーシップ締結・調印
ウォータースポーツプロジェクト調印
ジュニア教育実態調査報告書発刊
心肺蘇生法教本（大修館書店）発刊
第1回高校生プログラム開催

2008年

JLA沖縄県支部・九州支部設立
サーライフセービング教本（大修館書店）発刊
ジュニア教育指導指針発刊
審判マニュアル2008発刊
世界選手権ドイツ大会参加
ILS専門委員へ日本人4名が初めて就任

2009年

JLA北海道支部・中部支部 設立
第1回学生プール競技選手権大会開催（2010年2月）
共同組織ウォーターセーフティニッポン調印（2010年3月）

日豪・戦略的パートナーシップ締結

2007年3月20日から25日の6日間、全豪サーライフセービング選手権大会がスカボロービーチ（パース）で行われた。その年はオーストラリアのサーライフセービングクラブが組織化してから100年目を記念する「サーライフセーバー年」ということから、日本ライフセービング協会とオーストラリア・サーライフセービング協会の間で戦略的パートナーシップの調印が執り行われた。



協定締結後、握手をかわす小峯力JLA理事長とランキン会長



日豪・戦略的パートナーシップ調印式



ウォーターセーフティニッポン調印式

世界のライフセービング史

ライフセービングの歴史をひも解けば、その起源は人類誕生まで遡ることになります。

溺れた者を救い、負傷した者の手当てを施す行為そのものは、人間に限らず動物にも存在する本能的な行動です。その行為自体をライフセービングの歴史に包含するものであるか否かは別としても、人間が文明を築きながら安定した生活を営むためには、河川、湖沼といった水辺に集落を構えることは必要条件であったことが知られています。当然のごとく現代のような治水環境が整備されていたはずもない古代文明において、河川が氾濫し、洪水などで田畑、家畜、住居はもちろん、人々も濁流に飲まれ流されました。そんな状況において家族の生命を守ろうとあらゆる手段を尽くしたことが、ライフセービングの起源とされています。

その後、17世紀から18世紀にかけてフランス、オランダ、イギリス等を中心としたヨーロッパ諸国で、「WATER SAFETY」という安全思想と事故防止のためのメソッド(技術)が確立されました。1774年、イギリスでは産業革命による急激な社会変化の中で、病気の人々が抱える苦痛を和らげることを目的とした「ロイヤルヒューマン協会」が設立されました。ロイヤルヒューマン協会は、1870年から1880年代にかけて、独自のマニュアルを用いてライフセービングの技術を広めていたことがいくつかの文献に書かれています。そして、1878年、マルセイユ(フランス)において第1回ライフセービング国際会議が開催されました。1800年代のイギリスでは、プールにおける水泳に高い人気が集まり、いくつかのスイミングクラブが組織されました。必然的にライフセービングの知識・技術が求められるようになり、1891年、W.ヘンリーを中心とした人びとが、水の事故から生命を守ることを目的とした「スイマーズ ライフセービング協会」を設立しました。そして、1904年には、イギリス王室より「ロイヤル」の憲章を授かり、王室から援助・奨励される団体「ロイヤルライフセービング協会(RLSS=Royal Life Saving Society)」となりました。その後、1910年には、ヨーロッパ諸国を中心とした「FIS=Fédération Internationale de Sauvetage Aquatique」という国際組織が設立され、世界的な活動が本格化しました。

一方、RLSSの技術はオーストラリアにも伝わり、「オーストラリア・ロイヤルライフセービング協会(RLSSA=Royal Life Saving Society of Australia)」が設立され、さらに1907年には「オーストラリア・サーフライフセービング協会(SLSAA=Surf Life Saving Association of Australia)」が設立されました。そして1971年には、環太平洋諸国が中心となり、世界各国間のライフセービング組織の相互交流を目的とした国際組織「WLS=World Life Saving」が設立されました。

それから四半世紀後の1994年、イギリスにおいてヨーロッパを中心としたFISと環太平洋を中心としたWLSが統一し、国際ライフセービング連盟(ILS=International Life Saving Federation)が設立されました。同時に、日本ライフセービング協会が国際連盟の認証を受け、ILSの日本代表機関となりました。

日本のライフセービング史

わが国のライフセービングは、日本赤十字社(以下、日赤)の水上安全法の歴史と関係が深いです。それはアメリカ赤十字のメソッド(技術)をベースに1944年に創始しました。そのメソッドを伝達された者(水上安全法有資格者)たちが、1963年に神奈川県片瀬西浜海水浴場の監視員に短期雇用されたことが、今日のライフセーバーの原点ともいえます。当時はアメリカで一般的に使用されていた名称である「ライフガード」と呼称していました。この活動は「湘南ライフガードクラブ」、「湘南指導員協会」そして「日本ライフガード協会」と名称を変えながら発展していました。一方、時を同じくして静岡県下田市を中心とした「日本サーフライフセービング協会」も設立され、それぞれ地域に根ざしたクラブ化を目指していました。

1984年、オーストラリア政府によって発足された豪日交流基金の助成事業による日本とオーストラリアのライフセービング交流が5ヵ年によって実施されました。この事業をきっかけに日本のライフセービングへ、オーストラリアメソッド(技術)が伝授され独自の資格講習が開催できるようになりました。そして、1985年には「日本ライフセービング評議会」が設立され、日本のライフセービング団体の統一化を図り、WLS公認の講習会を開催しました。

その後、1991年に日本ライフガード協会と日本サーフライフセービング協会が統一し、「日本ライフセービング協会(初代理事長:金子邦親)」が設立されました。設立パーティーには文部省(文部科学省)・海上保安庁等の来賓参加をいただきました。

1992年には、初の世界選手権大会(Rescue92・静岡県下田市白浜)を誘致・開催し、国内外にライフセービングの認知を大きく広めることとなりました。また、地域クラブをはじめ、学校(大学等)クラブが急激に増加し、1986年には第1回学生選手権大会(インターカレッジ)を開催しました。

2001年には、これまでの任意団体としての役割を経て、内閣府より「特定非営利活動法人日本ライフセービング協会(理事長・小峯力)」として認証され、念願の「公」の歴史をスタートさせました。2007年、オーストラリア協会(SLSA)は、ライフセービング百周年を迎え、全豪選手権(パース)において、日本ライフセービング協会と「パートナーシップ」調印を締結しました。現在では、多くのライフセービング有資格者が全国へ普及・展開を図っています。



Section 1

JLAの概要と2009年度ハイライト

2009年度組織

理事会

理事長

小峯 力 Tsutomu Komine (大学教授)

副理事長

山本 利春 Toshiharu Yamamoto (大学教授)

荒木 雅信 Masanobu Araki (大学教授)

理事

中川 儀英 Yoshihide Nakagawa (救命救急医)

土志田 仁 Hitoshi Toshida (会社経営)

豊見山 明久 Akihisa Tomiyama (会社経営)

高野 絵美 Emi Kouno (会社経営)

稲垣 裕美 Yuumi Inagaki (大学教員)

松本 貴行 Takayuki Matsumoto (高校教諭)

監事

篠原 忍 Shinobu Shinohara (税理士)

小嶋 和也 Kazuya Kojima (弁護士)

専門部・専門委員会

救命部	レスキュー委員会	★中塚 健太郎・緩利 誠・岡澤 悟一
	救急蘇生委員会	★鍛冶 有登・内田 直人・吹田 光弘
教育部	講習運営委員会	★内田 直人・足立 正俊・豊田 勝義・吹田 光弘・清水 博史・佐藤 洋二郎
	ジュニア教育委員会	★丸田 重夫・藤井 正弘・植木 将人・渡辺 珠枝・森 洋行・渡部 いつみ
	学生委員会	★泉田 昌美・齋藤 優貴 (学生代表)・片山 友梨恵 (学生副代表)・喜友名 朝胤 (学生主務)
スポーツ部	競技運営・審判委員会	★深山 元良・塚本 隆之・飯塚 哲也・中村 勝・泉田 昌美・渡辺 智美 池谷 薫・木野 康信・橘川 克巳・吉田 健博
	競技力強化委員会	★遠藤 大哉・青木 克浩・佐藤 文机子・入谷 拓哉・遊佐 雅美・鈴木 一也・飯沼 誠司
医・科学部	コンディショニング科学委員会	★小粥 智浩・砂川 憲彦・笠原 政志
	アンチ・ドーピング委員会	★小峯 力・小粥 智浩・砂川 憲彦・笠原 政志
	学術研究委員会	★山本 利春・小粥 智浩・砂川 憲彦・笠原 政志
環境部	環境委員会	★石川 仁憲・堀口 敬洋・風間 隆宏
福祉部	福祉委員会	★荒木 雅信
国際・広報事業部	国際委員会	★相澤 千春・堤 容子・西嶋 智美・宮部 周作
	広報事業委員会	★高野 絵美・堤 容子・風間 隆宏・鈴木 一也
特別プロジェクト	支部協議委員会	★土志田 仁・荒木 雅信・豊見山 明久・加藤 道夫・森井 秀明・松原 浩一・池谷 薫 的場 栄一・井藤 秀晃・諸節 智章・藤田 和人・矢貫 卓博・田村 浩志

★印は委員長／学生役員は2009年度担当

2009年度登録クラブリスト

支部(5支部)

- ・北海道支部
- ・神奈川県支部
(NPO法人神奈川県ライフセービング連盟)
- ・中部支部
- ・九州支部
- ・沖縄県支部

地域LSクラブ(82クラブ)

北は北海道から南は沖縄まで、各地で活動するJLA登録クラブです。

【北海道】

- ・石狩ライフセービングクラブ
- ・小樽ライフセービングクラブ

【青森県】

- ・つがるライフセービングクラブ

【岩手県】

- ・大船渡ライフセービングクラブ
- ・釜石ライフセービングクラブ
- ・盛岡ライフセービングクラブ
- ・高田ライフセービングクラブ

【秋田県】

- ・秋田ライフセービングクラブ

【東京都】

- ・式根島ライフセービングクラブ
- ・神津島ライフセービングクラブ
- ・新島ライフセービングクラブ
- ・三宅島ライフセービングクラブ
- ・三多摩ライフセービングクラブ
- ・スポーツレックスライフセービングクラブ
- ・東京消防庁ライフセービングクラブ
- ・BACK WASH サーフライフセービングクラブ

【神奈川県】

- ・横浜海の公園ライフセービングクラブ
- ・逗子ライフセービングクラブ
- ・NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ
- ・三浦海岸サーフライフセービングクラブ
- ・湯河原ライフセービングクラブ
- ・茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ
- ・大磯ライフセービングクラブ
- ・湘南ひらつかライフセービングクラブ
- ・二宮ライフセービングクラブ
- ・辻堂ライフセービングクラブ
- ・鎌倉ライフガード
- ・サーフ90鎌倉ライフセービングクラブ
- ・サーフ90茅ヶ崎ライフセービングクラブ
- ・葉山ライフセービングクラブ
- ・NPO法人パティ冒険団
- ・小田原ライフセービングクラブ

【千葉県】

- ・NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
- ・銚子ライフセービングクラブ
- ・白浜ライフセービングクラブ
- ・岩井ライフセービングクラブ
- ・鴨川ライフセービングクラブ
- ・和田浦ライフセービングクラブ
- ・飯岡ライフセービングクラブ
- ・勝浦ライフセービングクラブ
- ・館山サーフライフセービングクラブ
- ・御宿ライフセービングクラブ

【茨城県】

- ・大洗サーフライフセービングクラブ
- ・大竹サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人鹿嶋ライフガードチーム
- ・波崎サーフライフセービングクラブ

【新潟県】

- ・柏崎ライフセービングクラブ
- ・新潟青山ライフセービングクラブ

【福井県】

- ・若狭和田ライフセービングクラブ

【愛知県】

- ・愛知ライフセービングクラブ

【静岡県】

- ・今井浜サーフライフセービングクラブ
- ・NPO法人下田ライフセービングクラブ
- ・熱川ライフセービングクラブ
- ・沼津ライフセービングクラブ
- ・西伊豆ライフセービングクラブ
- ・用宗ライフセービングクラブ
- ・榛原ライフセービングクラブ
- ・土肥ライフセービングクラブ
- ・御浜ライフセービングクラブ
- ・相良サーフライフセービングクラブ

【大阪府】

- ・NPO法人大阪ライフセービングクラブ
- ・大阪体育大学シニアライフセービングクラブ

【兵庫県】

- ・NPO法人神戸ライフセービングクラブ

【京都府】

- ・NPO法人京都ライフセービング

【広島県】

- ・NPO法人広島ライフセービング
- ・呉工業高校ライフセービングクラブ

【鳥取県】

- ・NPO法人皆生ライフセービングクラブ
- ・岩美ライフセービングクラブ

【島根県】

- ・キラライフセービングクラブ
- ・浜田ライフセービングクラブ

【岡山県】

- ・岡山ライフセービングクラブ

【山口県】

- ・山口ライフセービングクラブ

【福岡県】

- ・宗像ライフセービングクラブ
- ・福岡ライフセービングクラブ

【大分県】

- ・大分ライフセービングクラブ

【宮崎県】

- ・NPO法人宮崎ライフセービングクラブ

【鹿児島県】

- ・かごしま磯ライフセービングクラブ

【沖縄県】

- ・万座ライフガードチーム
- ・宮古島ライフセービングクラブ
- ・沖縄本島ライフセービングクラブ
- ・北谷公園サンセットライフセービングクラブ
- ・今帰仁ライフセービングクラブ

学校LSクラブ(43クラブ)

大学を中心に高校から専門学校まで、JLAに登録している教育機関主体のクラブです。

【東京都】

- ・日本女子体育大学ライフセービングクラブ
- ・拓殖大学ライフセービングクラブ
- ・専修大学サーフライフセービングクラブ
- ・日本体育大学ライフセービングクラブ
- ・東京女子体育大学ライフセービングクラブ
- ・国士館大学ライフセービングクラブ
- ・早稲田大学ライフセービングクラブ
- ・杏林大学ライフセービングクラブ
- ・中央大学ライフセービングクラブ
- ・東洋大学サーフライフセービングクラブ
- ・成蹊大学ライフセービングクラブ
- ・法政大学サーフライフセービングクラブ
- ・実践女子大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学ライフセービングクラブ
- ・日本大学サーフライフセービングクラブ
- ・國學院大学ライフセービングクラブ
- ・東京海洋大学ライフセービングクラブ
- ・玉川大学ライフセービングクラブ
- ・青山学院大学ライフセービングクラブ
- ・東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ
- ・東京スポーツ・レクリエーション専門学校ライフセービングクラブ

- ・成城学園ライフセービングクラブ
- ・十文字学園高等学校ライフセービングクラブ
- ・昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ

【神奈川県】

- ・東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ
- ・神奈川大学ライフセービングクラブ
- ・文教大学ライフセービングクラブ

【埼玉県】

- ・武蔵丘短期大学ライフセービングクラブ

【千葉県】

- ・国際武道大学ライフセービングクラブ
- ・順天堂大学ライフセービングクラブ

【茨城県】

- ・筑波大学ライフセービングクラブ
- ・流通経済大学ライフセービングクラブ
- ・茨城大学サーフライフセービングクラブ

【新潟県】

- ・新潟産業大学ライフセービングクラブ
- ・新潟工科大学ライフセービングクラブ

【福井県】

- ・福井県立大学ライフセービングクラブ

【愛知県】

- ・中京大学ライフセービングクラブ
- ・日本福祉大学ライフセービングクラブ

【静岡県】

- ・東海大学海洋学部ライフセービングクラブ

【大阪府】

- ・大阪体育大学ライフセービングクラブ

【京都府】

- ・立命館大学ライフセービングクラブ

【広島県】

- ・海上保安大学校ライフセービングクラブ

【鳥取県】

- ・鳥取大学発ライフセービングクラブ

資格講習会

資格の種類と発行数

ライフセーバー資格



心臓蘇生法 (CPR) インストラクター



ウォーター ライフセービング インストラクター



サーフライフセービング インストラクター



IRB (救助用ボート) インストラクター



アドバンスサーフ ライフセーバー



IRB (救助用ボート) ドライバー



心臓蘇生法 (CPR)



ウォーターライフセーバー



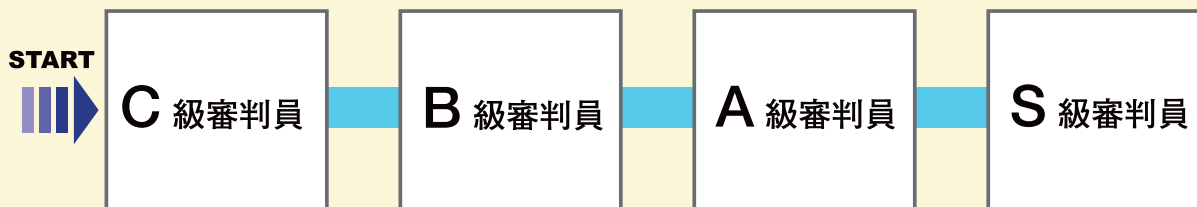
ベーシックサーフ ライフセーバー



IRB (救助用ボート) クルー

ライフセーバー資格種別	資格発行数
ベーシックサーフ ライフセーバー資格	615
アドバンス サーフ ライフセーバー資格	116
IRBクルー資格	12
IRBドライバー資格	1
ウォーター ライフセーバー資格	7
CPR(心臓蘇生法)	1169
サーフおよびウォーター資格更新	291
CPR更新	137

審判員資格



審判員資格種別	資格発行数
C級審判員	264

ライフセーバー資格講習会開催実績一覧

ベーシック サーフ ライフセーバー資格

講習日程	主催
4月25日～29日	日本ライフセービング協会 本部 (沖縄県 渡嘉敷)
5月2,3,4,9,10日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月5,6,7,13,14日	日本ライフセービング協会 九州支部 (福岡県 津屋崎海岸)
6月6,7,12,13,14日	日本ライフセービング協会 北海道支部 (北海道 小樽ドリームビーチ)
6月13,14,20,21,28日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月20,21,26,27,28日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
6月29日～7月3日	日本ライフセービング協会 沖縄県支部 (沖縄県 恩納村堂ビーチ)
6月27,7月4,5,11,12日	日本ライフセービング協会 中部支部 (静岡県 島郷海岸)
6月27,7月4,5,11,12日	日本ライフセービング協会 中部支部 (静岡県 島郷海岸)
9月5,6,11,12,13日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
9月19日～23日	日本ライフセービング協会 北海道支部 (北海道 小樽ドリームビーチ)
11月4日～8日	日本ライフセービング協会 沖縄県支部 (沖縄県 北谷公園サンセットビーチ)
以上 JLA主催小計 12カ所	
登録クラブ主催小計 27カ所	
開催合計 39カ所	

アドバンス サーフ ライフセーバー資格

講習日程	主催
4月18,19,25,26日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
10月24,25,31,11月1日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 鶴沼海岸)
以上 JLA主催小計 2カ所	
登録クラブ主催小計 12カ所	
開催合計 14カ所	

種別	主催
IRBクルー資格	登録クラブ主催 2カ所

種別	主催
IRBドライバー資格	登録クラブ主催 1カ所

種別	主催
ウォーター ライフセーバー資格	登録クラブ主催 1カ所

CPR (心肺蘇生法)

講習日程	主催
4月25日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京健康科学専門学校)
4月29日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
4月29日	日本ライフセービング協会(JFATレーナー) (茨城県 流通経済大学)
5月11日	日本ライフセービング協会(ビーチ 葉山) (神奈川県 葉山 山下 山口会館)
5月31日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京健康科学専門学校)
6月15日	日本ライフセービング協会(FC東京) (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
6月15日	日本ライフセービング協会(BG財団) (沖縄県 マリンピア ザオキナフ)
6月28日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
7月11日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
11月21日	日本ライフセービング協会(アウトドアフィットネス協会) (神奈川県 横浜市スポーツ医学センター)
11月29日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 湘南海岸公園サーフビレッジ)
2月21日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
2月27日	日本ライフセービング協会 (大阪府 大阪ハイテクノロジー専門学校)
3月6日	日本ライフセービング協会 中部支部 (静岡県 シーマック三保)
3月7日	日本ライフセービング協会 神奈川県支部 (神奈川県 湘南海岸公園サーフビレッジ)
3月14日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
3月22日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
3月28日	日本ライフセービング協会 (東京都 東京メディカル・スポーツ専門学校)
以上 JLA主催小計 18カ所	
インストラクター主催小計 8カ所	
登録クラブ主催小計 29カ所	
開催合計 55カ所	

種別	主催
サーフおよびウォーター資格更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 29カ所
CPR更新講習	JLA主催および登録クラブ主催 12カ所

※審判員資格講習会開催実績一覧はP32をご覧ください。

活動海岸一覽

2009年度JLA認定のライフセーバーが活動している主な活動海岸一覽



【福井県】

小浜市	人魚浜海水浴場 鯉川海水浴場
高浜町	若狭和田海水浴場

【京都府】

高津町	天橋立(文殊/府中)
-----	------------

【鳥取県】

米子市	皆生温泉海水浴場
岩美町	浦富海水浴場
賀露町	賀露みなと海水浴場

【鳥根県】

多岐町	キララビーチ
浜田市	石見海浜公園

【秋田県】

秋田市	浜田浜海水浴場
-----	---------

【新潟県】

柏崎市	米山海水浴場 笠島海水浴場 薬師堂海水浴場 鯨波海水浴場 東の輪海水浴場 番神海水浴場 中央海水浴場
新潟市	青山海岸海水浴場

【岩手県】

三陸町	吉浜海水浴場
釜石市	根濱海水浴場

【茨城県】

大洗町	大洗サンビーチ
鉾田市	大竹海岸鉾田海水浴場
鹿嶋市	下津海水浴場 平井海水浴場
波崎町	波崎海水浴場 日川浜海水浴場

【東京都】

新島村	前浜第一海水浴場 前浜第二海水浴場 前浜第三海水浴場 前浜第四海水浴場 羽伏浦海水浴場 間々下海水浴場 波浮根海水浴場 若郷前浜海水浴場
式根島	泊港海水浴場 大浦海水浴場 中の浦海水浴場 石白川海水浴場
神津島村	前浜海水浴場 長浜海水浴場 沢尻海水浴場 多幸湾海水浴場 赤崎海水浴場
三宅島村	大久保浜海水浴場 鐘ヶ浜海水浴場 長太郎池海水浴場

【北海道】

小樽市	小樽トリムビーチ
石狩市	あそビーチ石狩

【青森県】

津軽市	マグアビーチ
-----	--------

【千葉県】

銚子市	海鹿島海水浴場 銚子マリーナ 長崎海水浴場
飯岡町	飯岡海水浴場
旭市	矢指ヶ浦海水浴場
野栄町	堀川海水浴場
横芝光町	木戸海水浴場 屋形海水浴場

山武市	殿下海水浴場 中下海水浴場 南浜海水浴場 小松海水浴場 白幡海水浴場 本須賀海水浴場
-----	---

九十九里町	粟生海水浴場 片貝海水浴場 不動堂海水浴場 真亀海水浴場 作田海水浴場
-------	---

御宿町	岩和田海水浴場 中央海水浴場 浜海水浴場
-----	----------------------------

勝浦市	中央海水浴場 豊浜海水浴場 車浜海水浴場 鶴原海水浴場 守谷海水浴場 興津海水浴場
-----	--

鴨川市	前原海水浴場 太海海水浴場 江見海水浴場 内浦第一海水浴場 内浦第二海水浴場 城崎海水浴場
-----	--

和田町	和田浦海水浴場 花園海水浴場
-----	-------------------

白浜町	根本海水浴場 名倉海水浴場 塩浦海水浴場
-----	----------------------------

富浦町	豊岡海水浴場 原岡海水浴場 多々良北海水浴場
-----	------------------------------

富山町	岩井海水浴場
-----	--------

鏡南町	勝山海水浴場 大六海水浴場 鯉ヶ浦海水浴場 保田中央海水浴場 元名海水浴場
-----	---

富津市	富津海水浴場 大貫中央海水浴場 津浜海水浴場 上総湊海水浴場 新舞子海水浴場
-----	--

館山市	船方海水浴場 北条海水浴場 新井海水浴場 沖の島海水浴場 坂田海水浴場 相浜海水浴場 波左間海水浴場 那古海水浴場
-----	--

【愛知県】

南知多町	内海海水浴場
知多市	新舞子海水浴場
田原市	太平洋ロングビーチ 仁崎海水浴場 白谷海水浴場
渥美町	伊良湖海水浴場

【三重県】

阿児町	阿児の松原海水浴場
-----	-----------

【静岡県】

東伊豆町	熱川温泉You湯海水浴場
河津町	今井浜海水浴場 河津浜海水浴場
下田市	白浜中央海水浴場 白浜大浜海水浴場 多々戸浜海水浴場 入田浜海水浴場 舞磯浜海水浴場 吉佐美大浜海水浴場
南伊豆町	弓ヶ浜海水浴場
西伊豆町	大浜海水浴場 乗浜海水浴場 クリスタルビーチ 黄金崎海水浴場

土肥町	土肥海水浴場 小土肥海水浴場
-----	-------------------

戸田村	御浜海水浴場
-----	--------

沼津市	島郷海水浴場 大瀬海水浴場 千本浜公園海水浴場 らららサンビーチ
-----	---

榛原町	静波海水浴場
-----	--------

静岡市	用宗海水浴場 真崎海水浴場
-----	------------------

相良町	相良サンビーチ
-----	---------

【神奈川県】

横浜市	横浜海の公園
-----	--------

三浦市	三浦海岸海水浴場
-----	----------

葉山市	一色海水浴場 森戸海水浴場 長者ヶ崎浦海水浴場
-----	-------------------------------

逗子市	逗子海水浴場
-----	--------

鎌倉市	由比ガ浜海水浴場 材木座海水浴場 腰越海水浴場 七里ヶ浜海岸
-----	---

藤沢市	片瀬西浜海水浴場 片瀬東浜海水浴場 鶴沼海水浴場 江の島岩屋海水浴場 辻堂海水浴場
-----	---

茅ヶ崎市	サザンビーチ茅ヶ崎
------	-----------

平塚市	湘南ひらつかビーチ
-----	-----------

大磯町	大磯海水浴場
-----	--------

二宮町	袖ヶ浦海水浴場
-----	---------

湯河原町	吉浜海水浴場
------	--------

小田原市	小田原御幸ヶ浜
------	---------

【兵庫県】

神戸市	須磨海水浴場 ジュール舞子海水浴場
-----	----------------------

【山口県】

岩国市	潮風公園 みなとオアシスゆう
-----	-------------------

【和歌山県】

和歌山市	片男波海水浴場
白浜町	白良浜海水浴場

【岡山県】

玉野市	渋川海水浴場
-----	--------

【広島県】

蒲刈町	蒲刈県民の浜
呉市	狩留賀海水浴場

【福岡県】

宗像市	江口海水浴場
-----	--------

【大分県】

大分市	田ノ浦ビーチ
-----	--------

【宮崎県】

宮崎市	青島海水浴場 サンビーチ葉海水浴場
-----	----------------------

【沖縄県】

恩納村	万座ビーチ
今帰仁村	今帰仁村民の浜ビーチ
北谷町	北谷公園サンセットビーチ

2009年度全国海水浴場パトロール統計(概要)

特定非営利活動法人日本ライフセービング協会(以下JLA)のレスキュー委員会では、パトロールログおよびレポート(レスキュー、ファーストエイド、レサシテーション)の集計および、海水浴場調査を行いました。これは、JLAプロジェクトに掲げられた、レスキューの減少、パトロールシステムの構築、社会復帰率の向上に寄与する情報を集約し、現場のライフセーバーはもとより、社会へ貢献しうするためです。

概要

パトロール中に発生したアクシデント数について、JLAの有資格ライフセーバーが実際に活動した全国206カ所(JLA登録数は212箇所)の海水浴場のうち、2010年2月1日までに報告された138カ所の海水浴場からの集計結果をまとめた(回収率:67.0%)。

内容別にアクシデント数をみると、レスキューされた人は2,032人、ファーストエイド(FA)を受けた人は14,064人、迷子になった人は1,482人であった。レス

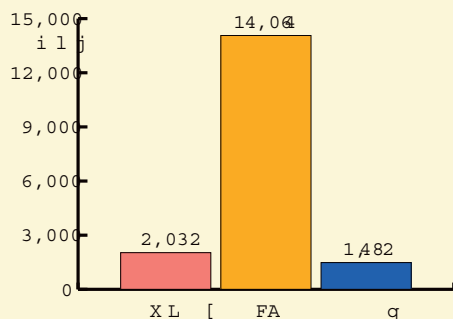
キューを重症度別にみると、重溺が0.7%(14人)、軽溺が6.9%(141人)、安全移送が92.4%(1,877人)であった。重溺の内訳は、蘇生が71.4%(10人)、死亡が21.4%(3人)、不明が7.1%(1人)であった。

また、あくまで参考にとどめるが、JLAの関係した全国の夏期海水浴期間中の総入り込み数は、8,638,959人であった。1海水浴場の夏期入り込み数の平均は62,601人、最も多かった海水浴場は1,361,793人、一方最も少なかった海水浴場は438人だった。

パトロール中のアクシデント数(人)

レスキュー	FA	迷子
2,032	14,064	1,482

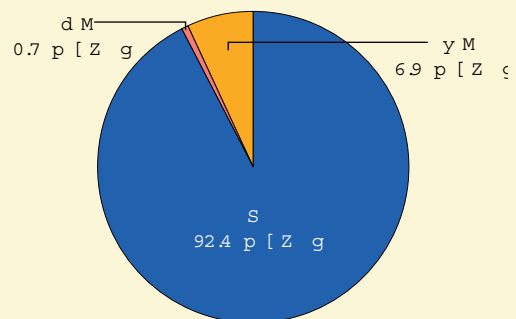
※全国138カ所より



重症度別レスキュー数(人)

レスキュー総数	重溺者	軽溺者	安全移送者
2,032	14	141	1,877

※全国138カ所より



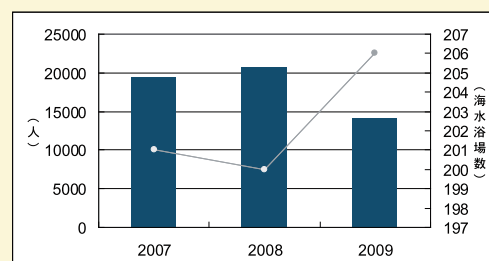
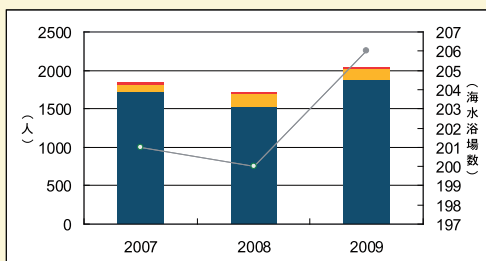
重溺者(意識なし):意識不明の溺者 軽溺者(意識あり):意識はあるが自力で浮くことが困難な溺者
安全移送者:自力で浮くことはできるが、自ら安全な位置や浜に移動することができない者
(引用:『サーフライフセービング教本2008』)

年間レスキュー数の推移

	2007	2008	2009
安全移送	1,721	1,533	1,877
軽溺	99	158	141
重溺	20	14	14
海水浴場数	201	200	206
回収率(%)	74.6	72.5	67.0

年間FA数の推移

	2007	2008	2009
FA	19,490	20,850	14,064
海水浴場数	201	200	206
回収率(%)	74.6	72.5	67.0



年間事業トピックス一覧

2009年度JLA年間事業

4月 April

- 24日(金) 第1回理事会
- 25日(土) 西日本学生LM(練習会)
C級審判(関東)
- 26日(日) 西日本学生LM

5月 May

- 9日(土) 第2回理事会
会員通常総会
- 16日(土) 全日本プール選手権
- 17日(日) 全日本プール選手権
- 24日(日) 神奈川県支部サーフ大会
- 30日(土) 合同浜説明会
高校生プログラム
- 31日(日) 合同浜説明会
高校生競技会

6月 June

- 6日(土) 第3回理事会
全日本種目別選手権
- 7日(土) 全日本種目別選手権
- 20日(土) C級審判(関東)
Jr指導者研修会(関西)
- 21日(日) Jr指導者研修会(関東)

7月 July

- 20日(月) 第一三共 Jr (北谷/沖縄県支部)
- 21日(火) 岩井臨海学園
・北区 7/21~8/8
・千代田区 7/21~7/25
- 26日(日) 第一三共 Jr (小樽/北海道支部)

8月 August

- 1日(土) ウォータースポーツ全国大会
第一三共 Jr (東浜/西浜SLSC)
- 6日(木) 岩井臨海学園
板橋区 8/6~8/10
- 9日(日) 第一三共 Jr (柏崎/北陸支部準備)
- 23日(日) ジュニア競技会
- 29日(土) C級審判(小樽)

9月 September

- 5日(土) C級審判(関東)
審判員研修
- 12日(土) オーシャンサーフ白浜
兼西日本予選会
- 13日(日) 三洋物産カップ2009
- 19日(土) 東日本予選会
- 20日(日) 東日本予選会
- 21日(月) 東日本予選会
- 26日(土) 第4回理事会
全日本学生選手権
- 27日(日) 全日本学生選手権

10月 October

- 4日(日) C級審判(関東)
- 10日(土) 全日本選手権
- 11日(日) 全日本選手権
- 23日(金) 第5回理事会

11月 November

- 6日(金) 運営委員会
- 8日(日) 神奈川県支部プール大会
- 15日(日) Jr指導者研修会(関東)
- 16日(月) ~22日(日)
日本代表ジャーマンカップ
- 22日(日) 指導員研修会(関東)
- 28日(土) 指導員研修会(関東)
- 29日(日) 指導員研修会(関西)

12月 December

- 12日(土) 第6回理事会
納会
- 13日(日) コンディショニングセミナー
- 20日(日) 高校生プログラム(プール)

1月 January (2010)

- 15日(金) 第7回理事会
- 16日(土) SLSAコーチングセミナー
- 17日(日) SLSAコーチングセミナー
- 30日(土) C級審判(関西)
審判員研修(関西)
- 31日(日) Jr指導者研修会(関西)
審判員研修(関東)

2月 February (2010)

- 6日(土) 学生リーダーズキャンプ
- 7日(日) 学生リーダーズキャンプ
- 13日(土) 第8回理事会
全日本学生プール選手権
- 14日(日) 全日本学生プール選手権
- 20日(土) 北海道支部設立パーティー

3月 March (2010)

- 5日(金) 運営委員会
- 18日(土) ライフセービングフォーラム
- 14日(日) ~22日(月)
日本代表全豪選手権
- 26日(金) 第9回理事会

ライフセーバーアワード2009

ライフセーバー・オブ・ザ・イヤー



丸田重夫 (昭和第一学園高等学校LSC/JLAジュニア教育委員会委員長)

長年にわたり、JLAの指導員として継続的にライフセーバー養成や青少年への普及啓発に著しく貢献された。また、ご自身の高校にクラブを創部され、高校生によるライフセービング活動の可能性を幅広く創造された。JLA高校生プログラムや第1回高校生競技会等をはじめJLA活動へ積極的に生徒と取り組まれた。さらに、保健体育教育誌や教育テレビを通じて、ライフセービング活動を高校教育の視点から広く普及することに貢献。

救命賞



キララライフセービングクラブ (島根県)

平成14年9月に発足し、7年間にわたり、キララビーチにおける海難死亡事故0を更新、ならびに出雲市の小中学生を対象に海難防止の講習会を行い、事故防止の普及に努めた。また、島根大学教育学部学生支援センターと協力し、教員を目指す同学部の学生に課外授業として、ボランティアで監視活動及び海岸清掃に参加することで、単位が授与されるシステムを導入した。大学より、教員になる前の貴重な社会体験や人間形成に役立つことを評価され、学生への活動の普及啓発に貢献。総務省消防庁等とJLAとの共同研究報告書「地域の救助活動の体制強化に関する調査・研究」に基づいて、ライフセービングクラブと公的救助機関との連携強化の具現化に貢献。

スポーツ賞



吉田健博 (小樽LSC/JLA競技運営・審判委員会委員)

長年にわたり、JLA競技会や地域競技会へ審判員として継続的に参加、競技会の運営に著しく貢献。特に今年は、競技運営審判員として審判員資格データの履歴整理作業を本部で行い、活動実績の管理基盤を確立させた。審判員の昇級条件である活動実績が公正に管理されることによって、審判員の継続的な参加意欲の向上に貢献。

教育賞



入谷拓哉 (西浜SLSC)

長年にわたり、JLA指導員として継続的にライフセーバー養成や青少年への普及啓発に著しく貢献された。特に、地域におけるジュニア教育に貢献され、年間を通じた継続的な教育活動基盤を構築された。ジュニア期の枠を超えて活躍するライフセーバーを輩出するなど、保護者や地域を巻き込みながら、多くの子どもたちの人間形成に著しく貢献。



Section2

2009年度活動報告（2009年4月1日～2010年3月31日）

救命部
教育部
スポーツ部

コラム1

＜レスキューアスリートとしての競技 ～日本と世界のレベル～＞

医・科学部
環境部

コラム2

＜日本におけるライフセービングの現状 ～水辺の事故ゼロを目指して～＞

国際・広報事業部

コラム3

＜世界のライフセービングにおける日本の役割 ～ILSとJLA～＞

支部協議委員会

**SURF
PATROL**

救命部

救急蘇生委員会／レスキュー委員会

救命部総括

レスキュー委員会では、パトロール統計調査、全国海水浴場調査という2本柱が活動の中核をなしている。前者は、毎年、各浜・クラブへ詳細なアンケートを行い、それを委員会で集計したものである。項目が詳細多岐にわたるために、アンケートに対して回答する、そこからデータベースを構築し、解析する労力は並大抵のものではない。また後者は、2004年から継続的に行なわれているもので、委員が実際に海水浴場、各クラブへ足を運ぶ、いわば実地調査である。例えば、パトロール統計のなかで“監視塔”という項目があったとしよう。クラブによっては、折りたたみイスが“監視塔”として扱われることもあるし、立派なタワーの“監視塔”がある場合もある。これは現地に行ってみないと分かりえないことである。2009年度は私もこの調査に同行したが、単に海水浴場の状況を把握する以上に、現場での活躍するライフセーバーのさまざまな声を拾い上げられることがよく分かった。このなかには協会の将来のために必要な声があるかもしれない。この両調査を総合することで、JLAの各種活動の中で、もっとも重要な現場のライフセービング活動の概略を知ることができる。そして現状分析を行なうことにより、標準的な監視活動基準を策定できれば、と考えている。したがって本調査は非常に意義深いものであり、今後も継続されていかなければならない。この場をお借りしてこの事業にご協力いただいている各位に感謝申し上げたい。

救急蘇生委員会では、いわゆる“重溺レポート”を検証している。現場での活動がどう行なわれていたか、傷病者の状態はどうであったか、その事実を正確に確認することで、ライフセーバーの活動がどうあるべきか、という未来にむかっただけの指針が立つものと考えている。救命できない場合に、誰が悪いかを調べるために行っているのではなく、次にはどうしたらもっとうまくできるのか、質を高められるのか、その作戦を練るものだと考えていただきたい。良いと思えることも悪いと思えることも含めて、正確な真実を見つめることで、新しい画期的な医学的方法が見つかる可能性もある。今後はレポート中の必要な項目や用語を整理統一して、記載する側にも分かりやすいものにしたいと考えている。

これまでにホームページを通じて、Hands only CPR、あるいはインフルエンザ対策の情報を提供してきた。2010年には新しいガイドラインも発表される予定であり、さらに活発に医学的な情報提供に加えて、また蘇生にかかわる新規の医学的研究などを行い、その知見を合わせて発信できればと考えている。

担当理事 中川儀英



救急蘇生委員会

レサシテーションレポート…監視業務中でCPRを実施した際のレサシテーションレポートを集計した結果、5件の報告があった。日頃事故防止に努めるライフセーバーが、図らずもCPRを実施しなければならなかった場合、救急蘇生委員会ではデータを取得し、医学的なアドバイスを提供している。その数少ないCPR経験を多くのライフセーバーと共有することは事故防止につながり、さらに精神的・学問的な面での効果が期待される。CPR技術と知識の向上はもちろんだが、それらを発揮しなくて済むようなパトロール活動の構築へつなげたい。

CPR実施報告

月 日	時 間	AED使用	除細動	引き渡し時状況
8月 1日	13:00	あり	なし	死亡
8月 2日	14:00	あり	なし	心肺停止
8月 9日	13:30	あり	なし	心肺停止
8月 9日	11:00	あり	なし	心肺停止
8月13日	15:30	あり	なし	脈・呼吸回復

特徴としては、どのCPR事例も、AEDが使用されていることである。結果として除細動施行は無かったが、もはやAEDは必需と思われる。重溺のレスキューの際は、AEDの手配を忘れてはならない。

レスキュー委員会

全国海水浴場パトロール統計調査…国内海水浴場におけるパトロール成果の統計調査を行った。集計作業を簡易化するためのひな形を作成し、配布、集計を行い、その回収率は64.4%であった。パトロール統計分析ワーキンググループ会議を行い、溺水をとりまく要因の整理とその関係性を分析した。分析結果の一部は、2010年3月ライフセービングフォーラムで主に会員向けへ発表した。

今後はパトロール現場はもちろん、関係諸機関および広く一般社会へ分析結果を還元することを検討しており、現在その対象や媒体、方法論の検討に向けて努力している。2010年度はこのような統計調査とその分析より、パトロールシステムを構築し、水辺における安全管理についての提言へつなげたい。

*統計調査済みのデータはJLA公式ホームページより閲覧いただけます。

全国海水浴場調査…神奈川県(横浜海の公園海水浴場、片瀬西浜海水浴場、サザンビーチ茅ヶ崎)、沖縄県(北谷公園サンセットビーチ)以上4ヶ所の調査を行った。調査にともない報告書のひな形を作成。すでに2004年度から実施されており、2009年度までの調査結果をまとめる段階に入った。2010年度はその公開方法も検討していく。



教育部

講習運営委員会 / ジュニア教育委員会 / 学生委員会

教育部総括

「素晴らしいサーフライフセーバーを育成するのではなく、素晴らしいオーストラリア人を育成すること。私たちがライフセービングにおいて学んだことは、仕事において、そして家族を形成していくうえで、大きな手助けになっている。」

上記はSLSAのコメントである。JLAの活動もライフセービングそのものを学び、それを実践していく形態が確立されつつある。今日では、そこで獲得した生命尊厳の精神を、あらゆる分野に社会貢献を果たしていくことのあり方が、重要視され始めてきたように思う。

教育部は講習運営委員会、ジュニア教育委員会、学生委員会の3つの委員会で構成される。それぞれの共通点は、使命を遂行する過程において、与える側がより多くを“学ぶ”である。指導者が自然環境や受講者より“学ぶ”ことは“伝える”以上に存在する。この心得が活動における基軸となり、ひいては水辺の事故を未然に防ぐための、教育団体であり続ける姿勢といえるのではないだろうか。

ここでは担当理事という役割なので、委員会を簡潔に総括するが、「教育」に対し、私自身も夢を持って汗を流していく所存であることを申し上げておきたい。

講習運営委員会は、技術の確認、伝達を主とし、会員の各資格における講習内容を絶えず、よりよいものへと導く探求を行っている。また、指導者養成にも力を入れており、2008年度は40人も指導者を輩出した。2010年度は会員拡充や水辺における安全管理のニーズを受け、ウォーター資格の見直しや、それに伴う新資格の具体的検討に入

る。またJLAとILSの資格の互換性を鑑みていくことで、ライセンスの国際化を図ることも大いに期待される。

ジュニア教育委員会は、2008年度に日本財団の助成をいただき「指導指針」を発行するに至った。今年度は指導指針の改定を果たしつつ、地域クラブで実施されているジュニア教育活動(実施率45.8%:2006年度実態調査)を、より多く展開する架け橋となることを長期ビジョンとしている。なお、ジュニア教育が夏季に限定されない、非水辺における年間カリキュラムの開発にも期待が寄せられ、それらの指導に携わる有資格者のあり方を多角的に模索している。

学生委員会は、学生選手権の運営協力や、学生組織の代表を集めての「リーダーズキャンプ」など、JLAの原動力である学生にとって、大変有益な会を催している。またJLA活動形態のブランク(空白の3年間)ともいえる、高校生に着目し「高校生プログラム」や「高校生競技会」を開催している。大学生が高校生にライフセービングを伝え、寄り添う姿は頼もしい限りであり、今後、より多くの高校生がライフセービングに触れる機会を創造していくことが期待されている。

冒頭に記したオーストラリアの先進性から学びつつ、さらに日本の色彩を重ねていく可能性が教育には存在する。“何のため”に“誰のため”に(=自分のためとなる)を明確にし、ひとつひとつ活動を重ねていくことが、人と社会に変革をもたらす組織になりえるものと信じ、総括としたい。

担当理事 松本貴行



講習運営委員会

資格講習会の見直し…JLAが発行するライフセーバー資格の中で、ウォーターライフセーバー資格講習会のカリキュラム見直しを行った。その過程で、さらに導入編となるような新しいライフセーバー資格を新設することの必要性が見いだされ、検討に入った。この新しいライフセーバー資格は、15歳(高校生)以上対象、2日間ほどで取得できる低価格なものを想定している。2010年度では、若年層の取り込みと会員拡大に重点テーマをおき、実際の実施・運用に向け、多方面の人材でワーキンググループを作り、カリキュラム詳細の検討へ入りたい。

指導員研修会…サーフ資格 11月22日(日)・11月28日(土)神奈川県、11月29日(日)神戸、CPR資格11月23日(月)神奈川県にて実施。

既存のサーフ資格であるベーシック、アドバンス、そしてCPR資格の実技指導技術統一のために、実技研修に重点をおいた指導員研修会を実施した。2010年度は指導員資格継続の研修でさらに実技指導技術統一に力を入れ、指導員の自己研鑽へつなげたい。また、サーフおよびCPR指導員養成講習会の実施を予定している。



JLAライセンスのILS公認ライセンス化…国際ライフセービング連盟(以下ILS)より加盟各国に対し、自国のライセンスがILS公認ライセンスとして準拠するかについて、ヒアリングの機会が設けられた。それに伴い、予備知識のある該当委員会と共同で検討会を開き、ILS公認に向けての課題を検討した。2010年度以降は正式なワーキンググループを発足させ、公認取得へのプロセスを具体的に計画したい。

JLA競技会関連ワーキンググループの設置…公式競技会で、ライフセービング資格の知識・技術が評価されるSERC(シュミュレーテッド・エマーシェンシー・レスポンス・コンペティション)とCPRコンテストの2種目について、その教育的運営、展開、評価等について、ワーキンググループを設置して検討した。精度をあげるために、2010年度も継続したい。



ジュニア教育委員会

ジュニア教室の開催…日本財団による助成事業として18クラブ、第一三共株式会社による協賛事業として4ヶ所を開催した。このジュニア教室の開催によって、各地域クラブへのジュニア教育指導指針伝達と器材充実を図ることが可能になる。さらに保護者の意識調査を実施することで、子どもを参加させる保護者のニーズを探ることができた。今後もこの意識調査は継続して行い、その数値化を進めたい。ジュニア教室はすでに各地域クラブ単位でも活発に実施されており、JLAと地域クラブが情報共有ができる仕組みを考えたい。

臨海学園指導協力…東京都北区(11年目)、千代田区・板橋区(3年目)の各区教育委員会主催行事の臨海学園へ、ライフセービングのジュニア教室プログラムを提供し、指導協力を行った。参加児童生徒・指導員の方へのアンケートや教育実践により、ジュニア教育の課題や傾向が掴めた。2010年度はジュニア教育指導指針の検証とプログラム・指導法等の更なる開発をめざす。2009年度も指導者向けの事前研修をおこなったが、指導者要員の確保を含め、この事前研修の充実も図りたい。

ジュニア教室開催一覧

助成：日本財団		
開催日	場所	参加人数
6月28日	柏崎中央海岸(新潟県柏崎市)	20
7月1~3日	日間賀島東浜・西浜(愛知県)	60
7月10日	柏崎中央海岸(新潟県柏崎市)	170
7月12日	大磯海岸(神奈川県大磯町)	22
7月18日	青島海水浴場(宮城県宮崎市)	20
7月19日	横須賀市立神明小学校内プール(神奈川県)	60
7月19日	青島海水浴場(宮城県宮崎市)	20
7月22日	片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)	7
7月26日	鯨波海岸(新潟県柏崎市)	16
7月26日	大竹海岸(茨城県銚田市)	8
8月2日	大竹海岸(茨城県銚田市)	9
8月2日	中央海水浴場(千葉県勝浦市)	30
8月7日	大洗サンビーチ(茨城県)	21
8月8日	前原海水浴場(千葉県鴨川市)	32
8月8日	横浜海の公園海水浴場(神奈川県横浜市)	79
8月9日	大竹海岸(茨城県銚田市)	8
8月9日	相良サンビーチ(静岡県牧之原市)	15
8月15日	大竹海岸(茨城県銚田市)	55
8月16日	島郷海水浴場(静岡県沼津市)	35
8月16日	田ノ浦ビーチ(大分県大分市)	16
8月16日	渋川海水浴場(岡山県玉野市)	19
8月16日	阿児の松原海水浴場(三重県志摩市)	30
9月1日	恵庭市立島松小学校プール(北海道)	80
9月27日	北谷公園サンセットビーチ(沖縄県北谷町)	40
10月25日	柏崎アクアパーク(新潟県柏崎市)	10

協賛：第一三共株式会社		
開催日	場所	参加人数
7月20日	北谷公園サンセットビーチ(沖縄県北谷町)	69
7月26日	おたるドリームビーチ(北海道小樽市)	31
8月1日	片瀬東浜海水浴場(神奈川県藤沢市)	70
8月9日	柏崎中央海水浴場(新潟県柏崎市)	41

臨海学園指導協力			
主催	開催日	場所	参加人数
北区	7/21~8/6	岩井海水浴場(千葉県南房総市)	1021
千代田区	7/21~7/25	岩井海水浴場(千葉県南房総市)	214
板橋区	8/6~8/10	岩井海水浴場(千葉県南房総市)	105



第6回ジュニアライフセービング競技会…2009年8月23日(日)神奈川県藤沢市の片瀬東浜海岸で開催した。118名の参加があり、競技だけでなく、ニッパーボード

教室、ジュニア教室などを併催し、内容を充実させることができた。今後は競技会の方向性を検討しながら、運営マニュアルの作成等を行い、大会を継続していく。



ジュニア教育指導者研修会…指導指針の周知と情報交換のため、講義はもちろん地域クラブの実践報告等を行った。アンケートより参加者のニーズが探れたので、今後は指導者資格の構築を検討したい。そのために指導指針の検証と教材開発を継続していく。

開催日	場所	参加人数
6月20日	関西会場(神戸YMCA学院専門学校)	15
6月21日	関東会場(成城学園高等学校会議室)	32
11月15日	関東会場(東京メイカalsホーツ専門学校)	38
1月31日	関西会場(神戸YMCA学院専門学校)	34



学生委員会

学生リーダーズキャンプ…2010年2月6日(土)・7日(日)東京で開催された学生リーダーズキャンプでは29大学75名が参加。あらためてJLAや専門関連委員会についてのインフォメーションを行った。さらに外部講師として海上保安庁へ勤務しライフセーバーでもある寺門嘉之さんによる講演を開催した。なお、2010年4月17日(土)・18日(日)には大阪で西日本学生リーダーズミーティングを開催した。14大学44名が参加し、学校クラブのリーダーへライフセービングについて理解を深めてもらうため、ディスカッションなどを行った。今後も学生に対してライフセービングの様々な側面を学べる機会を増やすことを検討していく。

学生選手権大会…2009年9月26日(土)・27日(日)千葉県御宿町にて開催された第24回全日本学生ライフセービング選手権大会、2010年2月13日(土)・14日(日)静岡県浜松市で開催された第1回全日本学生ライフセービングプール選手権大会で、実行委員として大会運営へ加わった。9月の選手権では課ごとに定例会などを通じて準備を行い、参加校同士がコミュニケーションをとれる工夫を行った。初めて年度末に開催されたプール選手権では、卒業年度学生の参加まで見込まれ、盛況に実施できた。



高校生プログラム…2009年5月30日(土)神奈川県藤沢市・片瀬西浜海岸にて「海」、2009年12月20日(日)茨城県・流通経済大学龍ヶ崎キャンパスにて「プール」のプログラムを開催した。「海」では7クラブ、計47名が参加。初心者と経験者にわけてプログラムを実施した。「プ

ール」では6高校、2クラブ、計59名が参加。いずれも大学生の学生委員が高校生を指導する立場となり、一緒にライフセービングを考える良い機会となった。今後はまだライフセービングの認知自体に至っていない多くの高校へのPRを検討したい。



高校生ライフセービング競技会・記録会…2009年5月31日(日)神奈川県藤沢市・片瀬西浜海岸にて第1回高校生ライフセービング競技会を行った。5高校、3クラブ、計74名が参加。2007年度から始まった高校生プログラムの成果をみることができた。高校生が同じ年齢の仲間とライフセービングを楽しめ、また大学生による学生委員

のチームワークを確認できる貴重な場でもあった。今後は開催場所、時期などを検討していきたい。2010年2月14日(日)静岡県浜松市で開催された全日本学生プール選手権大会で併催された記録会では、2校、1クラブ、計9名が参加。どちらも興味がある高校生ならば誰でも参加可能なので、学校、保護者の方々へのPRを検討したい。



スポーツ部

競技運営・審判委員会／競技力強化委員会

スポーツ部総括

当協会は、JLAミッションを実現するために、救命、スポーツ、教育、福祉、環境といった分野でライフセービング活動を展開しています。その中で、スポーツ部に属する専門委員会は、競技運営・審判委員会と競技力強化委員会の2つがあり、「生命を救うスポーツ」としてライフセービング競技の普及・拡大・展開を担っています。また、ライフセービング競技には、「する」「見る」「支える」の3つの要素があり、選手として競技するライフセーバーから、審判員資格を取得して支える審判員、応援するために会場へ駆けつけてくれた仲間たちまで、数多くの会員の協力によって営まれています。そのライフセービング競技が目指しているものは、いのちを守り救うことにどれだけ貢献できるかにあります。つまり、競技会の開催を通して広くライフセービングを社会に普及し、実際に競技会で培われた心体が迅速な救助を可能にするであろうことが期待されているのです。このように、勝敗の先にこそ、ゴールの先にこそ、ライフセービング競技会の真の意義があるのではないのでしょうか。

さて、2009年度、競技運営面では、次の3つに力を入れて取り組んできました。1) 選手(する)、役員・審判(支える)、観衆(見る)の三位一体で行う競技会の創造。2) 理事会、委員会、事務局、地域クラブなどの関係者が一

体となって創り上げていく大会運営。3) 広報の強化と財源の有効活用。これらのねらいを以て、三洋カップの白良浜(和歌山県白浜町)開催、全日本学生プール選手権大会の新設、魅せる会場設営などが新たなチャレンジとして行われました。次に、競技力の強化面では、2008年に出場した世界選手権(ドイツ大会)の結果を総括し、2010年に開催の世界選手権(エジプト大会)に向かって新たな組織体制での強化プログラムが始まり、競技力強化委員会や監督が中心となり、コンディショニング科学委員会の協力の下、強化指定選手たちに最新のコーチングが行われました。その軸となっている強化方針は、「代表強化」「指導者養成」「ユース育成」という三位一体で、ライフセーバーの体力強化や競技の正しい普及を目指すことにあり、海やプールで行われた強化合宿には多くの選手たちが参加しており、実際に所属クラブにそのノウハウが持ち帰られ、全国に普及されていくことが期待されています。

最後に、ライフセービング競技会において、会員や関係者の皆様方から多大なご支援ご協力を頂き、今日の成功につながっておりますことをここに深く御礼申し上げます。

担当理事 稲垣裕美



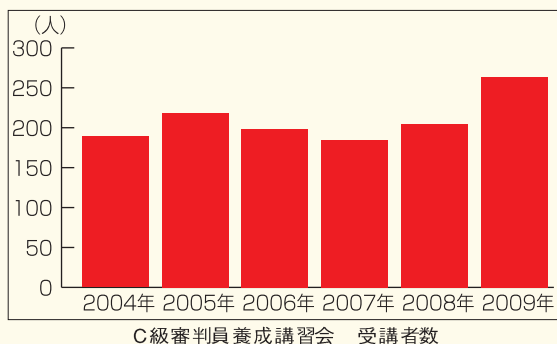
競技運営・審判委員会

審判員の養成講習会・研修会など…2009年度C級審判員養成講習会は全7回開催。年々受講者が増加傾向にある。16歳以上であればだれでも参加、取得できる(ただし、資格を取得するにはJLA会員登録(正会員または一般会員)が必要)。2009年度は初めて北海道で開催したが、今後はもっと地域クラブ主催による講習会実施が増やせるよう検討したい。すでに資格取得をしている認定審判員については、規定の改正を行い、2008年度からデータベース化を開始。各有資格の審判員の活動履歴が、ホームページ上で閲覧できるようになった。今後はデータの定期的な更新を継続していきたい。

また審判員研修会は全2回を開催し、競技規則改正点などを伝達した。さらにC級審判員養成講習会で使用する教材をグレードアップし、講習会の指導要領を作成した。

開催日	開催地	人数
2009年4月25日(土)	千葉県東金市/城西国際大学	92名
2009年6月20日(土)	千葉県東金市/城西国際大学	25名
2009年8月29日(土)	北海道小樽市/おたるドリームビーチ	4名
2009年9月5日(土)	神奈川県藤沢市/江の島女性センター	42名
2009年10月4日(日)	神奈川県藤沢市/江の島女性センター	32名
2010年1月30日(土)	兵庫県神戸市/神戸YMCA学院	26名
2010年1月31日(日)	東京都港区/日本財団	43名

開催日	開催地	人数
2010年1月30日(土)	兵庫県神戸市/神戸YMCA学院	午前17名 午後4名
2010年1月31日(日)	東京都港区/日本財団	午前61名 午後26名



キャップおよび水着規定の作成…キャップ規定を作成し、2009年7月15日より施行。また2010年1月から施行された国際水泳連盟の新水着規定に伴い、国際ライフセービング連盟は、ある程度国際水泳連盟に準拠しながら独自に水着規定を作成し公表した。JLAは、国際ライフセービング連盟の水着規定に準拠して水着規定を作成し、2010年2月13日に実施された第1回全日本学生ライフセービングプール競技選手権から施行した。

競技規則の改正…国際ライフセービング連盟は2009年9月に競技規則の改正を行った。JLAは、改正点一覧表をまとめ、審判員研修会にて会員に対して伝達を行った。さらに競技規則2010年版を製本するとともに、ホームページに掲載した。

開催日	大会名	審判員数/スタッフ数
5月16日~17日	第22回全日本プール競技選手権	74 / 31
6月7日~8日	第22回全日本種目別選手権	82 / 48
8月23日	第6回ジュニア選手権	21 / 45
9月12日	第10回オーシャンサーフチャレンジin白浜 兼全日本選手権西日本地区予選	29 / ※
9月13日	三洋物産インターナショナル ライフセービングカップ2009	28 / ※
9月19日~21日	全日本選手権東日本地区予選	82 / 40
9月26日~27日	第24回学生選手権	76 / 118
10月10日~11日	第35回全日本選手権	81 / 91
2月13日~14日	第1回学生プール競技選手権	80 / 57



競技運営…JLA公式競技会の運営を行い、公認競技会へ審判を派遣した。各競技とも実行委員会を主導とした計画的な準備と役割分担が行われたが、その方法や改良点など次の課題も見つかった。参加人数の多い全日本ライフセービング選手権大会では、特に予選会のあり方を検討したい。また競技会当日の気象情報を客観的に把握できる制度を導入し、競技実施の基準を明確化するための検討を行いたい。さらに国際大会や他のスポーツとの標準的な概念として、ドーピングテストについての取扱いを検討していく。

第22回 全日本ライフセービング プール競技選手権大会	
開催月日：2009年5月16日(土)・17日(日)	
開催場所：横浜国際プール(神奈川県横浜市)	
参加人数：40チーム・498名	
後援	文部科学省 神奈川県 横浜市 財団法人日本水泳連盟 日本赤十字社
協賛	レールダルメディカルジャパン株式会社 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
協力	有限会社吉田三郎商店 神奈川県水泳連盟 日本ライフセービング協会神奈川県支部



第22回 全日本ライフセービング 種目別選手権大会	
開催月日：2009年6月6日(土)・7日(日)	
開催場所：白浜大浜海岸(静岡県下田市)	
参加人数：50チーム・547名	
後援	国土交通省 海上保安庁 海上保安庁下田海上保安部 静岡県 下田市 下田市教育委員会 下田市観光協会
協賛	ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社
協力	伊豆白浜観光協会 原田区 伊豆急不動産株式会社 有限会社吉田三郎商店 国際武道大学トレーナーチーム NPO法人下田ライフセービングクラブ 日本ライフセービング協会中部支部



第35回 全日本ライフセービング選手権大会 西日本地区予選会 兼 オーシャンサーフチャレンジin白浜	
開催月日：2009年9月12日(土)	
開催場所：白良浜海水浴場(和歌山県白浜町)	
参加人数：11チーム・123名	
後援	和歌山県
協賛	白浜町 白浜観光協会 白浜温泉旅館協同組合 白浜町商工会 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
協力	白浜町議会 有限会社吉田三郎商店 NPO法人 大阪ライフセービングクラブ NPO法人京都ライフセービング NPO法人 神戸ライフセービングクラブ 大阪体育大学ライフセービングクラブ

第35回 全日本ライフセービング選手権大会 東日本地区予選会	
開催月日：2009年9月19日(土)・20日(日)・21日(月)	
開催場所：本須賀海岸(千葉県山武市)	
参加人数：43チーム・1013名	
後援	文部科学省 国土交通省 総務省消防庁 海上保安庁 神奈川県 山武市 日本赤十字社 オーストラリア大使館 豪日交流基金 朝日新聞社 日刊スポーツ新聞社
特別協賛	第一三共株式会社
協賛	レールダルメディカルジャパン株式会社 株式会社オッシュマンズ・ジャパン
協力	サントリー食品株式会社 九十九里地域観光連盟 国際武道大学トレーナーチーム NPO法人九十九里ライフセービングクラブ
* 台風の影響により、サーフ競技種目実施無し	



第35回 全日本ライフセービング選手権大会
開催月日：2009年10月10日(土)・11日(日)
開催場所：片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)
参加人数：54チーム・1136名
後援：文部科学省 国土交通省 総務省消防庁 海上保安庁 神奈川県 和歌山県 藤沢市 山武市 白浜町 日本赤十字社 オーストラリア大使館 豪日交流基金 朝日新聞社 日刊スポーツ新聞社
特別協賛：第一三共株式会社
協賛：レールダルメディカルジャパン株式会社 株式会社オッシュマンズ・ジャパン
協力：湘南海上保安署 サントリー食品株式会社 財団法人かながわ海岸美化財団 社団法人藤沢市観光協会 株式会社湘南なぎさパーク 有限会社吉田三郎商店 株式会社湘南ライセンス 鶴沼サーフショップ組合 鶴沼ビーチクリーンクラブ 日本サーフィン連盟湘南藤沢支部 白浜町議会 白浜町観光協会 白浜温泉旅館協同組合 白浜町商工会 田辺海上保安部 九十九里地域観光連盟 国際武道大学トレーナーチーム 日本ライフセービング協会神奈川県支部 NPO法人西浜サーフライフセービングクラブ NPO法人九十九里ライフセービングクラブ NPO法人大阪ライフセービングクラブ NPO法人神戸ライフセービングクラブ NPO法人京都ライフセービング 大阪体育大学ライフセービングクラブ
*東日本地区予選会での未実施種目の影響で一部競技種目実施無し



第24回 全日本学生ライフセービング選手権大会

開催月日：2009年9月26日(土)・27日(日)
開催場所：御宿海水浴場(千葉県御宿町)
参加人数：46チーム・623名
後援：文部科学省 国土交通省 総務省消防庁 海上保安庁 千葉県 千葉県教育委員会 財団法人ちば国際コンベンションビューロー 御宿町 御宿町教育委員会 御宿町観光協会
協賛：株式会社三洋物産/株式会社三洋販売 株式会社オッシュマンズ・ジャパン
協力：勝浦海上保安署 有限会社吉田三郎商店 国際武道大学トレーナーチーム NPO法人九十九里ライフセービングクラブ 御宿ライフセービングクラブ



第4回 三洋物産インターナショナル ライフセービングカップ

開催月日：2009年9月13日(日)
開催場所：白良浜海水浴場(和歌山県白浜町)
参加人数：5カ国・60名
後援：和歌山県 白浜町 白浜町議会 白浜観光協会 白浜温泉旅館協同組合 白浜町商工会 日刊スポーツ新聞社 株式会社BS朝日
特別協賛：株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
協力：サントリー食品株式会社 株式会社日本航空



第1回 全日本学生ライフセービング プール競技選手権大会

開催月日：2010年2月13日(土)・14日(日)
開催場所：古橋廣之進記念浜松市総合水泳場 ToBiO (静岡県浜松市)
参加人数：35チーム・441名
後援：静岡県 静岡県教育委員会 浜松市 財団法人日本水泳連盟
協賛：株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
協力：浜松ホテル旅館協同組合 有限会社吉田三郎商店 日本ライフセービング協会中部支部



公認競技会

第11回 神奈川県ライフセービング選手権大会
開催月日：2009年5月24日(日)
開催場所：湘南ひらつかビーチパーク(神奈川県平塚市)
参加人数：35チーム・362名
主催：NPO法人神奈川県ライフセービング連盟
後援：神奈川県教育委員会 神奈川県平塚市 平塚市教育委員会 湘南ひらつかビーチ共同事業体 日本ライフセービング協会 ハワイ州ライフガード協会
特別協賛：株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
協賛：GUARD SHOP (櫻井興行GUARD事業部)
協力：湘南ひらつかライフセービングクラブ

第7回 神奈川県ライフセービング プール競技選手権大会
開催月日：2009年11月8日(日)
開催場所：さがみはらグリーンプール(神奈川県相模原市)
参加人数：39チーム・493名
主催：NPO法人神奈川県ライフセービング連盟
後援：神奈川県教育委員会 神奈川県相模原市 相模原市教育委員会 神奈川県水泳連盟 SSF 笹川スポーツ財団 ハワイ州ライフガード協会 日本ライフセービング協会
特別協賛：株式会社三洋物産/三洋販売
協賛：GUARD SHOP
協力：相模原市水泳協会

第5回 ライフセービングチャンピオンシップスin島根
開催月日：2009年9月5日(土)・6日(日)
開催場所：島根県立石見海浜公園(島根県浜田市)
参加人数：9チーム・55名
主催：ライフセービング・チャンピオンシップスin島根実行委員会
後援：島根県 浜田市 浜田市教育委員会 浜田海上保安部 浜田警察署 漁業協同組合JFLまね 日本ライフセービング協会
特別協賛：株式会社三洋物産/三洋販売
協賛：国民宿舎千畳苑 ブルーコーンズ
協力：NPO法人広島ライフセービング キララライフセービングクラブ 株式会社ISP 全国豊かな海づくり大会をサポートする市民1000人の会

第7回 千葉県ライフセービング競技大会
開催月日：2009年10月25日(日)
開催場所：原岡海岸(千葉県南房総市)
参加人数：22チーム・360名
主催：第7回千葉県ライフセービング競技大会実行委員会
後援：千葉県 千葉県教育委員会 南房総市 千葉海上保安部 社団法人千葉県観光公社 財団法人ちば国際コンベンションビューロー 社団法人千葉県観光協会 南房総市観光協会 千葉日報社 千葉テレビ放送株式会社 日本ライフセービング協会
特別協賛：株式会社三洋物産/三洋販売 株式会社カワサキスポーツサービス



競技力強化委員会

国内競技会の視察…第4期(2009年11月～2010年10月)強化指定選手選考のため、競技会を視察し、全体の競技レベルの把握を行った。

国内強化合宿の実施…現在、強化プログラムに基づき強化指定選手は「A代表」「B代表」「U19育成」の3つのカテゴリーに分かれている。2009年度も引き続き、第3期(88名)ならびに第4期(81名)の強化指定選手に対して、強化合宿を実施した。プールでは11月に開催されたジャ

ーマンカップ(ドイツ)への参加を意識した内容となった。ビーチでは種目別強化として日本が得意とするビーチフラッグスの若手育成と、弱点とするビーチスプリントの克服のための基礎トレーニングを実施。フィジカルトレーニングではコンディショニング科学委員会との連携が実現した。今後はさらなる連携を図り体力測定の実施を検討したい。さらに2010年10月は2年に一度の世界大会Rescue2010がエジプトで開催される。その代表チームづくりに的を絞った選手育成へ力を入れたい。



強化合宿一覧			
内容	開催日	場所	参加人数
プール強化合宿	2009年4月5日(日)	専修大学(神奈川県)	37
	2009年4月26日(日)	専修大学(神奈川県)	36
	2009年10月18日(日)	専修大学(神奈川県)※日本代表	10
	2009年11月1日(日)	都内プール(東京都)※日本代表	9
	2009年11月7日(土)・8日(日)	さがみはらグリーンプール(神奈川県)※日本代表	10
	2010年1月31日(日)	都内プール(東京都)	39
	2010年2月21日(日)	都内プール(東京都)	41
	2010年3月28日(日)	流通経済大学(茨城県)	26
ビーチ強化合宿	2009年4月19日(日)	片瀬東浜海岸(神奈川県)	10
サーフ強化合宿	2009年12月26日(土)・27日(日)	北条海岸(千葉県)	37
	2010年1月23日(土)・24日(日)	白浜大浜海岸(静岡県)	55
	2010年3月6日(土)・7日(日)	国際武道大学/御宿海岸(千葉県)	25
フィジカルトレーニング	2010年1月30日(土)	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)	41
	2010年2月27日(土)	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)	40
	2010年3月27日(土)	東京スポーツレクリエーション専門学校(東京都)	33

日本代表選手の派遣…国際大会への経験値を増やし、2010年の世界大会へ臨むため、2009年度は初めて海外プール大会(ジャーマンカップ/ドイツ)へ日本代表選手を派遣した。今後も救助力の向上につながる競技力の向上を目指す上で、代表選手および強化指定選手への自覚を常に再確認しながら国際大会へ参加したい。また大会結果から課題を見つけ改善に取組み、2010年世界大会の上位入賞を目標にしたい。



日本代表選手の派遣一覧			
大会	派遣期間	場所	参加人数
三洋物産インターナショナル ライフセービングカップ2009	2009年 9月11日～14日	白良浜海水浴場(和歌山県白浜町)	A代表: 10 B代表: 10
ジャーマンカップ	2009年11月16日～22日	ドイツ・ワーレンドルフ	10
全豪選手権大会	2010年 3月14日～22日	オーストラリア・ゴールドコースト	16

セミナー等の実施…2010年1月16日(土)・17日(日)、21日(土)・22日(日)、SLSA(サーフライフセービングオーストラリア)からサーフコーチを招聘し、湘南海岸公園サーフビレッジ(神奈川県藤沢市)でコーチングセミナーを実施した。計110名が参加。これは国内のコーチ資格制度確立の準備として、またSLSAサーフコーチ資格講習会の内容とスポーツへの取り組みに対する具体的な情報収集の場として大変貴重なセミナーとなった。参加者の関心も高く、国内の競技力強化と地域クラブへの還元ができるよう、今後の継続方法を検討したい。

また2010年2月14日(日)、全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会内で、クリニックを開催した。技術指導を通じ、マニュアル化の必要性を認識し、今後の課題としたい。





COLUMN 1

レスキューアスリートとしての競技

—日本と世界のレベル—

ライフセービングには「競技のNo.1はレスキューのNo.1である」という言葉がある。

他のスポーツは「より高く、より速く、より強く」が醍醐味であれば、ライフセービング競技は「より安全に、より確実に、より迅速に」のレスキューの原則が求められている。

それは、ライフセービング競技が実際のレスキューを想定し作られ、レスキューに求められる救助技術、体力の向上のために競い合う競技だからである。もちろん、スポーツである以上、選手は勝利を目指して全力で競い合う。しかし、真の目的は勝利することではなく、その先に救う命があること忘れてはならない。

全世界では2分に1人の割合で水の事故で亡くなっている。その数を減らす取り組みとして、世界の各国でライフセービング競技会が開催され、世界中のライフセーバーが同じ使命で競い合い、救助技術を高め合っている。2年毎に世界の国々が集まりプール競技とサーフ競技で競技のNo.1を決める世界大会が開催されている。日本も同大会に出場し日本が「競技No.1=レスキューNo.1」になることを目標に世界と戦っている。日本の競技レベルが向上すれば、日本の救助力が向上し、溺者の数も減らすことにも繋がることになるだろう。

日本の競技レベルはアジア圏ではサーフ競技、プール競技ともトップレベルである。2005年に香港で開催されたアジア選手権では総合優勝を果たしている。また、世界大会(RESCUE2008)の総合成績は、Rescue2008にて11位/36カ国という成績であり、決して世界から見ても低くはない。しかし、世界の競技レベルの1位であるオーストラリアと成績ポイントを比べると、オーストラリアは889Pに対し、日本は244Pであり、4倍近い差をつけられている。そう考えると、競技力はオーストラリアには大きく差を広げられているのが事実である。

競技別に見ると、サーフ競技では、やはりオーストラリアのレベルが高く、ニュージーランド、南アフリカが続く。サーフ競技は南半球の国のレベルが高いのがわかる。日本のサーフ競技のレベルは日本の強みでもあるビーチ種目の活躍もあるが、ここ近年、少しずつではあるが世界と戦える実力を付けてきている。世界大会でもサーフ競技

では7位と健闘しているが、プール競技は11位であった。プール競技ではヨーロッパ圏のレベルが高く、特にイタリア、ドイツが強さを見せている。このプール競技が日本の弱点でもある。レベルが高いヨーロッパ勢に大きく差を広げられている。世界大会ではサーフ競技でヨーロッパ勢より上位でも、プール競技の差を埋めることはできず、総合成績ではヨーロッパ勢に劣ってしまう。日本総合成績を上げるには、プール競技のレベルを強化することが必要なのである。

成績だけで競技レベルの評価はできないが、「競技No.1=レスキューNo.1」を目指し、世界の国々が競い合っている。日本も競技レベルを上げ、世界との差を縮めなければならない。

ライフセービング競技No.1国であるオーストラリアと日本の競技レベルの差はどこにあるかを考えると、その1つはライフセービング競技の経験の差が大きく関わっている。オーストラリアでは7歳からライフセービングクラブに所属でき、クラブが子供たちを対象としたプログラムを行っている。クラブでジュニア大会などを企画して、子供のころからライフセービング競技に参加し、競い合っている。日本では大学からライフセービングをスタートする人がほとんどであり、ここで10年以上の差が生まれてしまう。これでは競技レベルの差がでるのは目に見えている。日本でもここ近年はジュニアのプログラムを行っているクラブが増え、ライフセービングを始める子供たちが増えてきている。ジュニア競技会も開催され、レースに出場している。オーストラリアのように、ライフセービングに関わる子供たちが増えていけば、時間はかかるが、自然と競技レベルも上がってくるだろう。そして、日本のライフセービングの普及・発展にもつながってくるであろう。これからはジュニアの育成が必要不可欠なのである。

競技レベルだけを見ると、世界との差はまだ大きい。日本が競技No.1になるには時間がかかるだろう。しかし、その使命を達成するまで、決して諦めず、競技力強化委員会も挑みたい。

(青木克浩)

医・科学部

コンディショニング科学委員会／アンチ・ドーピング委員会／学術研究委員会

医・科学部総括

2008年度の組織編成に伴い、「医科学的なサポートは競技だけでなくライフセービング界全体に対するサポートを行うべきである」との考えから、スポーツ部の中に位置づけられていたスポーツ医科学研究委員会が、医科学部として独立し、その委員会として、コンディショニング科学委員会、アンチ・ドーピング委員会、学術研究委員会が設置された。2009年度はこの理念を追求すべく、ライフセーバー全体に対する情報提供をテーマに活動を行った。以下にその内容を示す。

2009年12月13日に帝京平成大学を会場として、2008年度に引き続きコンディショニング科学委員会とアンチ・ドーピング委員会の共催で、第2回コンディショニングセミナーを開催した。内容は、アンチ・ドーピング活動の啓蒙、パトロール活動中のコンディショニング調査報告、傷害予防のためのセルフコンディショニング(実技)であった。また、セミナー開催に合わせ「ベストレスキューは毎日のコンディショニングから生まれる」をキーワードにセルフコンディショニングに関するリーフレットの作成を行い、全参加者に配布した。パトロール活動中のコンディショニング調査においては、各浜のリーダーに協力していただき、基礎資料となるデータを収集できたことは非常に有益なものとなった。代表的な調査結果としては、トレーニング後のクールダウンの未実施など、ライフセーバー自身の身体のメンテナンスが不十分であることが挙げられた。セルフコンディショニングにおける実技においても、全体的な傾向として柔軟性や筋力などの基本的な身体機能において改善の余地があり、今後継続してコンディショニングに関する情報提供していく必要が感じら

れ、今回行ったリーフレットの作成などの普及活動は今後も継続して行っていく必要があると感じた。

大会時のスポーツ医科学サポート活動(主に救急処置とコンディショニング指導)としては、国際武道大学トレーナーチームの協力のもと、プール選手権を除く、計4大会のトレーナーステーションの設置を行った。2009年度から、高島整形外科病院の協力もいただいて、これまでトレーナーステーションを設置できなかった関西地区で行われるオーシャンサーフチャレンジにおいても活動を行った。また、コンディショニング科学委員会のメンバー(全員日本体育協会公認アスレティックトレーナー)が中心になり、日本代表チームの遠征、合宿帯同、講習会開催なども行った。大会、合宿帯同時には、治療を中心としたトレーナー活動ではなく、あくまでセルフコンディショニングを行える選手の育成を目指して、選手自身に気づきを与え、選手自身で自分の身体を整えることができるように指導・教育することを中心に行った。

学術研究委員会としては、研究活動助成金制度により、「ライフセービングに関する文献・記事の収集調査」、「水辺利用者が求める安全知識に関する調査」の2テーマについて助成し、JLAライフセービングフォーラムにおいて概要を報告した。

将来展望としては、今年度行ってきた活動を、簡潔に整理して、ホームページやDVDの作成などの情報戦略も含め、全国のライフセーバーに正しく、そして広く普及できるよう努めていきたい。

担当理事 山本利春

コンディショニング科学委員会 アンチ・ドーピング委員会

コンディショニングセミナーの実施…2009年12月13日(日) 帝京平成大学池袋キャンパス(東京都豊島区)にて、第2回セミナーを開催。237名が参加。ライフセーバーとして『自分の身体を管理する(セルフコンディショニング)』という事に重点テーマをおいた。またアンチ・ドーピング委員会によるドーピング対策の講話も実施。アンチ・ドーピングについての啓蒙活動のひとつとして予備知識を伝達できた。身体部位別のコンディショニングについては実技を十分なローテーションを組んで実施した。

2009年度はこの機会に合わせてリーフレットを作成。今後も多くのライフセーバーの手に渡るよう配布したい。

その他活動…公式競技会で協力者のもとトレーナーステーションを設置した。またライフセーバーのパトロール中のコンディショニングを把握するため、アンケート調査を実施、基礎資料を作成した。今後は質問の意図が明確に伝わるよう改善しながら継続したい。

2009年度は日本代表サポートとして、フィジカル講習会を実施。トレーニングの重要性を専門的立場から伝えることができた。さらに海外遠征に帯同し、サポートにあたった。



学術研究委員会

研究活動助成制度の実施…ライフセービングに関する研究の機会を広げ、ライフセービング関連分野の学術的視点からの水準の向上を図ることを目的とした制度として実施した。2009年度は以下のテーマに助成した。

- ①「ライフセービングに関する文献・記事の収集調査」
- ②「水辺利用者が求める安全知識に関する調査」

なお、研究成果はホームページ等にて発表する。

ライフセービングフォーラムの実施…2010年3月13日(土)、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)にて開催した。127名が参加。午前中は特別講師としてジャスティン・スカー氏(ILS Child Drowning Committee委員長)をお招きし「アジアにおける子どもの水難事故防止の現状と課題」と題した講演を実施した。続くディスカッションではジャスティン氏、松本貴行(教育部担当理事)、相澤千春(国際委員会委員長/ILS特別委員会委員)らにより「アジア太平洋地区のライフセービングの課題と展望」と題し意見交換した。午後はレスキュー委員会と環境委員会による専門委員会報告、学術助成による2テーマの研究報告、最後に3委員会(レスキュー委員会、環境委員会、ジュニア教育委員会)による「ライフセービングの社会的役割」と題したテーマセッションを実施した。



環境部

環境委員会

環境部総括

環境委員会は、日本ライフセービング協会が目指す水辺の事故ゼロの活動の一環として、波、流れなど自然環境に関わる知識のライフセーバーへの普及、学術研究委員会など各委員会との連携による水難事故の多角的な分析とそのメカニズムの解明を主な活動目的として、2008年5月に小峯理事長の指導のもと3名の委員により活動を開始しました(当委員会の前身は2004年のスマトラ沖地震による津波被害を受けて緊急的に発足したJLA津波対策小委員会)。

2009年度の調査より、海辺の事故は主に以下の3つの要因によって発生すると考えられます。環境委員会では、各委員の専門性を活かして、特に『自然環境』に主軸をおいて、事故の分析を行っています。

『自然環境』: 波、離岸流などの流れ、海浜地形など

『人・教育』: 飲酒や発病など利用者自身の問題の他、海(自然)の基本的知識や安全意識の欠如など

『社会環境』: 我が国の水辺の安全管理体制が不十分であることなど。

これまでの活動内容は、学識者、行政研究者、民間技術者による合同離岸流調査(土木学会主催)への協力、データ等の分析、神奈川県藤沢市引地川河口において発生した水難事故の分析を行い、調査結果をとりまとめて対外発

表を行いました。対外発表論文は、総務省の「地域・救助活動の体制強化に関する調査・研究会」の委員会資料に採用されるなど、行政からも高い評価を得ました。また、このような活動を通して、JLAがライフセーバーという立場から水難事故の要因分析に積極的に取り組んでいることが認められつつあり、小峯理事長が海岸や水難事故防止に関する国の重要な各種委員会(※下記参照)の委員に選任されるなど、ライフセーバーとしての新たな社会的責務を担うことにつながったと考えています。

このほか2009年度では2007年度から3ヵ年計画で実施した全国の水辺の安全管理体制に関する調査研究(日本財団助成事業)について最終報告書をまとめました。

今後は、波・流れ・地形などの自然環境について簡単に取りまとめ、ホームページなどを利用して、ひろく会員や一般の方々へその情報を提供したいと考えています。また各委員会との連携により、日本版ABSAMP^{注)}の立案も視野に入れつつ、水難事故の多角的な分析を進めていく予定です。

環境委員長 石川仁憲

※1) 総務省「地域・救助活動の体制強化に関する調査・研究会」委員
2) (社)土木学会海洋開発委員会委員
3) 国土交通省「中期的展望に立った海岸保全検討委員会」委員
4) 水産庁「中期的展望に立った海岸保全検討会」委員
5) (財)日本水路協会「流況が複雑な海域における水難事故防止のための調査研究」委員

注) The Australian Beach Safety & Management Program (ABSAMP): オーストラリアにおける波高や地形などを考慮したビーチのリスク評価。この評価基準をベースにして、ニュージーランド、イギリス、ブラジル、ハワイなどでも同様な各ビーチのリスク評価が実施されている。

環境委員会

水難事故調査・分析…2007年8月4日に神奈川県藤沢市引地川河口で発生した水難事故について、主に自然環境(波、流れなど)の側面から要員分析を実施した。分析結果をまとめた論文は「平成21年度 海洋開発シンポジウム」(土木学会)にて採択され、前述したように総務省「地域・救助活動の体制強化に関する調査・研究会」の資料に採用された。この論文はJLAホームページへアップし、広く公開している。今後は他委員会とも連携をはかり、多角的(自然的要因、教育的要因、安全管理体制など)に水難事故について分析し、事故防止へフィードバックしたい。また今までの調査成果を国際ライフセービング連盟(ILS)が2011年に開催する「World Conference on Drowning Prevention 2011」へ投稿する準備を始めている。

全国の水辺の安全管理体制に関する調査・研究…日本財団の助成により、ライフセービングクラブの全国普及の基礎資料とするために3年計画で全国海水浴場安全管理体制調査を実施した。2007年度は、特に社会システムの的な問題である各関係公的機関や関係法規の現状の整理を行った。2年目である2008年度は、ライフセービングクラブの運営の一般的な課題の整理を行い、事例調査として2つの地域ライフセービングクラブの運営状況調査を実施した。最終年度である2009年度は、さらに事例調査地域を増やし、ライフセービングクラブの運営の事例蓄積を行うと共に、体系的なクラブ運営方法や各関係機関との関係構築方法などの提言を行った。3カ年のまとめと報告書を作成し、JLAホームページへ掲載予定。今後はワークショップなどを開催し、直接伝える場を検討したい。

今までの対外発表(論文等)

「海水浴場における津波に対する危機管理の現状と課題」

小峯力・風間隆宏・大國浩太郎・石川仁憲・堀口敬洋・川地政夫
海洋開発論文集
第22巻 2006年7月

「海岸の安全利用からみた静穏時離岸流の現地調査

—研究者、実務者と海岸利用者との連携の試み—
青木伸一・上野成三・西隆一郎・小峯力・石川仁憲・堀口敬洋
海洋開発論文集
第24巻 2008年7月

「海水浴場における安全管理体制構築に関する基礎的研究」

風間隆宏・小峯力・稲垣裕美・中塚健太郎・川地政夫
海洋開発論文集
第24巻 2008年7月

「沿岸域防災と安全利用に関するシンポジウム(第2部)

静穏時離岸流とその予測

—海岸利用者から見た海岸構造物設計の課題—
小峯力・石川仁憲・堀口敬洋
第55回海岸工学講演会(講演)
2008年11月

「海浜における水難事故の発生要因と予防策」

小峯力・石川仁憲・風間隆宏・堀口敬洋
海洋開発論文集
第25巻 2009年6月

COLUMN 2

ライフセービングの国内現状

—水辺の事故ゼロを目指して—

JLAが関与している全国海水浴場割合の現状

全国に何箇所の海水浴場があるかご存知であろうか。表-1に2003年に農林水産省(漁業センサス)によって調査された都道府県別の海水浴場数及び海水浴客数と、2009年にJLAによって調査された地域ライフセービングクラブ(LSC)数を示す。全国の海水浴場数は1,441箇所、海水浴客数は4,230万人である。都道府県別に見ると、海水浴場数では、長崎県が最も多く87箇所、次に千葉県86箇所、新潟県が77箇所、鹿児島県が71箇所、福井県が70箇所、静岡県が67箇所と続く。次に海水浴客数では、神奈川県が最も多く504万人、次に新潟県が399万人、沖縄県が361万人、千葉県が287万人、茨城県と静岡県が241万人と続く。

一方JLAが関与している海水浴場数は、どの程度であろうか? 図-1、2に活動海岸数とクラブ数の推移を示す。2009年現在、全国にLSCは82クラブ、活動海水浴場数は206箇所であり、JLAが関与している全国の海水浴場割合は14%程度に過ぎない。表-1を見ると北は北海道から南は沖縄県まで全国各地に存在しているが、地域によってその数は大きく異なる。最も多いのは神奈川県で17クラブ(県支部含む)、次に千葉県、静岡県との10クラブと続く。関東近県の多くのクラブが集中し、東北、北陸、九州、四国、東北はクラブ数が少ない。

様々な方々の努力によりLSC数は年々増加傾向にあるが、その数は地域差が顕著であり、またLSCがない県もある。またLSCがある県においても、海水浴場数や海水浴客数に対して十分なLSCは設置されていない。比較的充実しているのは神奈川県、千葉県、静岡県のみである。

JLAが「水辺の事故ゼロ」に向けて活動していくには、LSC数・活動海水浴場数を増加させ、JLAの資格を持ったライフセーバーを、あまねく日本全国全ての海水浴場に配置することが目標の一つである。その目標達成には様々な課題がある。ライフセーバー数を増やすこと。ライフセーバーの地位向上。海水浴場に継続的なライフセーバーの配置ができるように、先進的なLSC運営参考事例を共有し、クラブ運営が出来る人材の育成を行うこと。そして海岸管理関係(海岸管理者・海水浴場開設者)、救助・救急関係(海上保安庁・消防・警察・行政防災担当部署)、観光関係(行政観光担当部署・観光協会)など様々な公的機関と連携し地域の中で信頼関係を築いていくことなどが上げられる。

現在支部協議委員会や専門委員会などで全国普及に向けた様々な取り組みがなされている。ボランティアベースが基本のライフセービングでは、やはり一人一人の熱い思いや勇気ある実践の積み重ねが重要である。

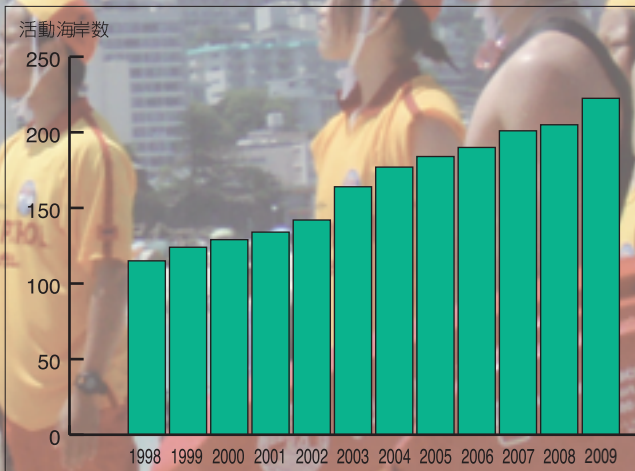


図-1
これは全国パトロール統計調査によって把握する加盟クラブにおける活動海岸数(プール含)。この活動海岸ではJLA有資格ライフセーバーによる監視救助活動が実施されている。毎年10%の割合で活動海岸が増加している

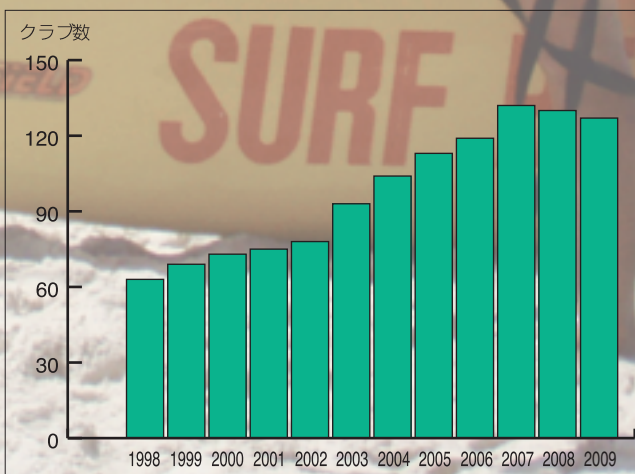


図-2
1998年に63であった登録クラブ数が、2009年には約2倍の125クラブとなっている。2009年の内訳として、地域クラブが82、学校クラブが43となっており、地域クラブが学校クラブの約2倍となっている

表1 海水浴場・海水浴客数 LSC数

	海水浴場数	海水浴客数(百人)	LSC数
1 北海道	54	13,208	2
2 青森	30	7,357	1
3 岩手	26	2,448	4
4 宮城	31	5,174	0
5 秋田	17	4,560	1
6 山形	15	6,894	0
7 福島	18	3,870	0
8 茨城	17	24,143	4
9 千葉	86	28,798	10
10 東京	38	1,331	8
11 神奈川	32	50,497	16
12 新潟	77	39,918	2
13 富山	11	7,901	0
14 石川	36	4,353	0
15 福井	70	11,001	1
16 静岡	67	24,141	10
17 愛知	26	8,295	1
18 三重	42	9,899	※
19 京都	28	10,432	1
20 大阪	5	6,542	2
21 兵庫	48	20,826	1
22 和歌山	35	11,183	※
23 鳥取	15	2,280	2
24 島根	43	6,660	2
25 岡山	16	5,162	1
26 広島	28	6,012	2
27 山口	55	6,764	1
28 徳島	9	1,525	0
29 香川	42	5,611	0
30 愛媛	56	6,294	0
31 高知	12	2,291	0
32 福岡	28	5,010	2
33 佐賀	11	3,057	0
34 長崎	87	6,693	0
35 熊本	45	6,644	0
36 大分	33	3,521	1
37 宮崎	16	7,303	1
38 鹿児島	71	9,397	1
39 沖縄	65	36,109	5
合計	1,441	423,094	82

・ 都道府県別の海水浴場数・海水浴客数は農林水産省(漁業センサス)調査(2003年)
 ・ LSC数はJLA調査(2009年)
 ・ ※: LSCはないが、ライフセーバーが活動している海水浴場がある都道府県

ライフセーバー増加に向けて

日本にJLAの資格をもったライフセーバーは、何人ぐらいいるのだろうか？表2及び図3にJLA会員数、資格取得者累計数を示す。資格取得者累計数は1998年から2009年までで4,189人から28,130人と約6.7倍に増加している。会員数は、NPO法人化に伴い会員制度の改定があったため、2002年からの統計になるが、2002年から2009年までで1,212人から4,161人と約3.4倍に増加している。単純計算で見てみると、日本の人口を約1.27億人とした場合、ライフセーバー(資格取得者)は約4,500人に1人。年間の海水浴客数を約4,230万人とした場合、ライフセーバー一人当たり約1,500人の海水浴客、日本の海岸線延長を約35,000kmとした場合、一人当たり約1.24kmの海岸をカバーすることになる。

一方、ライフセービングの先進国であるオーストラリアと比較してみる。2008-09年次報告書によると、SLSAメンバーが150,318人、パトロールメンバーが43,090人となっている。オーストラリアの人口を約2,100万人とすると、約150人に1人がSLSAメンバーであり、約525人に1人がパトロールに参加している。またオーストラリアの海岸線延長を約36,000km(オーストラリア大陸のみ)とした場合、パトロールメンバー一人当たり約0.84kmの海岸をカバーすることになる。歴史や文化の違いがあるにせよ、日本のライフセービング活動は、オーストラリアと比較すると、まだまだ発展途上の段階にあることがわかる。また注目すべき点としてオーストラリアでは、SLSAメンバーがパトロールメンバーの3倍以上になっている。ライフセービングに理解を示し現場でパト

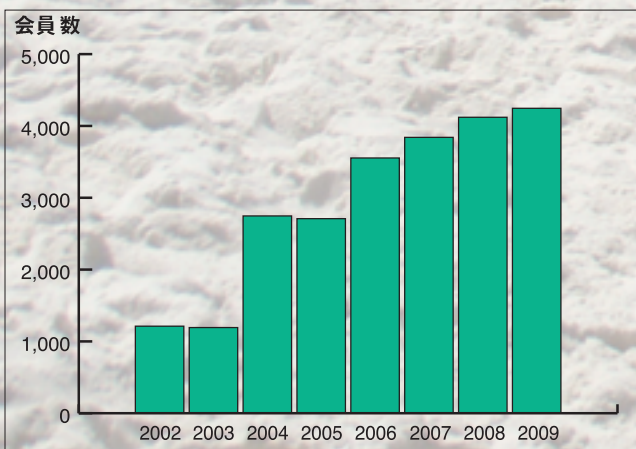


図3 会員数の推移
2002年のNPO法人化にともない会員制度の改正を実施。改正時の2002年には1,200人であったが、2004年には会員制度と資格制度の連動の実施により前年の2.3倍へと増加した。2006年には会員制度とCPR資格制度と連動させた。その後、毎年およそ1.2倍の割合で増加傾向にある

ロールするメンバーを支える人がそれだけ多いという現れである。

現在JLAでは、ライフセーバーを増やすべく、講習運営委員会を中心に全国での積極的な講習会の実施、インストラクター増加へ向けた取り組みが行われている。また過去に資格を取得したメンバーの回帰を目的としたJLAクラシックの開催検討、底辺拡大のためにジュニア教育委員会によるジュニアプログラムの実施等が行われている。さらに広義に言えばライフセービングは、資格取得者のみ活動ではない。ライフセービング活動の共感し、様々な側面から支えてくれる人達が不可欠である。資格をもったライフセーバー及びライフセービング活動に共感してくれる人達を増やすことは一朝一夕ではいかなない。講習会開催や様々な面からのライフセービングのPRなど地道な活動の継続が必要である。そしてそれが、「水辺の事故ゼロ」に繋がる。

表2 会員・資格取得者数累計数の推移

	JLA会員	資格取得者累計数
1998年		4,189
1999年		5,654
2000年		7,239
2001年		10,067
2002年	1,212	12,553
2003年	1,193	14,331
2004年	2,747	16,087
2005年	2,709	18,497
2006年	3,544	20,683
2007年	3,841	23,195
2008年	4,116	25,735
2009年	4,161	28,130

※2002年法人化に伴い会員制度変更
※2004年会員制度と資格制度の連動
※2006年会員制度とCPR資格制度の連動

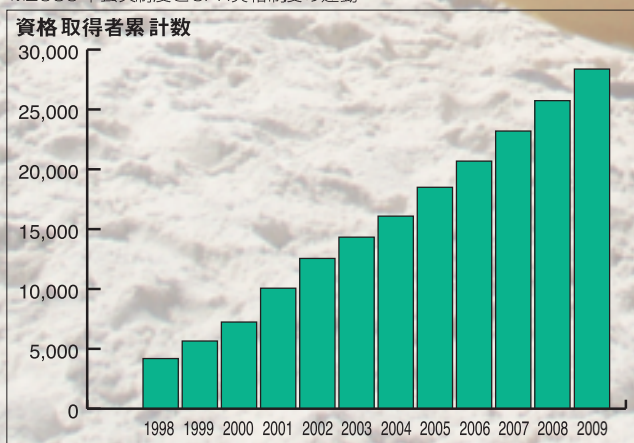


図4 資格取得者累計数の推移
1991年に国内2団体の統合にともない資格制度も一本化され、1998年までの累計数は4,189となっている。それ以降、毎年およそ1.2倍の割合で資格取得者は増加している

海洋基本法制定

～ライフセービングの教育への普及へ向けて～

2007年4月に海洋基本法が公布された。この法律は海洋環境の汚染、水産資源の減少、海岸侵食の進行、重大海難事故の発生、海賊事件の頻発などの様々な海の問題を背景とし海洋政策の新たな制度的枠組みの構築が必要との観点から以下の6つに基本理念を盛り込んで成立した。

- ・海洋の開発及び利用と海洋環境の保全との調和
- ・海洋の安全の確保
- ・海洋に関する科学的知見の充実
- ・海洋産業の健全な発展
- ・海洋の総合的管理
- ・海洋に関する国際的協調

ライフセービングの教育への普及に関係する部分としては、基本的施策として示されている以下の項目がある。

(海洋に関する国民の理解の増進等)第二十八条 国は、国民が海洋についての理解と関心を深めることができるよう、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進、海洋法に関する国際連合条約その他の国際約束並びに海洋の持続可能な開発及び利用を実現するための国際的な取組に関する普及啓発、海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置を講ずるものとする。

2 国は、海洋に関する政策課題に的確に対応するために必要な知識及び能力を有する人材の育成を図るため、大学等において学際的な教育及び研究が推進されるよう必要な措置を講ずるよう努めるものとする。

このように「海洋に関する国民の理解の増進等」では、学校教育及び社会教育における海洋に関する教育の推進や海洋に関するレクリエーションの普及等のために必要な措置を講ずることが明記されている。現在JLAでは東京都の中学生に対し、臨海学校を利用したジュニアプログラムを継続的に行っている。また地域LSCではジュニアライフセービングプログラムなどが盛んに行われている。さらにライフセービング経験者が教員となって各学校の授業などでライフセービングを取り上げている事例もある。一方、マリンスポーツがより普及することにライフセービングの必要性が高まることが十分考えられる。この条文により、今後ライフセービングが学校教育及び社会教育に普及し、活動の後押しになることが期待される。

(風間隆宏)

国際・広報事業部

国際委員会／広報事業委員会

国際・広報事業部総括

この部は、JLA ミッションにかかげる「国際貢献の強化」と「メディアリリースの強化」を目指すために、2008年度より新設されました。我々日本はライフセービング先進国オーストラリアから多くを学び、それらを長年かけて、国内、地域、JLA会員、そして広く一般の皆様へ普及する活動を行ってまいりました。NPO法人化となり2011年で10年を迎えますが、国際交流はさらに進み、先進国でも多くの前進があり、相互の情報交換はさらに不可欠となりました。

国際委員会では英語力があり、なおかつライフセービング知識の備わった委員が集結し、事務局のサポートを行っています。国際委員会による国際ライフセービング連盟（以下ILS）からの情報収集、伝達はもちろん、2008年度からはJLAメンバーより、ILS各専門委員会への参画が始まり、国際的なコミュニケーションはこの1、2年で数段にアップしました。

日本からは理事長／小峯力がILSライフセービング委員会「教育」、救命部担当理事／中川儀英がILSライフセービング委員会「メディカル」、競技運営・審判委員長／深山元良がILSスポーツ委員会「技術とルール」、国際委員長／相澤千春がILS特別委員会「公平性と多様性」へ所属しています。国際委員会ではこれらILS各委員からの情報はもちろん、水辺の事故ゼロを目指して様々な国際情報を収集し、国内でライフセービング活動を行っている皆様へ伝達いたします。しかし翻訳作業や国際大会への選手派遣にともなうサポートも頻繁なことから、実務作業と普及啓蒙活動とのバランスを整えることが今後の課題です。

広報事業委員会ではメディアリリースよりも、組織のトップツールとして年間報告書「アニュアルレポート」編集、発行へ特化して活動いたしました。日本全国各地域でラ

イフセービングを応援して下さっている多くの関係者、そして実際に活動しているライフセーバーのみなさんへ、JLAの活動を知っていただくための手にとれるツールとして、アニュアルレポートを配布したいと考えております。これからもライフセービング活動が9つのミッションを掲げて、その実現のために前進するには、現状を知る事、課題を見だし、改善する事が必要です。アニュアルレポートは支える側、する側、それぞれ気付きのアイテムとなるよう編集いたしました。「広報」という分野は「広く」「知らせる」活動をさします。普段ライフセービング活動を行う多くのライフセーバーとそのリーダーの皆さんは、普及啓蒙活動の際、自然にこの広報活動を最前線で行っているため、広報への関心を非常に高く持ってくださいます。このことは普及啓蒙活動が常に必要な活動であることが背景にあります。そのためJLAは今後もその後押しとなるようなツールの開発、活用方法を伝えていかなければならないと感じております。

2010年度はそのトップツールとしてアニュアルレポートを多方面でご活用いただけることを願っております。また世の中のニーズに合わせた広報活動も大切であり、一般的に普及している伝達手段としてパソコンや携帯電話によるホームページの活用、紙媒体だけでなく、画像、動画による表現手段の活用を含め、そのバリエーションを検討いたします。これら広報活動はメディアに対するリリースを意識するのではなく、広く一般、そして我々ライフセーバー同士のコミュニケーションツールを発展させることで、結果としてメディアを動かすものであることを目指してまいります。

担当理事 高野絵美

国際委員会

海外からの情報伝達と日本からの情報発信…国際ライフセービング連盟(以下ILS)のホームページ上から重要と思われる最新ニュースの翻訳、ならびに情報伝達を行った。日本からもコンスタントに発信できるよう、今後の方法を検討したい。

JLA 国際事業のフォロー…「三洋物産インターナショナルライフセービングカップ」、「ジャーマンカップ」、「全豪選手権」でのサポートを行った。特に国内競技会であった「三洋物産インターナショナルライフセービングカップ」では、大会運営の準備から当日の各国参加選手のアテンドまで全面的に携わった。国外大会では、大会情報の事前収集と日本代表選手のエントリー、渡航手続き、その他現地とのやり取りをフォローした。海外遠征で必要な機材取り扱いについては、現地調達の手配を行っているが、引き続き2010年の世界大会までを考慮し、Force Field社との確認を進めていく。その他、JLA事業「コーチングセミナー」、「ライフセービングフォーラム」で、海外講師の招聘があり、その準備、当日のアテンドを行った。また講習運営委員会により検討作業がはじまったJLA発行ライセンスのILS公認化にむけての作業で、英語でのコミュニケーションが必要であり、今後の進捗に合わせてワーキンググループに参加する。

広報事業委員会

アニュアルレポートの編集…JLAとして初めてのアニュアルレポートの発刊に向けて、その編集方法を検討し、実際に編集した。創刊1号はこれまでのJLAの歴史も掲載した。目次出しを行ったあと、年2回の運営委員会(各委員会による事業報告会)へあげられた報告をベースに、実施された事業の結果を原稿にまとめた。またJLAの様々な姿を知っていただけるよう、3つのテーマのコラムを掲載。これは毎年度新たなテーマを掲げて、差し込みページとして続けてみたい。アニュアルレポートが発刊された後は、その配布方法、活用方法にも注視し、効率の良い編集方法と合わせてアニュアルレポート発行の効果を検証する。

公式競技会…2009年度の公式競技会では、「する」「さえる」「みる」という3方面を意識した実施を心がけた。各競技会実行委員会では設営、運営上、観る側の視点も重視して改善を図った。開催場所(地域)、ご後援、ご協賛、ご協力いただく関係諸機関のみなさまのお力を無駄にすることなく、広く一般の方への普及啓蒙活動につながる方法を検討したい。

メディア対応…夏の監視活動中はメディアからの取材依頼などがあり、そのほとんどは各地域クラブにお任せしている。取材を受けていただくさいの申込フォーマットの提供やリリースについては不十分なところがあり、今後そのフォロー体制を検討したい。またJLA本部で対応したメディアからの取材情報は、会員の皆様へもっと早くリリースできるよう心がけたい。

ホームページの充実…会員の皆様からはホームページの関心を高くいただいている。最新情報の掲載はもちろん、一部資格の活動履歴、また事業へのWEBエントリー採用など、様々なシステムを構築してきた。カテゴリー別の見やすさや各種運用については、ご要望の声を逃さず今後も改善に努めたい。

COLUMN 3

世界のライフセービングにおける日本の役割

— ILS と JLA —

国際ライフセービング連盟<ILS>とは…

日本ライフセービング協会(以下JLA)は国際ライフセービング連盟(International Life Saving Federation=ILS、以下ILS)に加盟しており、ILSの目的を達成するために活動しています。

ILSは水辺の事故防止を目的とするグローバルな取り組みをする世界的権威であり、1994年9月3日にイギリス、カーディフで設立され、日本は同時に加盟国となりました。(設立の経緯はp4を参照。)

また、ILSのミッションはライフセービングとライフセービングスポーツの国際連盟として水辺の事故防止、水辺の安全の監督、緊急救援、そしてライフセービングスポーツに対するナショナル、及び国際的な機関を牽引し、サポートし、パートナーとなり目的を達成することにあります。

2010年4月現在、ILSの加盟国、加盟団体は(正会員72、準会員10)になり、加盟国は、アメリカ大陸、アジア太平洋、ヨーロッパ、アフリカと4つの地域に分かれています。

アジア太平洋地域の中の日本

日本はライフセービング活動の先進国と言われるオーストラリア、ニュージーランドを含む加盟国20ヶ国(※1)からなるアジア太平洋地区に属しています。日本は長い間、主にオーストラリアからライフセービング技術を学び、また、友好関係を築いてきました。献身的な教えにより日本の技術力もあがり世界大会における競技力も他の国から高く評価されるまでになりました。

今、日本は教わる立場から今度は恩返しという形でわれわれが学んできた技術や友好関係をアジアの一員として他のアジアの国々に伝えていくことを模索していかなければならない時にあります。ILSの戦略的なゴールに世界のリスクの高いコミュニティにおける溺水事故(死亡率)の減少とあります。そのリスクの高い地域のひとつとしてアジア地域、特に発展途上国における子どもの溺水が上げられています。ILSのミッションである水辺の事故防止に向けてアジア・太平洋の国々とともにJLAはこの問題に取り組んでいかなければなりません。

日本の取り組み・・・

2010年3月にJLA ライフセービングフォーラム2010が開催され、オーストラリア・ロイヤル・ライフセービング協会からJustin Scar氏を招へいして「アジアにおける子どもの水難事故防止の現状と課題」について講演いただきました。オーストラリアをはじめとして世界の子どもの溺水について深く研究しており、現在はアジアの国々への水辺の事故防止啓発活動を行っています。

JLAとして、各機関と協力してどのようなことをアジアに向けてできるのか？

今後の日本の役割がILSの中でも注目される中、フォーラムを開催することによって日本のライフセーバーとともにアジアの現状を把握し、何ができるかを考えるきっかけのフォーラムとなりました。

近年JLA及び、日本人がILSの開催するカンファレンス、総会に出席、また委員会に所属し、世界の中でも活躍するようになってきています。少しずつではありますが、日本の存在がILSの中でも注目されはじめ、期待をかけられています。

世界の中の日本の役割。答えはひとつではありませんが、JLAとして出来ることを着々と積み上げること、それがやがては大きなムーブメントとなり、アジアの一員としてアジアの水辺の事故ゼロをめざして貢献できるのではないのでしょうか。

○World Water Safety Conferenceへの参加

2007年ポルトガル、ポルトにおけるWorld Water Safety Conferenceへの参加。2011年ベトナムのカンファレンス参加予定。

詳細 → <http://www.worldconferenceondrowning.org/>

○ILSの各種委員会への貢献

理事長／小峯力

・ライフセービング委員会「教育」

救命部担当理事／中川儀英

・ライフセービング委員会「メディカル」

競技運営・審判委員長／深山元良

・スポーツ委員会「技術とルール」

国際委員長／相澤千春

・特別委員会「公平性と多様性」

※1(アジア太平洋地域加盟国「フルメンバー」)

オーストラリア、ニュージーランド、日本、香港、中国、フィジー、

インド、インドネシア、イラン、韓国、マレーシア、フィリピン、

カタール、シンガポール、スリランカ、シリア、ヨルダン、

バングラデシュ、台湾、パキスタン) 計20カ国

【参考資料】 ～2008年 ILS総会資料より～

ILSの戦略的ゴール・・・

- 世界のリスクの高いコミュニティー(特にアジア地域の子ども)における溺水事故(死亡率)の減少。
- ILSをライフセービングにおける医療、教育とレスキューに関する国際的リーダー、提唱者、そしてグローバルな実践団体としての地位を確立する。
- 世界的な子どもの溺水を減らす為に協力し、戦略を提唱し、遂行する。
- ライフセービングスポーツへの参加を促す。
- 女性や英語圏ではない個人の参加を増やす。
- 政府、非政府、NGOとの協力関係を強化しILSの収入を増やす。
- ILSへの世界の加盟国を増やすこと。(とくにアジア、アフリカ地域)
- 国際機関からの認知を増やす。(国連、IOCなど)

ILSの戦略的ゴールを達成するためにどうすればいいのか?

- ILSのリスクの高いコミュニティーの優先リストに載っている地域から最低ひとつ、持続可能で有意義な溺水防止のプロジェクトを始める。
- アフリカが地域の問題に対応する為に計画し、コーディネートし、戦略を遂行する。
- 各関係機関と戦略的に強力関係をつくる。
- 過去の4年と比べて具体的に〇%、自国でライフセービングのナショナル大会の開催、または世界大会への参加国を増やす。
- ILSの意思決定機能機関に女性や非英語圏の人を含める。
- プロフェッショナルなマネジメントスタッフを雇う為の持続的で十分な資金を確保する。



小峯理事長とILSスティーブ会長



2009年 ILS 専門委員会 (ドイツ)

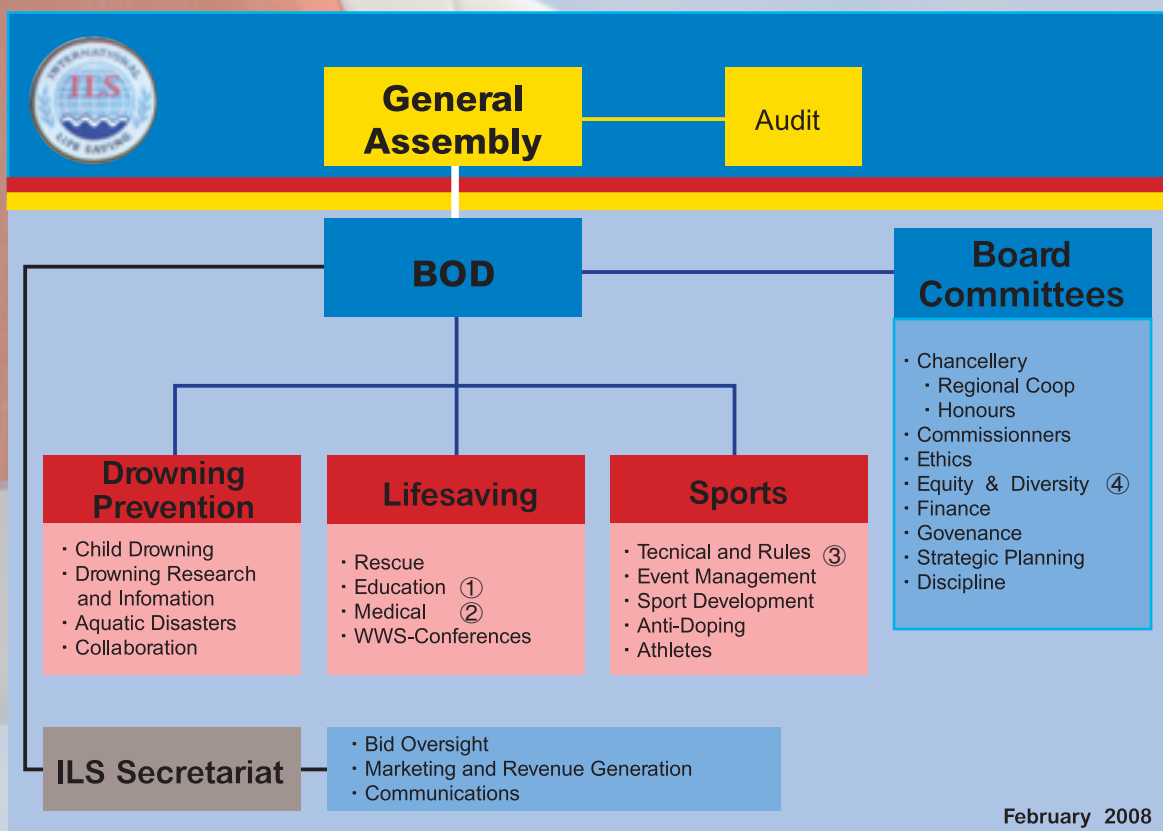
ILSの組織図

組織図からもわかるようにライフセービング、スポーツ、水辺の事故防止と3つの大きな柱のもとで活動をしています。JLAは今後もこの3つの柱とともに世界の中での役割を担っていくであろう。

参考: ILS (International Lifesaving Federation)

国際ライフセービング連盟 <http://www.ilsf.org/>

(堤 容子)



○ILS専門委員会へのJLAの貢献

① JLA 理事長／小峯力

② JLA 救命部担当理事／中川儀英

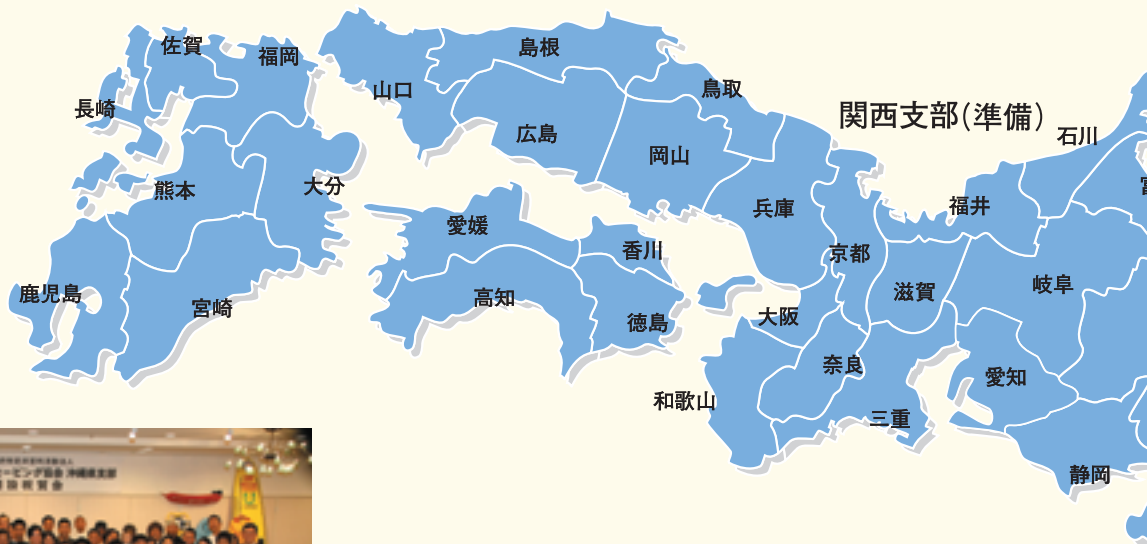
③ JLA 競技運営・審判委員長／深山元良

④ JLA 国際委員長／相澤千春

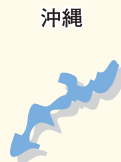
支部協議委員会

支部協議委員会はJLAの特別委員会として、2006年にその前身である「支部設立準備委員会」から始動した。支部設立の目的は「JLA運営組織の基盤安定と活動の強化を継続的に図るために、各地域に支部を組織し、かつ地域の活動を活性化すること」である。水辺の事故ゼロを目指すために、全国組織として組織基盤の充実、会員拡大強化を図ることは、既にミッションに掲げられており、支部設立はその基軸となる。今後も短期、中期、長期の目的を見据えて支部設立を進める。

九州支部 2008年設立



沖縄県支部 2008年設立



中部支部 2009年設立



北海道支部 2009年設立



神奈川県支部 1997年設立



※写真は2007年10周年

活動経緯

2006年 JLAミッション3「全国組織としての組織基盤の充実、
会員拡大強化を図る」ために支部設立準備委員会設置

2007年 前年度からの申し送りにより、「支部委員会」が理事
会で承認

2008年 沖縄県支部、九州支部の設立が理事会で承認、始動
北海道支部、中部支部設立準備が審議
支部協議委員会へ名称変更

2009年 北海道支部、中部支部の設立が理事会で承認、始動

2009年度活動報告…2009年度は「北海道支部」と
「中部支部」が始動し、既に設立済みの「神奈川県支部」、
「沖縄県支部」、「九州支部」と合わせて全5支部となった。
現時点で、以降の支部構想として準備がはじまったのは、
「新潟県支部」、「関西支部」、「東北支部」の3エリア。その
他、具体立案されているのが「東京都支部」、「千葉県支部」
の2エリアである。2009年度は全4回の会議が開催され
た。申し送りの他、新たな課題も見いだされた。とくに
本部と支部との分業化については様々な提案がされ、
その具体的な事業分掌の立案が課題となった。また支部
毎の法人化の必要性、会員の登録状況や、今度の拡大展
望を見据えて、会員制度そのものの見直しについても意
見が交わされた。

2009年度 支部協議委員会の活動

- ① 第1回 2009年5月9日（土）
- ② 第2回 2009年9月11日（金）
- ③ 第3回 2009年12月12日（土）
- ④ 第4回 2010年3月13日（土）

2009年 支部協議委員会メンバー

委員長：土志田仁（JLA理事、神奈川県副支部長）

委員：荒木雅信（JLA副理事長）

豊見山明久（JLA理事、沖縄県支部長）

加藤道夫（神奈川県支部長）

森井秀明（北海道支部）

松原浩一（東北支部準備）

池谷 薫（新潟県支部準備）

的場栄一・田村浩志（東京都支部準備）

井藤秀晃・諸節智章（中部支部）

藤田和人（九州支部）

矢貫卓博（沖縄県支部）

鍛冶有登（関西支部準備）

トピック

- ・ 北海道支部：支部設立記念式典、水難救助事例報告会開催
（2月札幌）
- ・ 東北支部：設立準備（山形フォーラム開催 2月山形市）
- ・ 北陸支部：新潟県支部へ変更申請あり（福井とのエリア距離
が広範囲のため）
- ・ 中部支部：第1回全日本学生プール競技選手権大会への協力
（2月浜松市）
- ・ 関西支部：設立準備会議スタート（9月南紀白浜、10月、
1月大阪にて開催）
- ・ 九州支部：第2回九州ライフセービング競技会開催（10月
宮崎青島海岸）
- ・ 沖縄県支部：沖縄県へNPO法人申請

6.メディア露出一覧

【新聞】

奄美新聞	資格講習会開催	4月6日
南海日日新聞	資格講習会開催	4月6日
毎日新聞	種目別選手権（静岡版）ジュニア教室告知	5月29日
伊豆新聞	種目別選手権（一面）	6月7日
読売新聞	種目別選手権（地域面）	6月7日
静岡新聞	種目別選手権（ワイド版）	6月8日
朝日新聞	プール競技選手権（神奈川版）	6月9日
朝日新聞	be掲載	7月18日
朝日新聞ほか	三洋物産社広告	7月20日
朝日新聞	あの人とこんな話 小峯力理事長	8月3日
朝日新聞	ジュニア教室	8月5日
日本経済新聞	NPO紹介	8月18日
朝日新聞	全日本選手権	10月12日
神奈川新聞	全日本選手権	10月14日
地域新聞	学生選手権	10月23日
タウンニュース藤沢版	全日本選手権	10月30日
静岡新聞	学生プール競技選手権	2月14、15日
中日新聞	学生プール競技選手権	2月14日

【雑誌】

戦略経営者	葉山LSC・加藤代表インタビュー	7月号
アポロニア21	小峯力理事長インタビュー	7月号
スイミングライフ	種目別選手権	11月号
ライフセービング	会報誌との合併号	11月号
スイミングライフ	ジュニア競技会	12月号
スイミングライフ	全日本選手権	2月号
ターザン	「フィットネスがやってきた」	3月号
スイミングライフ	神奈川県プール競技選手権/千葉県選手権	3月号
ライフセービング	会報誌との合併号	3月号

【TV】

静岡放送	種目別大会	6月 6日
静岡第一テレビ	種目別大会	6月 6日
下田有線テレビ	種目別大会	6月 8日
小林テレビ設備	種目別大会	6月 8日
J-COM横浜	プール大会	5月 4日
横浜都市みらい	プール大会	5月23日
テレビ東京	アド街チック天国 御宿特集	7月18日
OBS大分放送局	日本財団ジュニア教室	8月16日
TOSテレビ大分	日本財団ジュニア教室	8月16日
大分ケーブルテレビコム	日本財団ジュニア教室	8月17日
テレビ神奈川	ジュニア競技会	8月23日
富山放送	勝浦LSC・高木氏インタビュー	9月 3日

【ラジオ】

浜松エフエム放送	種目別大会（稲垣実行委員長コメント）	6月 6日
ニッポン放送	全日本選手権	10月 6日

上記一覧は、JLA 本部対応のみ

4. パートナーシップ一覧

- 第一三共株式会社
 - ◇全日本選手権大会(特別協賛)
 - ◇ジュニア・ライフセービング教室(協賛)
- 森永製菓株式会社
 - ◇監視、救助等活動支援(協賛)
 - ◇ウイダーinゼリー提供(協力)
- ディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社
 - ◇監視、救助等活動支援(特別協賛)
 - ◇種目別選手権大会(特別協賛)
- 株式会社三洋物産/株式会社三洋販売
 - ◇インターナショナルライフセービングカップ(特別協賛)
 - ◇日本代表国際大会派遣支援(協賛)
 - ◇日本代表強化支援(協賛)
 - ◇日本代表強化指定大会支援(協賛)
- レールダル メディカル ジャパン株式会社
 - ◇全日本選手権大会(協賛)
 - ◇全日本プール競技選手権大会(協賛)
 - ◇心肺蘇生法資格認定事業支援(協力)
- 株式会社オッシュマンズ・ジャパン
 - ◇全日本選手権大会(協賛)
 - ◇全日本学生選手権大会(協賛)
- 株式会社ゴールドウイン
 - ◇監視、救助等活動支援(協力)
 - ◇日本代表国際大会派遣支援(協力)
- 日本財団
 - ◇ライフセービング活動支援助成
 - ◇ジュニア・ライフセービング活動支援助成
- 笹川スポーツ財団
 - ◇SSFウォータースポーツエイド助成(ジュニア用物品)
- 丸井グループ
 - ◇日本代表国際大会派遣支援(協力)
- 株式会社日本航空
 - ◇インターナショナルライフセービングカップ(協力)
 - ◇役員の国際派遣(協賛)
- サントリー食品株式会社
 - ◇インターナショナルライフセービングカップ(協力)
 - ◇全日本選手権大会(協力)
- 明石被服興業株式会社
 - ◇安全関連商品認定支援(協力)

5. 器材支援一覧

■日本財団

項目	数量
レスキューボード	50
バックボード	8
ネックカラー	8
AEDトレーナー	25
ニッパーボード	36
ジュニア用パトロールキャップ	750

■笹川スポーツ財団

項目	数量
ジュニア用ウエットスーツ	20
ジュニア用ライフジャケット	20

■第一三共株式会社

項目	数量
ニッパーボード	10
レスキューチューブ	7
ジュニア用レスキューチューブ	3

全豪選手権2010

開催月日: 2010年3月18日(木)~21日(日)

開催場所: Kurrawa Beach (オーストラリア・ゴールドコースト)

■日本代表選手団

監督	入谷 拓哉	競技力強化委員	
コーチ	佐藤 文机子	競技力強化委員	
トレーナー	小粥 智浩	コンディショニング科学委員会	
トレーナー	笠原 政志	コンディショニング科学委員会	
通訳	堤 容子	国際委員	
総務	川地 政夫	事務局	
男子	飯沼 誠司	館山SLSC	
	伊藤 俊輔	館山SLSC	
	植木 将人	西浜SLSC	
	佐々木 啓允	相良LSC	
	清水 雅也	拓殖大学LSC	
	長竹 康介	西浜SLSC	
	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC	湯河原LSC
	本多 辰也	東京消防庁LSC	今井浜SLSC
	女子	伊藤 彩香	九十九里LSC
	勝俣 閑	西浜SLSC	
	加藤 みづき	東京女子体育大学LSC	新島LSC
	神戸 友美	東京女子体育大学LSC	土肥LSC
	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学LSC	下田LSC
	花岡 香那	館山SLSC	
	三木 玲奈	湯河原LSC	
	毛利 邦	館山SLSC	

全豪選手権 レース結果 (日本代表選手のみ)

男 子		
飯沼 誠司	ボードレース	予選敗退
	サーフスキー	ラウンド2進出
	サーフレース(RES)	予選敗退
	ボードレスキュー(伊藤)	予選敗退
	オーシャンマン	ラウンド2進出
	サーフレース	準決勝進出
伊藤 俊輔	サーフスキー	予選敗退
	ボードレース	予選敗退
	ボードレスキュー(飯沼)	予選敗退
	サーフレース	予選敗退
	オーシャンマン	中止
植木 将人	ビーチスプリント	予選敗退
	ビーチフラッグス	6位
佐々木 啓允	ビーチスプリント	ラウンド2進出
	ビーチフラッグス	予選敗退
清水 雅也	ボードレース	棄権
	ビーチスプリント	予選敗退
	サーフレース	予選敗退
長竹 康介	サーフスキー	第3ラウンド進出
	ボードレース	予選敗退
	サーフレース(RES)	決勝進出
	サーフレース	予選敗退
	オーシャンマン	クォーターファイナル進出
西山 俊	サーフスキー	失格
	ボードレース	予選敗退
	サーフレース	予選敗退
	オーシャンマン	失格
本多 辰也	ビーチスプリント	予選敗退
	ビーチフラッグス	セミファイナル進出

女 子		
伊藤 彩香	サーフレース	決勝進出
	ボードレース	中止
	サーフスキー	失格
	オーシャンウーマン	失格
勝俣 閑	サーフレース	予選敗退
	ボードレース	中止
	ビーチスプリント	予選敗退
加藤 みづき	サーフレース	予選敗退
	ボードレース	中止
	ビーチスプリント	予選敗退
	ビーチフラッグス	予選敗退
神戸 友美	ボードレスキュー(小松崎)	中止
	ビーチスプリント	第2ラウンド進出
小松崎 あゆみ	ビーチフラッグス	予選敗退
	ボードレース	中止
	サーフスキー	棄権
	オーシャンウーマン	棄権
	ビーチスプリント	予選敗退
花岡 香那	ボードレスキュー(加藤)	中止
	ビーチスプリント	予選敗退
	ビーチフラッグス	セミファイナル進出
	サーフレース	棄権
三木 玲奈	ボードレスキュー(毛利)	中止
	サーフレース	予選敗退
	ボードレース	中止
	オーシャンウーマン	失格
毛利 邦	サーフスキー	棄権
	サーフレース	決勝進出
	ボードレース	棄権
	ビーチスプリント	予選敗退
	ボードレスキュー(花岡)	中止

第19回インターナショナルジャーマンカップ2009

開催月日:2009年11月20日(土)、21日(日)

開催場所:Sportschule der Bundeswehr
(ドイツ・ウエストファーレン州ワーレンドルフ)

■日本代表選手団

団長	小峯 力	理事長	
監督	入谷 拓哉	競技力強化委員	
コーチ	青木 克浩	競技力強化委員	
トレーナー	砂川 憲彦	コンディショニング科学委員会	
通訳	石塚 淳		
総務	川地 政夫	事務局	
男子	伊藤 俊輔	館山SLSC	
	井口 明彦	日本大学SLSC	九十九里LSC
	小出 大祐	日本体育大学LSC	鴨川LSC
	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC	湯河原LSC
	清水 雅也	拓殖大学LSC	
女子	花岡 香那	館山SLSC	
	毛利 邦	館山SLSC	
	勝俣 閑	西浜SLSC	
	植松 知奈津	順天堂大学LSC	湯河原LSC
	佐伯 芽維	日本体育大学LSC	

1	Germany	6	United Kingdom	11	Croatia
2	RLSS Australia	7	Poland	12	Italy
3	SLS Australia	8	Japan	13	Switzerland
4	Netherlands	9	Belgien	14	Czech Republic
5	Spain	10	France	15	Ireland

男 子

種 目	氏 名	タイム	順位
200m障害物スイム	清水 雅也	2.05.24	6
	井口 明彦	2.05.44	7
	伊藤 俊輔	2.10.47	21
50mマネキンキャリー	清水 雅也	33.68	24
	井口 明彦	36.37	51
	伊藤 俊輔	36.48	52
	西山 俊	DQ	
	小出 大祐	DQ	
100mマネキントウ・ウィズフィン	井口 明彦	1.02.35	46
	小出 大祐	1.04.16	64
	伊藤 俊輔	1.04.84	69
	西山 俊	1.07.75	90
100mマネキンキャリー・ウィズフィン	西山 俊	58.38	47
	清水 雅也	58.44	48
	井口 明彦	1.00.77	62
100mレスキューメドレー	小出 大祐	1.06.93	92
	清水 雅也	1.08.80	12
200mスーパーライフセーバー	西山 俊	2.37.49	44
	伊藤 俊輔	DQ	
	小出 大祐	DQ	
4×50m障害物リレー	清水 雅也	1.48.11	5
	西山 俊		
	伊藤 俊輔		
	井口 明彦		
4×25mマネキンリレー	清水 雅也	DQ	
	伊藤 俊輔		
	小出 大祐		
	井口 明彦		
4×50mメドレーリレー	清水 雅也	1.38.60	8
	西山 俊		
	伊藤 俊輔		
	井口 明彦		
ラインスロー	西山 俊	43.85	25
	小出 大祐		

女 子

種 目	氏 名	タイム	順位
200m障害物スイム	植松 知奈津	2.20.59	7
	花岡 香那	2.20.63	8
50mマネキンキャリー	花岡 香那	41.58	30
	毛利 邦	41.61	31
	勝俣 閑	42.26	34
	佐伯 芽維	42.85	42
100mマネキントウ・ウィズフィン	植松 知奈津	1.11.63	50
	花岡 香那	1.11.75	52
	佐伯 芽維	1.13.78	81
	勝俣 閑	1.14.31	84
100mマネキンキャリー・ウィズフィン	毛利 邦	1.28.12	110
	植松 知奈津	1.08.86	36
	植松 知奈津	1.12.53	62
100mレスキューメドレー	佐伯 芽維	1.16.57	80
	毛利 邦	1.21.28	8
200mスーパーライフセーバー	勝俣 閑	1.23.69	18
	佐伯 芽維	1.24.72	26
	花岡 香那	2.51.83	38
	植松 知奈津	2.52.62	42
4×50m障害物リレー	勝俣 閑	2.55.99	50
	花岡 香那	DQ	
	毛利 邦		
	佐伯 芽維		
植松 知奈津			
4×25mマネキンリレー	勝俣 閑	1.44.41	9
	花岡 香那		
	佐伯 芽維		
	毛利 邦		
4×50mメドレーリレー	花岡 香那	1.51.40	6
	佐伯 芽維		
	植松 知奈津		
	毛利 邦		
ラインスロー	勝俣 閑	15.74	8
	植松 知奈津		

3. 日本代表 大会結果

第4回三洋物産インターナショナルライフセービングカップ

開催月日: 2009年9月13日(日) 開催場所: 白良浜海水浴場 (和歌山県白浜町)

■日本代表選手団

監督	入谷 拓哉	競技力強化委員	
コーチ	青木 克浩	競技力強化委員	
コーチ	佐藤 文机子	競技力強化委員	
A代表	青野 武士	茅ヶ崎SLSC	
	井口 明彦	日本大学SLSC	九十九里LSC
	金子 悟	下田LSC	
	長竹 康介	西浜SLSC	
	本多 辰也	東京消防庁LSC	今井浜SLSC
	伊藤 彩香	九十九里LSC	湯河原LSC
	植松 知奈津	順天堂大学LSC	湯河原LSC
	勝俣 閑	西浜SLSC	
花岡 香那	館山SLSC		
遊佐 雅美	西浜SLSC		
B代表	伊藤 俊輔	館山SLSC	
	小出 大祐	日本体育大学LSC	鴨川LSC
	高木 幹生	勝浦LSC	
	田中 宏治	銚子LSC	
	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC	湯河原LSC
	神戸 友美	東京女子体育大学LSC	土肥LSC
	工藤 知佳	日本体育大学LSC	岩井LSC
	鈴木 ひとみ	下田LSC	
田中 翠	法政大学SLSC	下田LSC	
藤波 佳恵	日本体育大学LSC	和田浦LSC	

Result

01 Rescue Tube Rescue					02 Rescue Tube Rescue						
Female					Male						
Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point
1	Australia	20	1	USA	20	1	Australia	20	1	USA	20
2	Japan A	18	2	Australia	18	2	Great Britain	18	2	Great Britain	18
3	USA	16	3	Great Britain	16	3	Japan A	16	3	Japan A	16
4	Great Britain	14	4	Japan A	14	4	Hong Kong	14	4	Hong Kong	14
5	Japan B	12	5	Hong Kong	12	5	Japan B	12	5	Japan B	12
6	Hong Kong	10	6	Japan B	10	6	Japan B	10	6	Japan B	10

03 Board Rescue					04 Board Rescue						
Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point
1	Japan A	20	1	Australia	20	1	Australia	20	1	Australia	20
2	Australia	18	2	USA	18	2	USA	18	2	USA	18
3	USA	16	3	Great Britain	16	3	Great Britain	16	3	Great Britain	16
4	Great Britain	14	4	Japan A	14	4	Japan A	14	4	Japan A	14
5	Japan B	12	5	Japan B	12	5	Japan B	12	5	Japan B	12
6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10

05 Surf Team Race					06 Surf Team Race						
Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point
1	USA	20	1	Australia	20	1	Australia	20	1	Australia	20
2	Australia	18	2	USA	18	2	USA	18	2	USA	18
3	Japan A	16	3	Japan B	16	3	Japan B	16	3	Japan B	16
4	Great Britain	14	4	Japan A	14	4	Japan A	14	4	Japan A	14
5	Japan B	12	5	Great Britain	12	5	Great Britain	12	5	Great Britain	12
6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10

07 Board Race					08 Board Race						
Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point	Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point
1	Kagla	RUSSELL	ウイラ フォットル	Australia	20	1	Alastair	DAY	アラスタア デイ	Australia	20
2	Jessica	WALEY	ジェシカ ウェーカ	Australia	18	2	Ivan	HAPPLE	イワン ハンブル	Great Britain	18
3	Jenna	HAWKEY	ジェナ ホーキ	Great Britain	16	3	Brian	HURPHY	ブライアン マフィー	USA	16
4	Shizuka	KATSURATA	静子 勝田	Japan A	14	4	Shane	SCOGGINS	シェーン スコギンズ	USA	14
5	Jennifer	NOONAN	ジェニファー ノーナン	USA	12	5	Kendrick	LOUIS	ケンドリック ルイス	Australia	12
6	Agata	IEDO	アガタ 江藤	Japan A	10	6	Lewis	EDGEWELL	ルイス エッジウェル	Great Britain	10
7	Kazuki	PASCOR	カズキ パスコ	Great Britain	8	7	Kensuke	MAJIMA	ケンサク 真島	Japan A	8
8	Hidemasa	SUZUKI	ヒデマサ スズキ	Japan B	6	8	Satoshi	KAMEKO	サトシ 亀子	Japan A	6
9	Hidori	TAMAKA	ヒドリ タマカ	Japan B	4	9	Sygn	NIKIYAMA	シグニ ニキヤマ	Japan B	4
10	Alison	WIDDLE	アリソン ワイドル	USA	3	10	Daisuke	KOIKE	ダイスク 小池	Japan B	3
11	Ping Wah	YUNG	ピンウエイ ユン	Hong Kong	2	11	Kim Leung	LEE	キン レン リ	Hong Kong	2
12	Ping Far	YAU	ピンフイ ユウ	Hong Kong	1	12	Sze Chun	LIH	シェ チュン レイ	Hong Kong	1

09 Beach Flags					10 Beach Flags						
Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point	Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point
1	Hlg	SEAF	スティーブ セーフ	Australia	20	1	TAKASHI	高木 隆夫	Japan B	20	
2	Kana	NUMAKA	カナ 沼田	Japan A	18	2	Takuya	HONDA	高木 隆夫	Japan A	18
3	Emily	WARD	エミリー ワード	USA	16	3	Gerrit	THORNTON	ゲリット トン	USA	16
4	Tomomi	KANEH	トモミ 加根	Japan B	14	4	Michael	WILLIAMS-SWAIN	マイケル ウィリアムズ・スウェイン	Australia	14
5	Hidori	TAMAKA	ヒドリ タマカ	Japan B	12	5	Paul	BOWDEN	ポール ボウデン	Great Britain	12
6	Katy	DEYNE	キャティ デイン	Great Britain	10	6	Shane	SCOGGINS	シェーン スコギンズ	USA	10
7	Taylor	SPREY	テイラー スプレイ	USA	8	7	Takeshi	AGNO	タケシ アグノ	Japan A	8
8	Ping Wah	YUNG	ピンウエイ ユン	Hong Kong	6	8	Ivan	GOODWAY	イワン グッドウェイ	Great Britain	6
9	Jenna	HAWKEY	ジェナ ホーキ	Great Britain	4	9	Daisuke	KOIKE	ダイスク 小池	Japan B	4
10	Tai Yan	LI	タイヤン リ	Hong Kong	3	10	Timothy	SCHREIBER	ティモシー スクリューバー	Australia	3
11	Kagla	RUSSELL	ウイラ フォットル	Australia	2	11	Kai Iai	YUEN	カイ イイ ユン	Hong Kong	2
12	Mizumi	YUSA	ミズミ ユサ	Japan A	0	12	Sze Chun	LIH	シェ チュン レイ	Hong Kong	1

11 Beach Relay					12 Beach Relay						
Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point
1	Australia	20	1	USA	20	1	USA	20	1	USA	20
2	Japan A	18	2	Australia	18	2	Australia	18	2	Australia	18
3	Great Britain	16	3	Japan B	16	3	Japan B	16	3	Japan B	16
4	USA	14	4	Great Britain	14	4	Great Britain	14	4	Great Britain	14
5	Japan B	12	5	Japan A	12	5	Japan A	12	5	Japan A	12
6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10

13 Oceanwoman					14 Oceanman						
Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point	Place	First Name	SUR NAME	Japanese	Team	Point
1	Jessica	WALEY	ジェシカ ウェーカ	Australia	20	1	Kendrick	LOUIS	ケンドリック ルイス	Australia	20
2	Kazuki	PASCOR	カズキ パスコ	Great Britain	18	2	Brian	HURPHY	ブライアン マフィー	USA	18
3	Jennifer	NOONAN	ジェニファー ノーナン	USA	16	3	Ivan	HAPPLE	イワン ハンブル	Great Britain	16
4	Agata	IEDO	アガタ 江藤	Japan A	14	4	Kensuke	MAJIMA	ケンサク 真島	Japan A	14
5	Hidemasa	SUZUKI	ヒデマサ スズキ	Japan B	12	5	Sygn	NIKIYAMA	シグニ ニキヤマ	Japan B	12
6	Ping Wah	YUNG	ピンウエイ ユン	Hong Kong	10	6	Kim Leung	LEE	キン レン リ	Hong Kong	10

15 Oceanwoman Relay					16 Oceanman Relay						
Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point	Place	Team	Point
1	Australia	20	1	Australia	20	1	Australia	20	1	Australia	20
2	Great Britain	18	2	Great Britain	18	2	Great Britain	18	2	Great Britain	18
3	Japan A	16	3	USA	16	3	USA	16	3	USA	16
4	USA	14	4	Japan B	14	4	Japan B	14	4	Japan B	14
5	Japan B	12	5	Japan A	12	5	Japan A	12	5	Japan A	12
6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10	6	Hong Kong	10

OVERALL COMPETITION RESULT		
Place	Team	Point
1	Australia	341
2	USA	301
3	Great Britain	270
4	Japan A	266
5	Japan B	207
6	Hong Kong	130

— 特別種目競技結果 —

◆モデルリレー【Intercollegiate Relay version】

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:39.08
2	国際武道大学	1:41.51
3	東海大学湘南	1:41.59
4	日本大学	1:41.72
5	拓殖大学	1:43.05
6	玉川大学	1:46.07
7	順天堂大学	1:49.68
8	早稲田大学	1:51.03

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	東京女子体育大学	1:54.52
2	日本体育大学	1:55.48
3	日本女子体育大学	1:56.92
4	国際武道大学	2:00.65
5	早稲田大学	2:02.73
6	大阪体育大学	2:03.33
7	日本大学	2:04.35
8	順天堂大学	2:07.94

— 総合競技結果 —

— 男子 —

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学ライフセービング部	63
2	東海大学湘南校舎体育会ライフセービングクラブCREST	46
3	日本大学ライフセービングチーム	41
4	拓殖大学ライフセービング部	39
5	国際武道大学ライフセービングクラブ	36
6	筑波大学ライフセービング部	30
7	流通経済大学ライフセービングクラブ	18
8	早稲田大学ライフセービングクラブ	15
9	愛知みずほ大学ライフセービングクラブ	12
10	玉川大学ライフセービングクラブ	11
11	順天堂大学ライフセービングクラブ	8
12	神奈川大学	8
13	大阪体育大学 ライフセービングクラブ	8
14	茨城大学サーフライフセービングクラブ	4
15	東洋大学サーフライフセービングクラブ	4
16	国士館大学ライフセービングクラブ	4
17	専修大学サーフライフセービングクラブ	3
18	東海大学海洋学部 ライフセービングクラブLOCO	2
19	成城学園ライフセービング部	1
20	青山学院大学ライフセービングクラブ	0
20	岐阜聖徳学園大学	0
20	杏林大学ライフセービング部	0
20	城西国際大学ライフセービングクラブ	0
20	成蹊大学体育会ライフセービング部	0
20	中京大学ライフセービングクラブ	0
20	東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ	0
20	新潟医療福祉大学	0
20	新潟工科大学ライフセービングクラブ	0
20	新潟産業大学ライフセービング部	0
20	日本福祉大学ライフセービング部	0
20	法政大学サーフライフセービングクラブ	0
20	明治大学	0

— 女子 —

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学ライフセービング部	71
2	東京女子体育大学ライフセービングクラブ	64
3	日本女子体育大学ライフセービング部	55
4	国際武道大学ライフセービングクラブ	33
5	早稲田大学ライフセービングクラブ	31
6	東海大学湘南校舎体育会ライフセービングクラブCREST	29
7	大阪体育大学 ライフセービングクラブ	21
8	日本大学ライフセービングチーム	20
9	順天堂大学ライフセービングクラブ	9
10	専修大学サーフライフセービングクラブ	9
11	青山学院大学ライフセービングクラブ	8
12	流通経済大学ライフセービングクラブ	5
13	拓殖大学ライフセービング部	4
14	国士館大学ライフセービングクラブ	1
15	中京大学ライフセービングクラブ	1
16	茨城大学サーフライフセービングクラブ	0
16	神奈川大学	0
16	杏林大学ライフセービング部	0
16	相模女子大学	0
16	城西国際大学ライフセービングクラブ	0
16	成蹊大学体育会ライフセービング部	0
16	成城学園ライフセービング部	0
16	玉川大学ライフセービングクラブ	0
16	筑波大学ライフセービング部	0
16	東海大学海洋学部 ライフセービングクラブLOCO	0
16	東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ	0
16	東洋大学サーフライフセービングクラブ	0

— 団体種目競技結果 —

◆4×25mマネキンリレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本大学	1:25.79
2	日本体育大学	1:26.68
3	流通経済大学	1:37.78
4	東海大学湘南	1:39.03
5	筑波大学	1:47.22
6	専修大学	1:48.30
7	大阪体育大学	1:49.08
8	国士館大学	1:52.73

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:46.33
2	東京女子体育大学	1:49.69
3	日本女子体育大学	1:55.24
4	大阪体育大学	2:04.22
5	専修大学	2:09.92
6	日本大学	2:10.33
7	国際武道大学	2:11.33
8	早稲田大学	2:14.20

◆4×50m障害物リレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本大学	1:46.21
2	日本体育大学	1:52.02
3	国際武道大学	1:52.80
4	東海大学湘南	1:53.60
5	早稲田大学	1:59.42
6	流通経済大学	2:03.36
7	筑波大学	2:04.01
8	玉川大学	2:06.47

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	2:06.15
2	東京女子体育大学	2:08.89
3	日本女子体育大学	2:13.90
4	国際武道大学	2:15.35
5	東海大学湘南	2:17.22
6	大阪体育大学	2:19.14
7	早稲田大学	2:23.07
8	日本大学	2:23.89

◆ラインスロー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	筑波大学	12.29
2	東海大学湘南	12.72
3	順天堂大学	15.32
4	神奈川大学	19.72
5	茨城大学	21.65
6	国士館大学	23.56
7	東海大学海洋	31.54
8	拓殖大学	35.06

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	東海大学湘南	16.83
2	日本女子体育大学	21.61
3	順天堂大学	22.59
4	専修大学	27.24
5	流通経済大学	33.67
6	国際武道大学	35.98
7	日本体育大学	40.31
8	東京女子体育大学	41.08

◆4×50mメドレーリレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:36.38
2	国際武道大学	1:38.49
3	日本大学	1:38.88
4	拓殖大学	1:38.92
5	東海大学湘南	1:43.00
6	大阪体育大学	1:44.23
7	流通経済大学	1:47.39
8	—	—

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学	1:52.70
2	東京女子体育大学	1:52.92
2	日本女子体育大学	1:57.22
4	国際武道大学	1:58.30
5	日本大学	2:03.45
6	早稲田大学	2:04.13
7	順天堂大学	2:04.85
8	—	—

— 総合成績 —

— 男子 —

順位	チーム名	得点
1	日本体育大学	85
2	国際武道大学	75
3	日本大学	55
4	東海大学湘南校舎	49
5	国士館大学	47
6	順天堂大学	30
7	法政大学	21
8	早稲田大学	18
9	成蹊大学	17
10	拓殖大学	17
11	成城学園	16
12	青山学院大学	16
13	東海大学清水校舎	12
14	杏林大学	12
15	流通経済大学	12
16	筑波大学	8
16	東洋大学	8
18	専修大学	6
19	茨城大学	5
19	大阪体育大学	5
19	國學院大學	5
19	城西国際大学	5
19	中央大学	5
19	新潟工科大学	5
19	新潟産業大学	5
26	神奈川大学	2
26	玉川大学	2
26	中京大学	2
26	東京海洋大学	2
26	日本福祉大学	2
26	文教大学	2

同得点チームの順位は上位入賞種目数の違いによる

— 女子 —

順位	チーム名	得点
1	東京女子体育大学	87
2	順天堂大学	82
3	日本体育大学	64
4	日本女子体育大学	44
5	早稲田大学	35
6	東海大学湘南校舎	31
7	国際武道大学	30
8	大阪体育大学	26
9	法政大学	18
10	日本大学	14
11	筑波大学	13
12	成蹊大学	10
13	成城学園	10
14	茨城大学	9
15	青山学院大学	8
15	杏林大学	8
17	城西国際大学	8
17	日本福祉大学	8
19	国士館大学	7
20	神奈川大学	5
21	國學院大學	5
21	実践女子大学	5
21	新穂調理師専門学校	5
21	専修大学	5
21	拓殖大学	5
21	中京大学	5
21	東海大学清水校舎	5
21	東京健康科学専門学校	5
21	東洋大学	5
21	文教大学	5
21	桃山学院大学	5
21	流通経済大学	5
21	和洋女子大学	5
34	玉川大学	2
34	東京海洋大学	2

第1回全日本学生ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日: 2010年2月13日(土)、14日(日)

開催場所: 古橋廣之進記念浜松市総合水泳場(静岡県浜松市)

— 個人種目競技結果 —

◆50m マネキンキャリー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	橋本 将吾	拓殖大学	35.20
2	澤田 翼	日本体育大学	35.28
3	後藤 優太	愛知みずほ大学	36.06
4	佐藤 祐	日本体育大学	38.12
5	寺村 泰介	筑波大学	38.84
6	野瀬 耕作	大阪体育大学	38.84
7	中嶋 拓人	日本体育大学	38.94
8	中野 達矢	日本体育大学	39.04

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	河崎 綾子	東海大学湘南	43.40
2	佐伯 芽維	日本体育大学	44.12
3	原田 恵	早稲田大学	46.41
4	山田 美沙	東京女子体育大学	46.58
5	足立侑加理	大阪体育大学	47.06
6	宮田 沙依	日本体育大学	47.22
7	國東 瑞紀	日本女子体育大学	47.31
8	鎌田 優	東京女子体育大学	48.26

◆100m マネキントウ・ウィズフィン

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	西山 俊	東海大学湘南	1:00.63
2	小出 大祐	日本体育大学	1:01.19
3	古川 直樹	日本体育大学	1:03.46
4	田山 俊介	筑波大学	1:03.97
5	阿部 宗	流通経済大学	1:04.57
6	木原 拓巳	東海大学湘南	1:06.10
7	中根 和記	拓殖大学	1:06.12
8	出水谷啓太	日本大学	1:06.22

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	工藤 知佳	日本体育大学	1:10.47
2	水間 菜登	国際武道大学	1:10.80
3	三浦 貴絵	東京女子体育大学	1:12.13
4	原 怜来	早稲田大学	1:12.64
5	原田 香菜	日本女子体育大学	1:14.26
6	及川 舞	日本女子体育大学	1:15.02
7	篠岡 珠子	東海大学湘南	1:15.52
8	松澤みづほ	日本女子体育大学	1:15.61

◆100m マネキンキャリー・ウィズフィン

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	西山 俊	東海大学湘南	55.37
2	多田 創一	玉川大学	1:01.17
3	後藤 優太	愛知みずほ大学	1:01.20
4	磯田 智哉	国際武道大学	1:02.09
5	佐藤 卓也	日本体育大学	1:03.11
6	田中 裕介	拓殖大学	1:03.53
7	加藤 拓馬	国際武道大学	1:03.87
8	木原 拓巳	東海大学湘南	1:04.70

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	藤田 恵巳	日本女子体育	1:09.42
2	神村 美咲	日本女子体育	1:11.79
3	水間 菜登	国際武道大学	1:12.80
4	大淵 真理子	日本女子体育	1:13.33
5	森山 瞳	青山学院大学	1:13.94
6	三浦 貴絵	東京女子体育	1:16.06
7	鎌田 優	東京女子体育	1:16.15
8	板井 望	流通経済大学	1:16.16

◆100m レスキューメドレー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	清水 雅也	拓殖大学	1:09.35
2	佐藤 祐	日本体育大学	1:14.78
3	前藤 寛和	国際武道大学	1:16.01
4	清水 雄山	日本大学	1:16.64
5	中山 直哉	早稲田大学	1:16.76
6	矢部翔太郎	東海大学湘南	1:19.61
7	白崎新太郎	日本体育大学	1:20.03
8	小川 駿介	流通経済大学	1:20.24

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	栗真 千里	日本体育大学	1:23.83
2	佐伯 芽維	日本体育大学	1:24.92
3	山田 美沙	東京女子体育大学	1:27.49
4	鈴木 聖美	日本大学	1:29.56
5	原田 恵	早稲田大学	1:29.67
6	原田 香菜	日本女子体育大学	1:31.07
7	横野 望	日本女子体育大学	1:34.17
8	伊藤 実沙	大阪体育大学	1:34.35

◆200m 障害物スイム

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	清水 雅也	拓殖大学	2:06.01
2	菊地 光	日本大学	2:09.46
3	加藤 凌	早稲田大学	2:10.15
4	前藤 寛和	国際武道大学	2:10.28
5	岡田 悟	日本大学	2:11.05
6	石川 直人	神奈川大学	2:11.38
7	橋本 将吾	拓殖大学	2:11.51
8	下平 亮輔	成城学園	2:13.64

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	栗真 千里	日本体育大学	2:23.08
2	河崎 綾子	東海大学湘南	2:23.70
3	加藤みづき	東京女子体育大学	2:25.40
4	鈴木 聖美	日本大学	2:25.73
5	森山 瞳	青山学院大学	2:26.38
6	三吉 菜月	大阪体育大学	2:30.46
7	大淵 真理子	日本女子体育大学	2:31.28
8	嶋島沙希子	国士館大学	2:31.60

◆200m スーパーライフセーバー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	古金 源太	日本体育大学	2:31.28
2	田山 俊介	筑波大学	2:32.47
3	小出 大祐	日本体育大学	2:35.08
4	古川 直樹	日本体育大学	2:37.20
5	伊藤 遼彦	東洋大学	2:39.80
6	中野 達矢	日本体育大学	2:40.20
7	小川 駿介	流通経済大学	2:41.30
8	名須川開渡	日本大学	2:43.79

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	加藤みづき	東京女子体育大学	2:49.73
2	工藤 知佳	日本体育大学	2:53.09
3	原 怜来	早稲田大学	2:54.11
4	藤田 恵巳	日本女子体育大学	2:57.28
5	上村 真央	拓殖大学	3:02.45
6	下山 夢由	日本体育大学	3:02.65
7	伊藤 実沙	大阪体育大学	3:08.05
8	兼田明日佳	中京大学	3:13.61

第24回全日本学生ライフセイビング選手権大会

開催月日: 2009年9月26日(土)、27日(日)

開催場所: 御宿中央海岸 (千葉県御宿町)

— 個人種目競技結果 —

◆ オーシャンマン/オーシャンウーマン

男子		
順位	選手名	所属
1	井口 明彦	日本大学
2	西山 俊	東海大学湘南校舎
3	谷中 健文	東海大学清水校舎
4	森田 一輝	青山学院大学
5	菅沼 豊也	法政大学
6	篠田 智哉	国際武道大学
7	古川 直樹	日本体育大学
8	田中 智之	成蹊大学

女子		
順位	選手名	所属
1	原 怜菜	早稲田大学
2	植松 知奈津	順天堂大学
3	河崎 綾子	東海大学湘南校舎
4	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学
5	原田 香葉	日本女子体育大学
6	藤波 佳恵	日本体育大学
7	田中 翠	法政大学
8	佐伯 芽維	日本体育大学

◆ サーフスキーレース

男子		
順位	選手名	所属
1	田中 智之	成蹊大学
2	井口 明彦	日本大学
3	篠田 智哉	国際武道大学
4	中嶋 拓人	日本体育大学
5	村本 晃人	早稲田大学
6	菅沼 豊也	法政大学
7	久 源太	杏林大学
8	田 亮	流通経済大学

女子		
順位	選手名	所属
1	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学
2	原 怜菜	早稲田大学
3	植松 知奈津	順天堂大学
4	鈴木 江利子	法政大学
5	渡多野 静	日本体育大学
6	伊藤 みつる	国際武道大学
7	山田 桃子	筑波大学
8	藤田 恵巳	日本女子体育大学

◆ サーフレース

男子		
順位	選手名	所属
1	井口 明彦	日本大学
2	西山 俊	東海大学湘南校舎
3	清水 雅也	拓殖大学
4	菊地 光	日本大学
5	下平 亮輔	成城学園
6	森田 一輝	青山学院大学
7	小川原 亮	成城学園
8	前峠 寛和	国際武道大学

女子		
順位	選手名	所属
1	植松 知奈津	順天堂大学
2	河崎 綾子	東海大学湘南校舎
3	加藤 みつた	東京女子体育大学
4	三浦 貴絵	東京女子体育大学
5	藤田 恵巳	日本女子体育大学
6	森山 瞳	青山学院大学
7	工藤 知佳	日本体育大学
8	張間 優	順天堂大学

◆ ビーチフラッグス

男子		
順位	選手名	所属
1	松本 至暁	東海大学湘南校舎
2	小田切 伸矢	日本体育大学
3	田中 翔太	国際武道大学
4	小宮 半四郎	日本体育大学
5	布施 亮平	国際武道大学
6	五十嵐 大樹	国士館大学
7	中村 幸世	順天堂大学
8	高村 快人	法政大学

女子		
順位	選手名	所属
1	荒木 麻佑	大阪体育大学
2	秋川 千恵子	茨城大学
3	藤浪 優希	国際武道大学
4	渡嘉敷 萌	順天堂大学
5	菅原 唯	東京女子体育大学
6	中平 衣美	大阪体育大学
7	竹内 茜子	早稲田大学
8	梶谷 友恵	神奈川大学

◆ ビーチスプリント

男子		
順位	選手名	所属
1	小泉 豊高	日本体育大学
2	森谷 鮎太	日本体育大学
3	佐藤 純	国際武道大学
4	三橋 公義	国士館大学
5	五十嵐 大樹	国士館大学
6	安達 和也	流通経済大学
7	高村 快人	法政大学
8	松本 大地	拓殖大学

女子		
順位	選手名	所属
1	神戸 友美	東京女子体育大学
2	細野 有希	日本体育大学
3	荒木 麻佑	大阪体育大学
4	高橋 沙恵	順天堂大学
5	渡嘉敷 萌	順天堂大学
6	川俣 牧子	筑波大学
7	梶谷 友恵	神奈川大学
8	高橋 真梨	日本女子体育大学

— 団体種目競技結果 —

◆ ボードリレー

男子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国際武道大学
3	日本大学
4	杏林大学
5	国士館大学
6	順天堂大学
7	成蹊大学
8	東海大学湘南校舎

女子	
順位	チーム名
1	順天堂大学
2	東京女子体育大学
3	日本体育大学
4	日本女子体育大学
5	早稲田大学
6	東海大学湘南校舎
7	国際武道大学
8	日本大学

◆ オーシャンマンリレー/オーシャンウーマンリレー

男子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本大学
3	国際武道大学
4	国士館大学
5	拓殖大学
6	早稲田大学
7	順天堂大学
8	東海大学清水校舎

女子	
順位	チーム名
1	東京女子体育大学
2	日本体育大学
3	日本女子体育大学
4	順天堂大学
5	国際武道大学
6	早稲田大学
7	東海大学湘南校舎
8	大阪体育大学

◆ ボードレスキュー

男子	
順位	チーム名
1	国際武道大学
2	順天堂大学
3	国士館大学
4	東海大学湘南校舎
5	日本大学
6	日本体育大学
7	早稲田大学
8	専修大学

女子	
順位	チーム名
1	東京女子体育大学
2	順天堂大学
3	東海大学湘南校舎
4	日本体育大学
5	成蹊大学
6	杏林大学
7	法政大学
8	早稲田大学

◆ レスキューチューブレスキュー

男子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	早稲田大学
3	国際武道大学
4	成城学園
5	法政大学
6	東海大学湘南校舎
7	日本大学
8	拓殖大学

女子	
順位	チーム名
1	東京女子体育大学
2	日本体育大学
3	日本女子体育大学
4	国士館大学
5	順天堂大学
6	国際武道大学
7	日本大学
8	早稲田大学

◆ ビーチリレー

男子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国際武道大学
3	国士館大学
4	東海大学湘南校舎
5	順天堂大学
6	流通経済大学
7	拓殖大学
8	成蹊大学

女子	
順位	チーム名
1	順天堂大学
2	東京女子体育大学
3	日本体育大学
4	日本女子体育大学
5	国際武道大学
6	日本大学
7	東海大学湘南校舎
8	早稲田大学

◆ 1km x 3ビーチランリレー

男子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	国際武道大学
3	国士館大学
4	東海大学湘南校舎
5	順天堂大学
6	日本大学
7	法政大学
8	拓殖大学

女子	
順位	チーム名
1	日本体育大学
2	日本女子体育大学
3	順天堂大学
4	東京女子体育大学
5	成蹊大学
6	筑波大学
7	成城学園
8	法政大学

レスキューチューブレスキュー

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

実施せず

ボードレスキュー

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

実施せず

オーシャンマンリレー

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

実施せず

オーシャンウーマンリレー

順位	チーム名
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	

実施せず

ビーチリレー

順位	チーム名
1	勝浦ライフセービングクラブ
2	下田ライフセービングクラブ
3	鴨川ライフセービングクラブ
4	飯岡ライフセービングクラブ
5	白浜ライフセービングクラブ
6	西浜サーフライフセービング
7	御浜ライフセービングクラブ
8	土肥ライフセービングクラブ

— 総合成績 —

順位	チーム名	得点
1	下田ライフセービングクラブ	121
2	湯河原ライフセービングクラブ	70
3	西浜サーフライフセービング	56
4	勝浦ライフセービングクラブ	46
5	九十九里ライフセービングクラブ	45
6	館山サーフライフセービングクラブ	38
7	鴨川ライフセービングクラブ	28
8	湘南ひらつかライフセービングクラブ	27
9	土肥ライフセービングクラブ	26
10	飯岡ライフセービングクラブ	24
11	東京消防庁ライフセービングクラブ	20
12	新島ライフセービングクラブ	18
13	和田浦ライフセービングクラブ	18
14	相良サーフライフセービングクラブ	15
14	日本大学ライフセービングクラブ	15
14	用宗ライフセービングクラブ	15
17	銚子ライフセービングクラブ	13
18	白浜ライフセービングクラブ	13
19	岩井ライフセービングクラブ	12
20	大竹サーフライフセービングクラブ	12
21	拓殖大学ライフセービングクラブ	11
22	柏崎ライフセービングクラブ	10

順位	チーム名	得点
23	大洗サーフライフセービングクラブ	10
23	御浜ライフセービングクラブ	10
25	西伊豆ライフセービングクラブ	9
26	式根島ライフセービングクラブ	9
26	二宮ライフセービングクラブ	9
26	波崎サーフライフセービングクラブ	9
29	神津島ライフセービングクラブ	8
30	大磯ライフセービングクラブ	8
30	神戸ライフセービングクラブ	8
32	熱川ライフセービングクラブ	6
33	愛知ライフセービングクラブ	5
33	大阪ライフセービングクラブ	5
33	鹿嶋ライフガードチーム	5
33	成城学園ライフセービングクラブ	5
33	浜田ライフセービングクラブ	5
33	横浜海の公園ライフセービングクラブ	5
39	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	4
40	鎌倉ライフガード	3
40	辻堂ライフセービングクラブ	3
42	昭和第一学園高等学校ライフセービング部	2
42	スポーツプレックスライフセービングクラブ	2
42	新潟青山ライフセービングクラブ	2

第35回全日本ライフセービング選手権大会

開催月日：2009年10月10日(土)、11日(日)
開催場所：片瀬西浜海岸(神奈川県藤沢市)

— 個人種目 —

◆サーフレース

男子		
順位	選手名	所属
1	井口 明彦	九十九里LSC
2	山本 晴基	館山SLSC
3	清水 雅也	拓殖大学LSC
4	田中 宏治	銚子LSC
5	鈴木 敦士	東京消防庁LSC
6	益子 進一	九十九里LSC
7	平田 栄史	館山SLSC
8	遠藤 望	柏崎LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	植松 知奈津	湯河原LSC
2	加藤 みづき	新島LSC
3	花岡 香那	館山SLSC
4	河崎 綾子	湯河原LSC
5	栗真 千里	白浜LSC
6	渡会 明子	湯河原LSC
7	工藤 知佳	岩井LSC
8	伊藤 彩香	九十九里LSC

◆サーフスキーレース

男子		
順位	選手名	所属
1	松沢 斉	下田LSC
2	鈴木 祐輔	湯河原LSC
3	飯沼 誠司	館山SLSC
4	篠田 智哉	勝浦LSC
5	大西 明	二宮LSC
6	池脇 良	下田LSC
7	佐藤 和伯	館山SLSC
8	内田 直人	辻堂LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	岡野 彩	下田LSC
2	星野 有美	用宗LSC
3	久保 美沙代	和田浦LSC
4	鈴木 郁蘭	新島LSC
5	須田 好美	柏崎LSC
6	新山 真以	西浜SLSC
7	川崎 尚子	岩井LSC
8	田神 梨絵	熱川LSC

◆ボードレース

男子		
順位	選手名	所属
1	長竹 康介	西浜SLSC
2	青木 将展	湯河原LSC
3	出木谷 啓太	九十九里LSC
4	金子 悟	下田LSC
5	西山 俊	湯河原LSC
6	新井 正徳	下田LSC
7	小出 大祐	鴨川LSC
8	篠田 智哉	勝浦LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	田中 翠	下田LSC
2	小松崎 あゆみ	下田LSC
3	三木 玲奈	湯河原LSC
4	原田 香菜	下田LSC
5	鈴木 ひとみ	下田LSC
6	宮原 千明	下田LSC
7	武藤 裕美	下田LSC
8	鈴木 郁蘭	新島LSC

◆オーシャンマン/オーシャンウーマン

男子		
順位	選手名	所属
1	井口 明彦	九十九里LSC
2	西山 俊	湯河原LSC
3	長竹 康介	西浜SLSC
4	菅沼 寛也	下田LSC
5	落合 慶二	東京消防庁LSC
6	飯沼 誠司	館山SLSC
7	田中 智之	下田LSC
8	古川 直樹	岩井LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	佐藤 文机子	九十九里LSC
2	三木 玲奈	湯河原LSC
3	伊藤 彩香	九十九里LSC
4	鈴木 ひとみ	下田LSC
5	原 怜来	波崎SLSC
6	植松 知奈津	湯河原LSC
7	河崎 綾子	湯河原LSC
8	原田 香菜	下田LSC

◆ビーチフラッグス

男子		
順位	選手名	所属
1	植木 将人	西浜SLSC
2	佐々木 啓允	相良SLSC
3	田中 翔太	勝浦LSC
4	布施 亮平	勝浦LSC
5	松本 至竜	湘南ひらつかLSC
6	比留間 悟	湯河原LSC
7	本多 辰也	東京消防庁LSC
8	山口 一樹	湘南ひらつかLSC

女子		
順位	選手名	所属
1	遊佐 雅美	西浜SLSC
2	渡嘉敷 萌	下田LSC
3	藤原 梢	湘南ひらつかLSC
4	藤浪 優希	勝浦LSC
5	花岡 香那	館山SLSC
6	海藤 香菜	西伊豆LSC
7	秋川 知恵子	大洗SLSC
8	細野 有希	飯岡LSC

◆ビーチスプリント

男子		
順位	選手名	所属
1	本多 辰也	東京消防庁LSC
2	植木 将人	西浜SLSC
3	森谷 絢太	鴨川LSC
4	新井 正徳	下田LSC
5	高村 快人	式根島LSC
6	宮森 敬介	飯岡LSC
7	小田切 伸矢	岩井LSC
8	三橋 公義	土肥LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	藤原 梢	湘南ひらつかLSC
2	細野 有希	飯岡LSC
3	神戸 友美	土肥LSC
4	渡辺 夏海	土肥LSC
5	遊佐 雅美	西浜SLSC
6	渡嘉敷 萌	下田LSC
7	川俣 牧子	大竹SLSC
8	梶谷 友恵	鎌倉LG

◆2kmビーチラン

男子		
順位	選手名	所属
1	浅見 泰希	勝浦LSC
2	山本 雄士	日本大学LSC
3	小出 大祐	鴨川LSC
4	新堀 進悟	土肥LSC
5	長谷川 公平	和田浦LSC
6	小出 洋平	勝浦LSC
7	本田 吉紀	茅ヶ崎SLSC
8	齊藤 勝茂	下田LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	宮原 千明	下田LSC
2	河本 桂奈	下田LSC
3	佐々木 聡美	神津島LSC
4	荻野 有子	下田LSC
5	斉藤 那海	下田LSC
6	中島 和美	館山SLSC
7	岩間 恵里	大竹SLSC
8	松山 梨紗	西伊豆LSC

第22回全日本ライフセービング種目別選手権大会

開催月日：2009年6月6日(土)、7日(日)

開催場所：白浜大浜海岸(静岡県下田市)

— 個人種目 —

◆ビーチフラッグス

男子		
順位	選手名	所属
1	本多 辰也	東京消防庁LSC
2	植木 将人	西浜SLSC
3	高木 幹生	勝浦LSC
4	小出 大祐	日本体育大学LSC
5	北矢 宗志	西浜SLSC
6	石井 大樹	日本大学SLSC
7	石井 克磨	東海大学湘南校舎LSC CREST

女子		
順位	選手名	所属
1	遊佐 雅美	西浜SLSC
2	神戸 友美	東京女子体育大学LSC
3	荒木 麻祐	大阪体育大学LSC
4	藤浪 優希	勝浦LSC
5	黒川 麻衣子	順天堂大学LSC
6	秋川 知恵子	大洗SLSC
7	小川 侑子	日本体育大学LSC
8	渡嘉敷 萌	順天堂大学LSC

◆ビーチスプリント

男子		
順位	選手名	所属
1	本多 辰也	東京消防庁LSC
2	北矢 宗志	西浜LSC
3	高村 快人	法政大学SLSC
4	森谷 絢太	日本体育大学LSC
5	佐藤 純	勝浦LSC
6	大塚 竜馬	日本体育大学LSC
7	植木 将人	西浜LSC
8	三嶋 唯之	銚子LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	遊佐 雅美	西浜LSC
2	神戸 友美	東京女子体育大学LSC
3	細野 有紀	日本体育大学LSC
4	渡辺 夏海	土肥LSC
5	高橋 沙恵	順天堂大学LSC
6	藤浪 優希	勝浦LSC
7	高見澤 春香	今井浜SLSC
8	小野 英理子	杏林大学LSC

◆2kmビーチラン

男子		
順位	選手名	所属
1	小出 大祐	日本体育大学LSC
2	本田 吉紀	茅ヶ崎SLSC
3	高瀬 快	拓殖大学LSC
4	小出 洋平	勝浦LSC
5	齋藤 勝茂	国士舘大学LSC
6	落谷 慶二	東京消防庁LSC
7	榎垣 宏	湯河原LSC
8	長谷川 公平	日本体育大学LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	佐々木 聡美	日本体育大学LSC
2	松山 梨紗	東京女子体育大学LSC
3	國武 あかね	日本体育大学LSC
4	高見澤 春香	今井浜SLSC
5	土岐 百合子	大阪LSC
6	萩野 有子	成城学園LSC
7	岩間 恵里	大竹SLSC
8	池田 江里菜	日本女子体育大学LSC

◆サーフレース

男子		
順位	選手名	所属
1	伊藤 俊輔	館山SLSC
2	井口 明彦	日本大学SLSC
3	三木 翔平	湯河原LSC
4	青野 武士	茅ヶ崎SLSC
5	鈴木 敦士	東京消防庁LSC
6	田中 宏治	銚子LSC
7	益子 進一	日本大学SLSC
8	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC CREST

女子		
順位	選手名	所属
1	伊藤 彩香	九十九里LSC
2	植松 知奈津	順天堂大学LSC
3	花岡 香那	館山SLSC
4	土藤知佳	日本体育大学LSC
5	毛利 邦	館山SLSC
6	加藤 みつぎ	東京女子体育大学LSC
7	森山 瞳	波崎SLSC
8	下山 愛由	日本体育大学LSC

◆ボードレース

男子		
順位	選手名	所属
1	金子 悟	下田LSC
2	青木 将展	湯河原LSC
3	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC CREST
4	長竹 康介	西浜SLSC
5	井口 明彦	日本大学SLSC
6	落谷 慶二	東京消防庁LSC
7	菅沼 寛也	法政大学SLSC
8	小出 大祐	日本体育大学LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	勝俣 閑	西浜SLSC
2	伊藤 彩香	九十九里LSC
3	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学LSC
4	田中 翠	法政大学SLSC
5	三木 玲奈	湯河原LSC
6	鈴木 ひとみ	下田LSC
7	原田 香菜	日本女子体育大学LSC
8	菊池 藍	下田LSC

◆サーフスキーレース

男子		
順位	選手名	所属
1	松沢 斉	下田LSC
2	内田 直人	辻堂LSC
3	池脇 良	下田LSC
4	飯沼 誠司	館山SLSC
5	山口 智史	下田LSC
6	堀部 雄大	二宮LSC
7	菊地 太	東京消防庁LSC
8	草柳 尚志	和田浦LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	岡野 彩	下田LSC
2	須田 好美	柏崎LSC
3	星野 有美	用宗LSC
4	伊藤 彩香	九十九里LSC
5	新山 真以	西浜SLSC
6	尾田 依津子	神戸LSC
7	鈴木 江利子	法政大学SLSC
8	佐々木 靖子	和田浦LSC

◆オーシャンマン/オーシャンウーマンレース

男子		
順位	選手名	所属
1	長竹 康介	西浜SLSC
2	林 昌広	湯河原LSC
3	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC CREST
4	井口 明彦	日本大学SLSC
5	三木 翔平	湯河原LSC
6	寺村 泰介	大竹SLSC
7	落谷 慶二	東京消防庁LSC
8	篠田 智哉	勝浦LSC

女子		
順位	選手名	所属
1	伊藤 彩香	九十九里LSC
2	植松 知奈津	順天堂大学LSC
3	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学LSC
4	鈴木 ひとみ	下田LSC
5	京谷 真有	西浜SLSC
6	岡野 彩	下田LSC
7	塚根 哉	白浜LSC
8	田神 梨絵	熱川LSC

— 団体種目 —

◆オーシャンマンリレー

男子		
順位	チーム名	所属
1	館山SLSC	館山SLSC
2	東京消防庁LSC	東京消防庁LSC
3	勝浦LSC	勝浦LSC
4	下田LSC	下田LSC
5	銚子LSC	銚子LSC
6	国士舘大学LSC	国士舘大学LSC
7	日本大学SLSC	日本大学SLSC
8	九十九里LSC	九十九里LSC

◆オーシャンウーマンリレー

女子		
順位	チーム名	所属
1	下田LSC	下田LSC
2	西浜SLSC	西浜SLSC
3	東京女子体育大学LSC	東京女子体育大学LSC
4	勝浦LSC	勝浦LSC
5	日本体育大学LSC	日本体育大学LSC
6	九十九里LSC	九十九里LSC
7	館山SLSC	館山SLSC
8	順天堂大学LSC	順天堂大学LSC

2. 大会結果

第22回全日本ライフセービング・プール競技選手権大会

開催月日：2009年5月16日(土)、17日(日) 開催場所：横浜国際プール（神奈川県横浜市）

— 個人種目競技結果 —

◆50m マネキンキャリー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	鈴木 一也	茅ヶ崎SLSC	32.81
2	飯沼 誠司	館山SLSC	34.34
3	清水 雅也	拓殖大学LSC	34.91
4	西条 祐一	新島LSC	35.81
5	田村 憲章	銚子LSC	35.87
6	澤田 翼	日本体育大学LSC	36.82
7	長井 隆昌	波崎SLC	36.84
8	原田 洋	銚子LSC	37.11

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	佐伯 芽維	日本体育大学LSC	42.10
2	勝俣 閑	西浜SLSC	42.99
3	京谷 真有	西浜SLSC	44.02
4	山田 美沙	東京女子体育大学LSC	44.59
5	小松崎 あゆみ	東京女子体育大学LSC	46.29
6	宮原 千明	下田LSC	46.30
7	原田亜希子	専修大学SLSC	47.54
8	山田 桃子	大竹SLSC	47.81

◆100m マネキントウ・ウィズフィン

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	林 昌広	湯河原LSC	1:00.66
2	鈴木 伸也	茅ヶ崎SLSC	1:01.04
3	高橋 崇	新島LSC	1:01.57
4	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC	1:01.80
5	中村 公彦	大竹SLSC	1:02.60
6	長竹 康介	西浜SLSC	1:02.62
7	小出 大祐	日本体育大学LSC	1:02.78
8	古川 直樹	日本体育大学LSC	1:02.83

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	藤波 佳恵	日本体育大学LSC	1:10.59
2	工藤 知佳	日本体育大学LSC	1:11.77
3	原 怜奈	早稲田大学LSC	1:13.14
4	原田 香栄	東京女子体育大学LSC	1:13.99
5	三浦 貴絵	東京女子体育大学LSC	1:14.96
6	花岡 香那	館山SLSC	1:15.41
7	藤田 恵巳	日本女子体育大学LSC	1:16.58
8	山田 桃子	大竹SLSC	1:17.34

◆100m マネキンキャリー・ウィズフィン

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	山本 一貴	大竹SLSC	56.61
2	高橋 崇	新島LSC	57.28
3	西条 祐一	新島LSC	57.38
4	菊地 太	東京消防庁LSC	1:01.57
5	和田幸太郎	西浜SLSC	1:01.61
6	川岸 冬輝	勝浦LSC	1:02.09
7	高橋 敬	和田瀬LSC	1:03.08
8	鈴木 伸也	茅ヶ崎SLSC	1:04.19

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	毛利 邦	館山SLSC	1:08.35
2	藤波 佳恵	日本体育大学LSC	1:10.91
3	三浦 貴絵	東京女子体育大学LSC	1:11.84
4	原 怜奈	早稲田大学LSC	1:12.81
5	植松知奈津	順天堂大学LSC	1:12.86
6	篠岡 桂子	東海大学湘南校舎LSC	1:14.28
7	青田 薫枝	早稲田大学LSC	1:15.36
8	板井 望	新島LSC	1:16.17

◆100m レスキューメドレー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	長井 隆昌	波崎SLSC	1:12.15
2	中島 章	新島LSC	1:13.37
3	飯沼 誠司	館山SLSC	1:13.77
4	佐藤 祐	日本体育大学LSC	1:14.47
5	原田 洋	銚子LSC	1:14.61
6	小林 哲郎	日本体育大学LSC	1:14.69
7	田村 憲章	銚子LSC	1:15.35
8	中山 直哉	早稲田大学LSC	1:16.27

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	毛利 邦	館山SLSC	1:22.34
2	勝俣 閑	館山SLSC	1:23.53
3	佐伯 芽維	日本体育大学LSC	1:23.71
4	山田 美沙	東京女子体育大学LSC	1:27.24
5	京谷 真有	西浜SLSC	1:28.63
6	原田 恵	早稲田大学LSC	1:37.14
7	原田 香栄	日本女子体育大学LSC	1:37.58
8	高崎 千明	杏林大学LSC	1:37.79

◆200m 障害物スイム

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	遠藤 雅	柏崎LSC	2:06.48
2	青野 武士	茅ヶ崎SLSC	2:06.75
3	鈴木 敦士	東京消防庁LSC	2:07.80
4	清水 雅也	拓殖大学LSC	2:08.86
5	伊藤 俊輔	館山SLSC	2:09.50
6	廣瀬健太郎	早稲田大学LSC	2:10.12
7	廣島 昇二	法政大学SLSC	2:10.32
8	菅本 康隆	波崎SLSC	2:11.95

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	花岡 香那	館山SLSC	2:21.49
2	伊藤 彩香	九十九里LSC	2:23.69
3	植松知奈津	順天堂大学LSC	2:23.87
4	加藤みづき	東京女子体育大学LSC	2:24.02
5	森山 瞳	波崎SLSC	2:26.39
6	太田 奈々	鴨川LSC	2:31.08
7	下山 愛由	日本体育大学LSC	2:31.69
8	瀧澤 薫	杏林大学LSC	2:33.20

◆200m スーパーライフセーバー

男子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	林 昌広	湯河原LSC	2:26.89
2	青野 武士	茅ヶ崎SLSC	2:30.14
3	長竹 康介	西浜SLSC	2:31.55
4	西山 俊	東海大学湘南校舎LSC	2:32.10
5	古金 源太	日本体育大学LSC	2:32.62
6	鈴木 敦士	東京消防庁LSC	2:33.53
7	中島 章	新島LSC	2:33.82
8	小出 大祐	日本体育大学LSC	2:33.99

女子			
順位	氏名	クラブ名	タイム
1	加藤みづき	東京女子体育大学LSC	2:48.08
2	工藤 知佳	日本体育大学LSC	2:49.72
3	伊藤 彩香	九十九里LSC	2:53.69
4	藤田 恵巳	日本女子体育大学LSC	3:01.06
5	伊藤 美沙	大阪体育大学LSC	3:09.96
6	村井亜沙子	波崎SLSC	3:10.19
7	松井美乃里	愛知LSC	3:11.05
8	森山 瞳	波崎SLSC	3:19.95

— 団体種目競技結果 —

◆4 × 25m マネキンリレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	新島LSC	1:26.06
2	西浜SLSC	1:30.03
3	銚子LSC	1:32.08
4	茅ヶ崎SLSC	1:32.30
5	大竹SLSC	1:34.49
6	東京消防庁LSC	1:35.18
7	東海大学湘南校舎LSC	1:43.79
8	—	—

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	1:45.57
2	東京女子体育大学LSC	1:50.57
3	大竹SLSC	2:02.74
4	日本女子体育大学LSC	2:03.60
5	大阪体育大学LSC	2:04.70
6	下田LSC	2:11.51
7	鴨川LSC	2:13.79
8	—	—

◆4 × 50m 障害物リレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	東京消防庁LSC	1:47.86
2	茅ヶ崎SLSC	1:50.94
3	日本体育大学LSC	1:51.22
4	日本大学SLSC	1:51.39
5	銚子LSC	1:52.08
6	柏崎LSC	1:53.16
7	新島LSC	1:53.17
8	早稲田大学LSC	1:53.83

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	2:08.14
2	東京女子体育大学LSC	2:08.41
3	日本女子体育大学LSC	2:12.70
4	東海大学湘南校舎LSC	2:14.18
5	鴨川LSC	2:14.65
6	九十九里LSC	2:15.75
7	下田LSC	2:17.05
8	勝浦LSC	2:17.34

◆4 × 50m メドレーリレー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	日本体育大学LSC	1:35.29
2	東京消防庁LSC	1:35.84
3	日本大学SLSC	1:39.10
4	新島LSC	1:41.61
5	大竹SLSC	1:41.89
6	銚子LSC	1:42.24
7	東海大学湘南校舎LSC	1:45.96
8	—	—

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	東京女子体育大学LSC	1:54.76
2	日本体育大学LSC	1:56.02
3	日本女子体育大学LSC	1:57.83
4	館山SLSC	1:59.07
5	下田LSC	2:01.14
6	大阪体育大学LSC	2:01.49
7	九十九里LSC	2:02.04
8	東海大学湘南校舎LSC	2:02.47

◆ラインスロー

男子		
順位	クラブ名	タイム
1	西浜SLSC	11.55
2	東京消防庁LSC	13.68
3	東海大学湘南校舎LSC	14.47
4	愛知LSC	14.81
5	勝浦LSC	15.34
6	館山SLSC	16.09
7	専修大学SLSC	18.30
8	湯河原LSC	18.41

女子		
順位	クラブ名	タイム
1	勝浦LSC	16.99
2	日本体育大学LSC	17.52
3	鴨川LSC	19.68
4	順天堂大学LSC	20.29
5	国士館大学LSC	23.76
6	愛知LSC	23.98
7	日本女子体育大学LSC	24.63
8	白浜LSC	26.46

◆シミュレーテッド・エマーゼンシー・レスポンス競技

順位	クラブ名	得点
1	新島LSC	159.00
2	西浜SLSC	144.00
3	勝浦LSC	131.50
4	大阪体育大学LSC	131.00
5	東京消防庁LSC	127.00
6	玉川大学LSC	119.00
7	大竹SLSC	113.50
8	九十九里LSC	108.50

— 総合競技結果 —

順位	クラブ名	総合得点
1	日本体育大学ライフセービングクラブ	108
2	東京女子体育大学ライフセービングクラブ	59
3	西浜サーフライフセービングクラブ	59
4	新島ライフセービングクラブ	57
5	館山サーフライフセービングクラブ	52
6	東京消防庁ライフセービングクラブ	43
7	茅ヶ崎サーフライフセービングクラブ	42
8	日本女子体育大学ライフセービングクラブ	33
9	大竹サーフライフセービングクラブ	30
10	銚子ライフセービングクラブ	24
11	勝浦ライフセービングクラブ	22
12	早稲田大学ライフセービングクラブ	21
13	波崎サーフライフセービングクラブ	19
14	九十九里ライフセービングクラブ	19
15	湯河原ライフセービングクラブ	17
16	大阪体育大学ライフセービングクラブ	16
17	順天堂大学ライフセービングクラブ	15
18	鴨川ライフセービングクラブ	15
19	下田ライフセービングクラブ	12
20	柏崎ライフセービングクラブ	11

順位	クラブ名	総合得点
21	拓殖大学ライフセービングクラブ	11
22	日本大学サーフライフセービングクラブ	11
23	愛知ライフセービングクラブ	10
24	国士館大学ライフセービングクラブ	4
25	専修大学サーフライフセービングクラブ	4
26	玉川大学ライフセービングクラブ	3
27	法政大学サーフライフセービングクラブ	2
27	和田浦ライフセービングクラブ	2
29	杏林大学ライフセービングクラブ	2
30	白浜ライフセービングクラブ	1
31	日本大学ライフセービングクラブ	0
31	鹿嶋ライフガードチーム	0
31	昭和第一学園高等学校ライフセービングクラブ	0
31	成蹊大学ライフセービングクラブ	0
31	東京健康科学専門学校ライフセービングクラブ	0
—	東海大学海洋学部ライフセービングクラブ LOCO	0
—	東海大学湘南校舎ライフセービングクラブ CREST	29
—	二宮ライフセービングクラブ	0
—	大阪ライフセービングクラブ	0
—	十文字高校ライフセービングクラブ	0

*SEARC競技に出場のないクラブは、総合順位には反映されない。

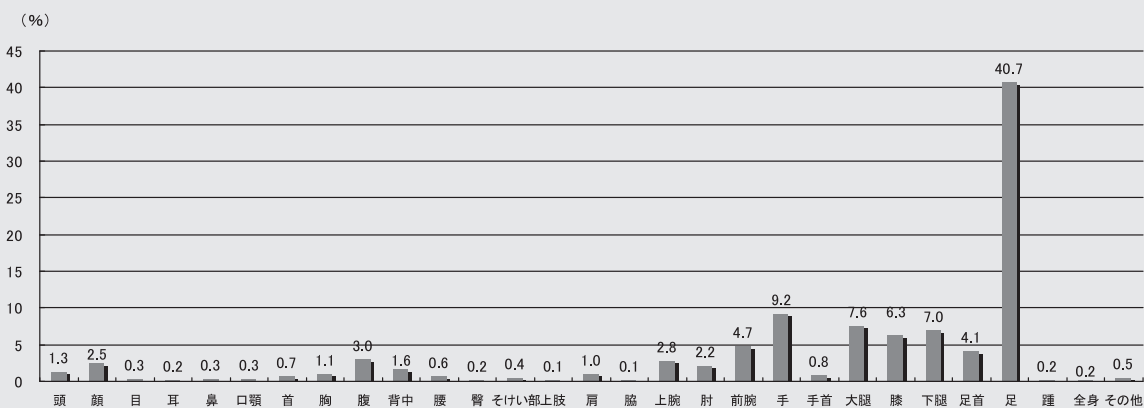
2-4. 部位別ファーストエイド数について

傷害のあった部位別にファーストエイド発生数をみると、足が40.7%と最も多く、次いで、手が9.2%となっていた。四肢を合わせると、85.6%を占めた。

→ファーストエイドの傷害部位は足や手が非常に多く、四肢を中心に発生している。

2-4 部位別ファーストエイド数

	頭	顔	目	耳	鼻	口顎	首	胸	腹	背中	腰	臀	その他部	上肢	肩	脇	上腕	肘	前腕	手	手首	大腿	膝	下腿	足首	足	踵	全身	その他	計
度数	64	121	15	10	12	12	35	51	146	75	29	11	20	5	50	7	133	103	226	439	37	362	302	334	198	1947	10	11	23	4788
%	1.3	2.5	0.3	0.2	0.3	0.3	0.7	1.1	3.0	1.6	0.6	0.2	0.4	0.1	1.0	0.1	2.8	2.2	4.7	9.2	0.8	7.6	6.3	7.0	4.1	40.7	0.2	0.2	0.5	100



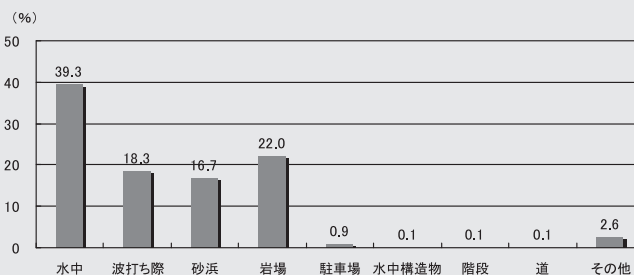
2-5. 発生場所別ファーストエイド数について

発生場所別にファーストエイド数をみると、水中が39.3%と最も多く、次いで、波打ち際が18.3%、砂浜が16.7%となっていた。

→ファーストエイドの発生場所は水中が多い。

2-5 発生場所別ファーストエイド数

	水中	波打ち際	砂浜	岩場	駐車場	水中構造物	階段	道	その他	計
度数	2081	969	885	1164	48	5	3	3	138	5296
%	39.3	18.3	16.7	22.0	0.9	0.1	0.1	0.1	2.6	100



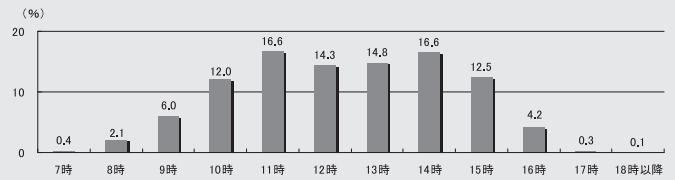
2-2. 時間帯別ファーストエイド数について

1時間ごとの時間帯別にファーストエイド発生数をみると、11時台・14時台がともに16.6%、13時台が14.8%、12時台が14.3%であった。11時～14時の時間帯を合わせると全体の62.3%を占め、約3分の2近くが昼前後の時間帯に集中して発生していた。来浜者数が昼前後にピークをむかえているためだと考えられる。また、昼食のため水中から陸上へ行動範囲が変わり、ケガに気がつく、または手当が受けやすいということも推測される。

→ファーストエイドは昼前後（11時～14時）に多く発生している。

2-2 時間帯別ファーストエイド数

	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時以降	計
度数	14	79	231	461	636	549	568	634	478	162	12	2	3826
%	0.4	2.1	6.0	12.0	16.6	14.3	14.8	16.6	12.5	4.2	0.3	0.1	100



2-3. 年齢別ファーストエイド数について

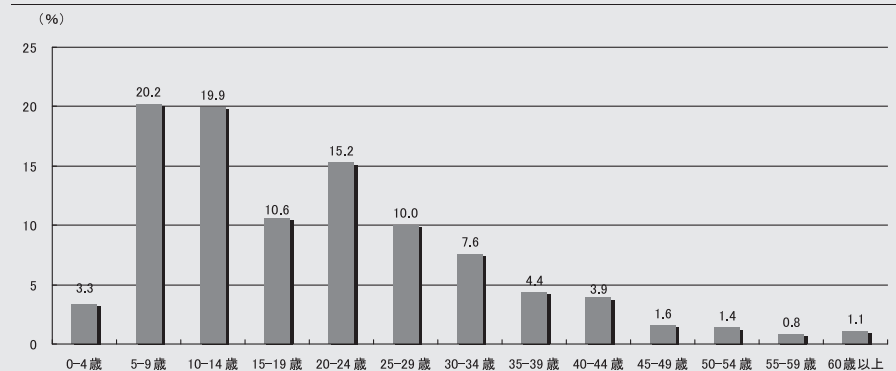
年齢別にファーストエイド発生数をみると、5～9歳が20.2%と最も多く、次いで、10～14歳が19.9%、20～24歳が15.2%となっていた。レスキューと同様、5歳～24歳が全体の65.9%を占め、多くのファーストエイドが若年層で施されていた。

ファーストエイドについても、特に小・中学生の年齢層に対する安全教育の必要性が浮き彫りとなる結果であった。子どもは行動が活発であるにも関わらず、ケガを予防する能力が低いと考えられる。

→ファーストエイドは小・中学生から20歳前半の若者に多い。

2-3 年齢別ファーストエイド数について

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	計
度数	131	794	782	414	598	394	299	171	153	61	53	31	43	3924
%	3.3	20.2	19.9	10.6	15.2	10.0	7.6	4.4	3.9	1.6	1.4	0.8	1.1	100



2.ファーストエイドの詳細について

JLAの有資格ライフセーバーたちが活動した全国206ヵ所の海水浴場（JLA登録数は212箇所）のうち、2010年2月1日までに報告された全国111ヵ所の海水浴場、計5,801人の集計結果をまとめた（回収率：53.9%）。症状別ファーストエイド数に限って、全国138ヵ所の海水浴場、計12,247人分の集計結果をまとめた。なお、集計データのうち未入力や不明と回答された箇所は省いた。

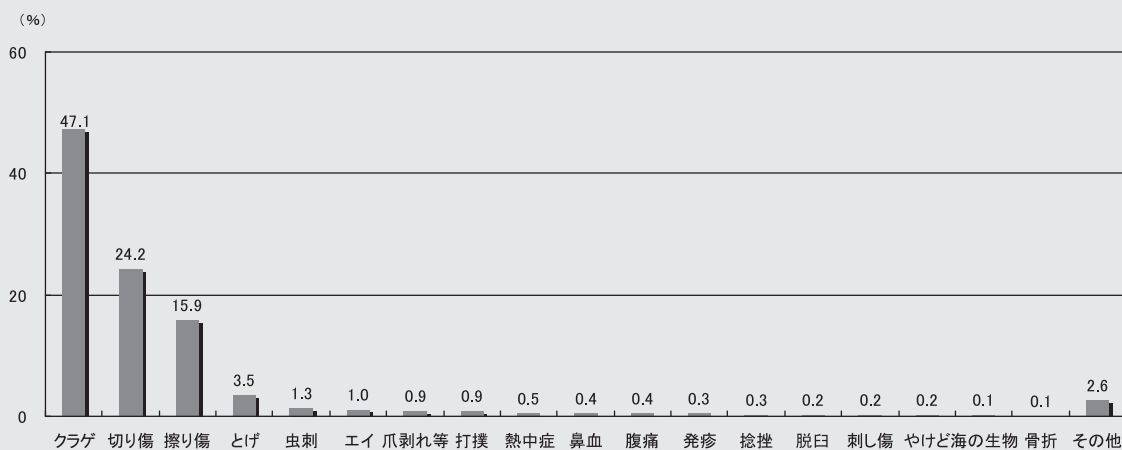
2-1. 症状別ファーストエイド数について

傷害別にファーストエイド発生数をみると、クラゲが47.1%と最も多く、次いで、切り傷が24.2%、擦り傷が15.8%となっていた。数は少ないが重症度の高いものとしては、例えば、頸椎損傷の疑いのあったケースが5名いた。その他には、けいれん、貧血、酒酔いなどが報告されていた。

→ファーストエイドのベスト3はクラゲ、切り傷、擦り傷である。

2-1 症状別ファーストエイド数

	クラゲ	切り傷	擦り傷	とげ	虫刺	エイ	爪剥れ等	打撲	熱中症	鼻血	腹痛	発疹	捻挫	脱臼	刺し傷	やけど	海の生物	骨折	その他	計
度数	5770	2965	1942	428	160	124	107	106	56	51	51	42	31	28	23	21	16	11	315	12247
%	47.1	24.2	15.9	3.5	1.3	1.0	0.9	0.9	0.5	0.4	0.4	0.3	0.3	0.2	0.2	0.2	0.1	0.1	2.6	100



1-7、8. 距離別、水深別レスキュー数について

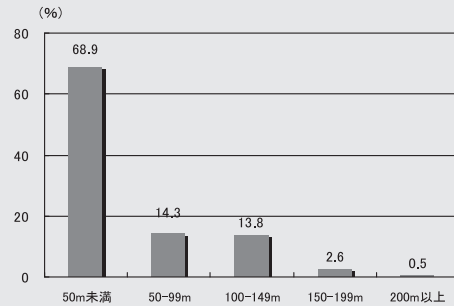
波打ち際からの距離別にレスキュー数をみると、50m未満が68.9%と最も多く、次いで、50m以上100m未満が14.3%であった。100m未満で発生したレスキューは全体の83.2%を占めていた。

波打ち際からの水深別にレスキュー数をみると、1.5～2.0mの範囲内で51.3%と多くなっていた。0m以上2.5m未満の足が届かなくなる前後の水深で、特に高い割合（86.3%）を示していた。

→レスキューは浜から近く足の届かなくなる前後の水深で多く発生している。

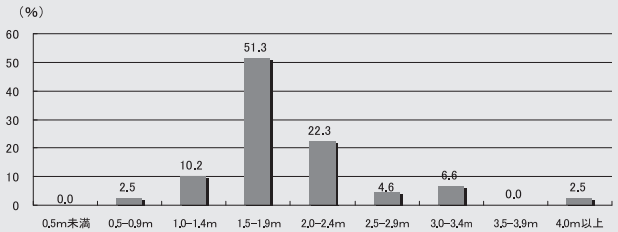
1-7 距離別レスキュー数

	50m未満	50-99m	100-149m	150-199m	200m以上	計
度数	135	28	27	5	1	196
%	68.9	14.3	13.8	2.6	0.5	100



1-8 水深別レスキュー数

	0.5m未満	0.5-0.9m	1.0-1.4m	1.5-1.9m	2.0-2.4m	2.5-2.9m	3.0-3.4m	3.5-3.9m	4.0m以上	計
度数	0	5	20	101	44	9	13	0	5	197
%	0.0	2.5	10.2	51.3	22.3	4.6	6.6	0.0	2.5	100



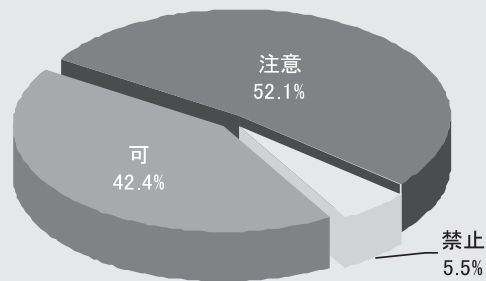
1-9. 遊泳条件別レスキュー数について

遊泳条件別にレスキュー数をみると、遊泳可の時は42.4%、遊泳注意の時が52.1%であった。また、遊泳禁止の場合でも77件（5.5%）のレスキューが発生しており、遊泳者に危険性を周知させるとともに、海に入れさせないことを徹底する必要がある。

→レスキューは海が比較的穏やかな時に多く発生している。

1-9 遊泳条件別レスキュー数

	可	注意	禁止	計
度数	590	726	77	1393
%	42.4	52.1	5.5	100



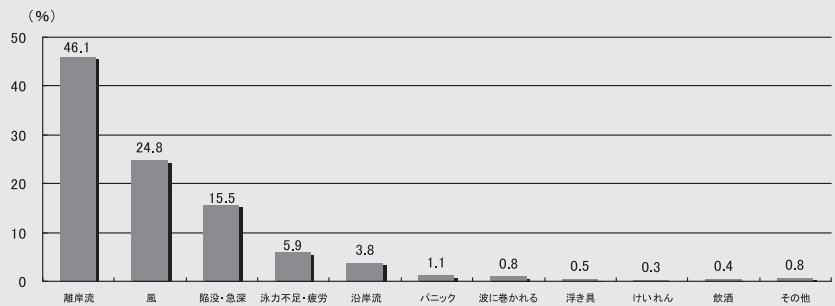
1-5. 原因別レスキュー数について

原因別にレスキュー数をみると、離岸流に流されたが46.1%と最も多く、次いで、風に流されたが24.8%、陥没・急深が15.5%となっていた。離岸流や沿岸流、風、海底の地形などの自然環境が原因となっていたレスキューは、全体の91.0%を占めていた。

→レスキューは離岸流、離岸流以外の潮流、風などの原因で起きている。

1-5 原因別レスキューの割合

	離岸流	風	陥没・急深	泳力不足・疲労	沿岸流	パニック	波に巻かれる	浮き具	けいれん	飲酒	その他	計
度数	873	470	293	112	72	21	16	10	5	8	15	1895
%	46.1	24.8	15.5	5.9	3.8	1.1	0.8	0.5	0.3	0.4	0.8	100

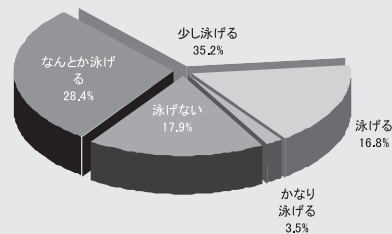


1-6. 被救助者の水泳能力について

被救助者の水泳能力について、少し泳げるが35.2%と最も多く、次いでなんとか泳げる（息継ぎ困難）が28.4%、泳げないが17.9%となっていた。全体の81.5%の被救助者が泳ぐことはあまり得意ではないと思っていた。また、泳げる、かなり泳げると答えた被救助者も18.5%おり、「泳げる者」でも救助されていた。

1-6 被救助者の水泳能力

	泳げない	なんとか泳げる	少し泳げる	泳げる	かなり泳げる	計
度数	238	377	467	223	22	1327
%	17.9	28.4	35.2	16.8	1.7	100



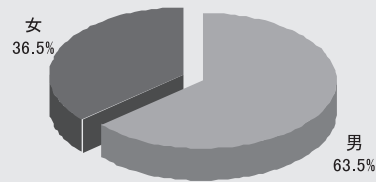
1-3. 性別レスキュー数について

性別でレスキュー数をみると、男性（63.5%）が女性（36.5%）よりも1.74倍多い。海水浴に参加する男性は女性よりも若干多い傾向にあると推測されるが、この割合はそれ以上に多いと考えられる。男性は女性よりも、行動範囲が広く、自己の能力を過大評価しやすい傾向があるからだと予想される。

→レスキューはどちらかといえば女性より男性に多い。

1-3 性別レスキューの割合

	男	女	計
度数	587	337	924
%	63.5	36.5	100



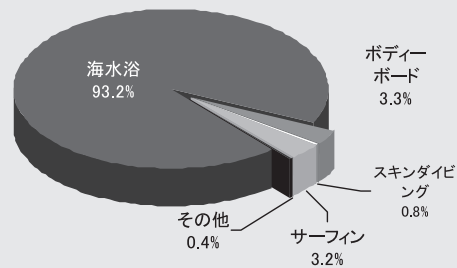
1-4. 事故時の行為別レスキュー数について

事故時の行為別にレスキュー数をみると、海水浴が93.2%とほとんどを占めていた。また、海水浴中における浮き具の使用状況をみてみると、60.6%が浮き具を使用し、39.4%が浮き具を使用していなかった。

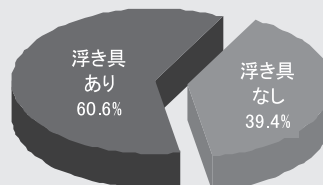
→レスキューは海水浴中にほとんど発生している。

1-4 事故時の行為別レスキュー数について

	海水浴	ボディボード	スキューバダイビング	サーフィン	その他	計
度数	1267	40	4	44	5	1360
%	93.2	2.9	0.3	3.2	0.4	100



浮き具あり	浮き具なし	計
768	499	1267
60.6	39.4	100



1. レスキューレポート

※日本ライフセービング協会レスキュー委員会『全国海水浴場パトロール統計2009』より抜粋

1. レスキューの詳細について

JLAの有資格ライフセーバーたちが活動した全国206ヵ所の海水浴場（JLA登録数は212箇所）のうち、2010年2月1日までに報告された全国121ヵ所の海水浴場、計1,415人分の集計結果をまとめた（回収率：58.7%）。なお、集計データのうち未入力や不明と回答された箇所は省いた。

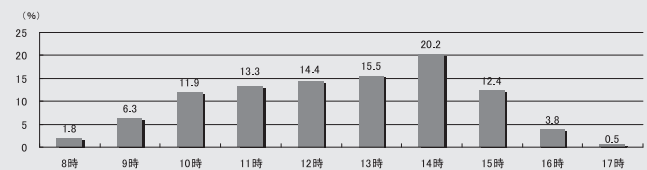
1-1. 時間帯別レスキュー数について

1時間ごとの時間帯別にレスキュー数をみると、14時台が20.2%と最も多かった。ただし、10時から15時の間は同程度の割合（約10%）でレスキューが発生し続けていた。この時間帯では多くの来浜者が海に入るため、遊泳者数と比例してレスキュー数が増加していると考えられる。

→レスキューは10時～15時に数多く発生している。

1-1 時間帯別レスキューの割合

	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	計
度数	15	51	97	108	117	126	165	101	31	4	815
%	1.8	6.3	11.9	13.3	14.4	15.5	20.2	12.4	3.8	0.5	100



1-2. 年齢別レスキュー数について

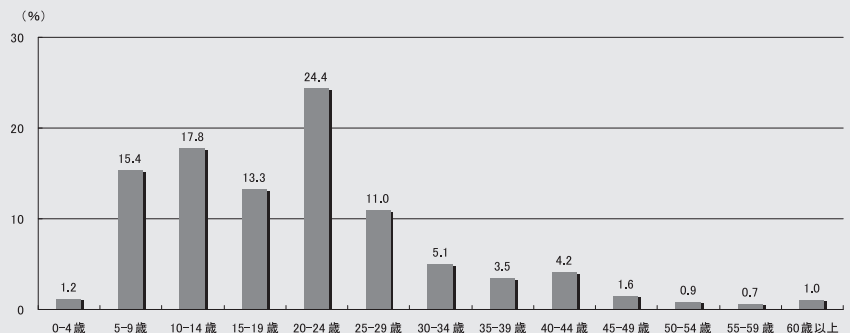
年齢別にレスキュー数をみると、20～24歳が24.4%と最も多く、次いで、10～14歳が17.8%、5～9歳が15.4%となっていた。5～14歳という小・中学生の年齢層が全体の33.2%、また、5歳から25歳までが全体の70.9%を占めており、多くのレスキューが若年層で発生していた。

若年層、特に小・中学校での安全教育の必要性が示唆される。

→レスキューは小・中学生から20歳前半の若者にかけた若年層に多い。

1-2 年齢別レスキューの割合

	0-4歳	5-9歳	10-14歳	15-19歳	20-24歳	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60歳以上	計
度数	9	118	136	102	187	84	39	27	32	12	7	5	8	766
%	1.2	15.4	17.8	13.3	24.4	11.0	5.1	3.5	4.2	1.6	0.9	0.7	1.0	100



Section3

- 1 レスキューレポート
- 2 大会結果
- 3 日本代表 大会結果
- 4 パートナーシップ一覧
- 5 器材支援一覧
- 6 メディア露出一覧

